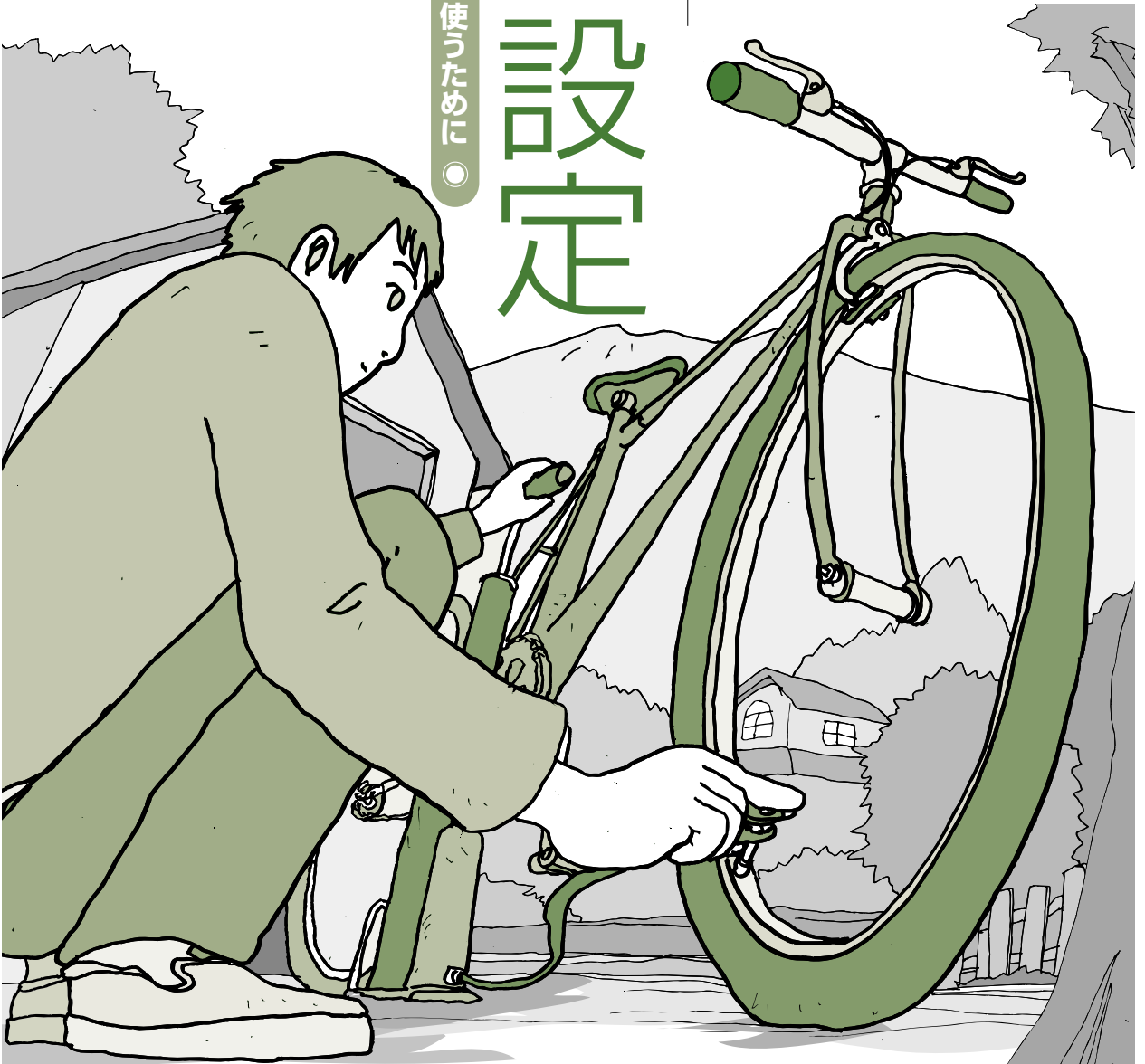
VALUESTAR W

2 準備と設定

◎「あなたのパソコン」として使うために◎

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、パソコン内部に機器を
取り付ける方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-607-A2

『準備と設定』の読み方

第1章～第3章まで

「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

パソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windows やテレビのセットアップ）手順を説明しています。
本機をテレビとして使いたいかたは、この章を読んで設定すると使えるようになります。

第4章

「基本中の基本の操作」

パソコンの始め方／終わり方、音量調節、CD-ROM やDVDなどのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章

「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章

「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章

「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章

「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンにメモリを取り付ける方法を説明しています。

853-810601-607-A2
2007年1月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

注意 人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害の発生が想定される内容を示します。

障害や事故の発生を防止するための指示事項は、次のマークで表しています。

 使用者に対して指示に基づく行為を強制するものです。

 一般禁止
その行為を禁止します。

その他の指示事項は、次のマークで表しています。

そのページで説明している手順で、特に大切なことです。

 してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーやリモコンのボタンを指します。
DVD/CD ドライブ	ブルーレイディスクドライブを指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。 「サポートナビゲーター」は、デスクトップの(サポートナビゲーター（電子マニュアル））をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル（機種）を指します。
ブルーレイディスクドライブモデル	ブルーレイディスクドライブ（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）を搭載しているモデルのことです。
デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/CS)モデル	地上アナログ放送、地上デジタル放送、BS・110度CSデジタル放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
デジタルハイビジョンTV（地デジ）モデル	地上アナログ放送、地上デジタル放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
RAID 機能搭載モデル	RAID 機能を搭載しているモデルのことです。
インテル® Viiv™ テクノロジーモデル	インテル® Viiv™ テクノロジーを搭載したモデルのことです。

Windows Vista Home Premium モデル
Windows Vista™ Home Premiumがあらかじめインストールされているモデルのことです。

Office 2007 モデル
Office Personal 2007 またはOffice Personal 2007 とPowerPoint 2007 が添付されているモデルのことです。

Office Personal 2007 モデル
Office Personal 2007 が添付されているモデルのことです。

Office Personal 2007 with PowerPoint 2007 モデル
Office Personal 2007 とPowerPoint 2007 が添付されているモデルのことです。

シリーズ名	型名 (型番)	表記の区分						
		DVD/CD ドライブ	ディスプレイ	TV 機能	トリプルメモリースロット	RAID 機能	OS	添付ソフト
VALUESTAR W	VW990/HG (PC-VW990HG)	ブルーレイディスクドライブモデル	32 型ワイド液晶ディスプレイ	デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/CS)モデル	トリプルメモリースロット搭載モデル	RAID 機能搭載モデル	Windows Vista Home Premium モデル	Office Personal 2007 モデル
	VW790/HG (PC-VW790HG)		20 型ワイド液晶ディスプレイ	デジタルハイビジョンTV(地デジ)モデル		−		

◆ VALUESTAR G シリーズについて

VALUESTAR Gシリーズの各モデルについては、添付の『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の画面やイラスト、ホームページについて

・ 本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
・ 記載しているホームページの内容やアドレスは、このマニュアル制作時点のものです。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows Vista	Windows Vista™ Home Basic Windows Vista™ Home Premium Windows Vista™ Business Windows Vista™ Ultimate
Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office Personal 2007	Microsoft® Office Personal 2007（Microsoft® Office Word 2007、Microsoft® Office Excel 2007、Microsoft® Office Outlook® 2007、（Microsoft® Office ナビ 2007））
Office Personal 2007 with PowerPoint 2007	Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007
Outlook、Outlook 2007	Microsoft® Office Outlook® 2007
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
Windows 転送ツール	Windows® 転送ツール
Windows Media Center、Media Center	Windows® Media Center
「スタート」、「スタート」ボタン	Windows Vista™ スタート ボタン
ウイルスバスター	ウイルスバスター™2007 トレンド フレックス セキュリティ

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3) 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows Vista™ Home Basic、Windows Vista™ Home Premium、Windows Vista™ Business または Windows Vista™ Ultimate および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

目次

『準備と設定』の読み方 ……… 巻頭
このマニュアルの表記について ……… ii

第1章 **箱を開けて最初にすること ……… 1**
はじめに ……… 2
添付品はそろっていますか？ ……… 3
型番と製造番号を確認する ……… 4
パソコンの置き場所を決める ……… 5

第2章 **電源を入れる前に接続しよう ……… 9**
テレビを見るために準備するもの ……… 10
アンテナ線の種類 ……… 11
アンテナ線を接続する ……… 12
B-CAS カードをセットする ……… 14
キーボードを使う準備をする ……… 15
マウスを使う準備をする ……… 18
リモコンを使う準備をする ……… 21
ガジェットスペース用スタンドを取り付ける ……… 22
電源ケーブルを接続する ……… 25

第3章 **セットアップを始める ……… 27**
電源を入れる ……… 28
パソコンの設定を始める ……… 30
画面を見ながら手順を進める ……… 33
キーボードを使って名前を入れる ……… 34
121 ポップリンクを設定する ……… 39
ソフトを使えるようにする ……… 40
ここで一段落 ……… 45
Windows のパスワードを設定する ……… 47
テレビの設定を始める ……… 49
設定ができたか確認する ……… 54
テレビをつける／消すには ……… 57
テレビの設定が終わったら ……… 60
テレビが見られない／放送局が見つからないときは ……… 61
お客様登録のお願い ……… 65

テレビを見るために必要な作業

第4章 基本中の基本の操作 ... 67
パソコンを終了する ... 68
パソコンを使い始める ... 72
省電力機能について ... 74
よく使うボタンなど ... 78
音量を調節する ... 80
CD-ROMやDVDの扱い方 ... 81
キーボードを収納する ... 84
パソコンがはじめてのかたへ ... 87
パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について ... 91
もしものときに備えて ... 96

第5章 これからインターネットを始めるかたへ ... 99
インターネットの魅力 ... 100
いろいろある接続方法 ... 101
ブロードバンド接続の流れ ... 102
プロバイダに入会する ... 104
ルータを利用したブロードバンド接続の設定 ... 108
ブロードバンド接続の設定 ... 112
インターネットに接続する ... 114
メールソフトを設定する ... 115
パソコンを安全に使うための設定をおこなう ... 119

第6章 パソコンを買い替えたかたへ ... 125
インターネットを使えるようにする ... 126
古いパソコンからデータを移す ... 128
周辺機器を使えるようにする ... 131
ソフトを移す ... 132

第7章 前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ ... 133
ホームネットワークでできること ... 134
複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ ... 136

第8章 パソコン内部に取り付ける ... 139
メモリ ... 140

テレビ放送の受信環境を確認する..152
RAID 機能について（RAID 機能搭載モデルのみ）.................................162
Viiv™ デジタルメディアサーバを使う...170
パソコンのお手入れ..176
ケーブルカバーの取り外し方と取り付け方...178
DVD/CD ドライブからディスクが取り出せなくなったときは............180
キーボードとマウスを登録しなおす..182
アフターケアについて...185
パソコンの譲渡、廃棄、改造について...186
仕様一覧..190
「サポートナビゲーター」詳細目次..198
索引...201
各部の名称..巻末

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第1章

箱を開けて最初にすること

テレビとして本機を
使う場合も
この章の作業が必要です

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。また、パソコンの置き場所を決めましょう。

この章の所要時間：約10分

はじめに 2
添付品はそろっていますか？ 3
型番と製造番号を確認する 4
パソコンの置き場所を決める 5

はじめに

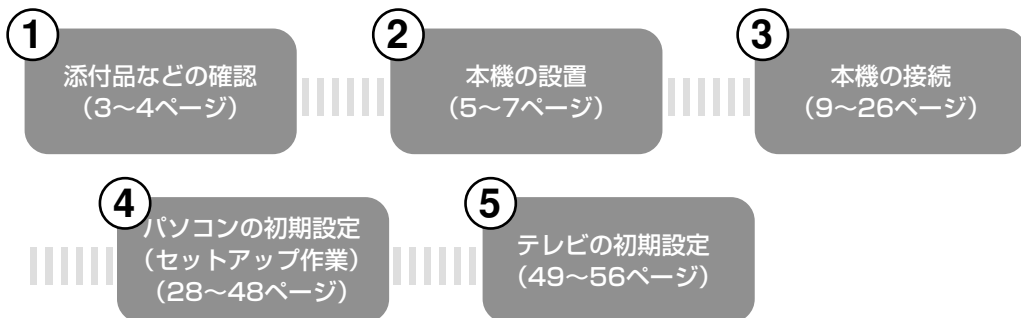
ポイント
- テレビとして使う場合も、パソコンの準備が必要
- マニュアルのイラストについて

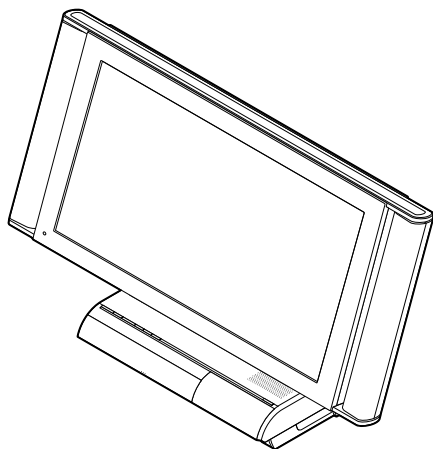
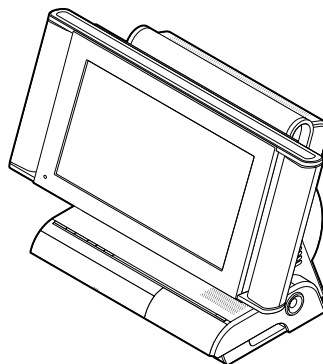
接続とセットアップ作業について

このマニュアルの第１章から第３章では、ご購入後、箱から取り出してから、パソコンとテレビが使えるようになるまでを説明しています。
まずはこのマニュアルの説明を読んで、パソコンとテレビを使えるようにしましょう。

本機をパソコンとしてではなく、テレビとしてお使いになりたいお客様も、パソコンとしての接続、設定が必要です。

設定の流れ

1. 添付品などの確認（3〜4ページ）
2. 本機の設置（5〜7ページ）
3. 本機の接続（9〜26ページ）
4. パソコンの初期設定（セットアップ作業）（28〜48ページ）
5. テレビの初期設定（49〜56ページ）

2種類のディスプレイ

32型ワイド液晶ディスプレイモデル

20型ワイド液晶ディスプレイモデル

本文中のディスプレイのイラストは、断りのないかぎり、20型ワイド液晶ディスプレイモデルのイラストを使用しています。

添付品はそろっていますか？

ポイント
- 『スタートシート』で確認

1 『スタートシート』を見る

マニュアルセットの中に『スタートシート』が入っています。『スタートシート』の「①添付品を確認しよう」を見て、添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

VALUESTAR G シリーズをご購入の場合は、『VALUESTAR G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

困ったときには…
NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター
0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

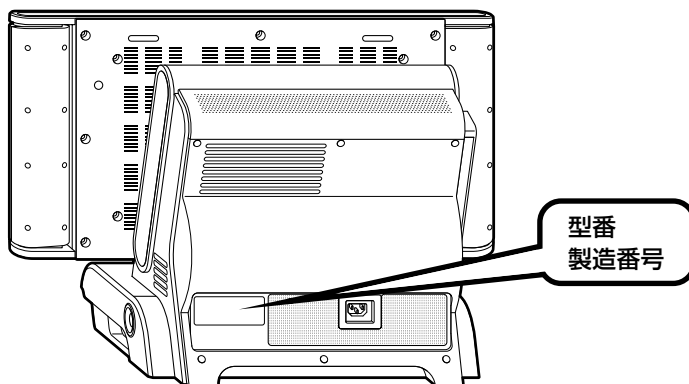
添付品の内容はモデルにより異なる場合があります。

型番と製造番号を確認する

ポイント

● 保証書と本体のラベルが一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

2 パソコン本体のラベルと一致しているか確認する

・記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

・保証書は、所定事項(販売店名、お買い上げ日など)が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの置き場所を決める

ポイント

- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気を付ける

1 パソコンの設置環境

◆屋内であること

屋外には設置しないでください。

◆しっかりした台の上

パソコンの重さを安定して支えられるテーブル、机を選んでください。

◆温度は 10 ～ 35℃、湿度は 20 ～ 80%

室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴がついてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに 1 時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

◆ホコリの少ない場所

ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因になることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

パソコンを設置したり移動したりするときは、ディスプレイ左右にあるスピーカの下部を持たないでください。スピーカが破損するおそれがあります。

2 パソコン周囲の広さ

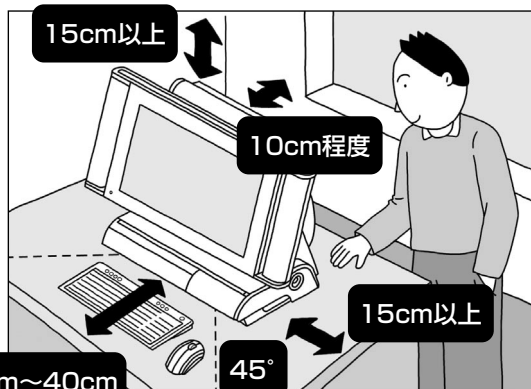
本体前に 30 ～ 40cm

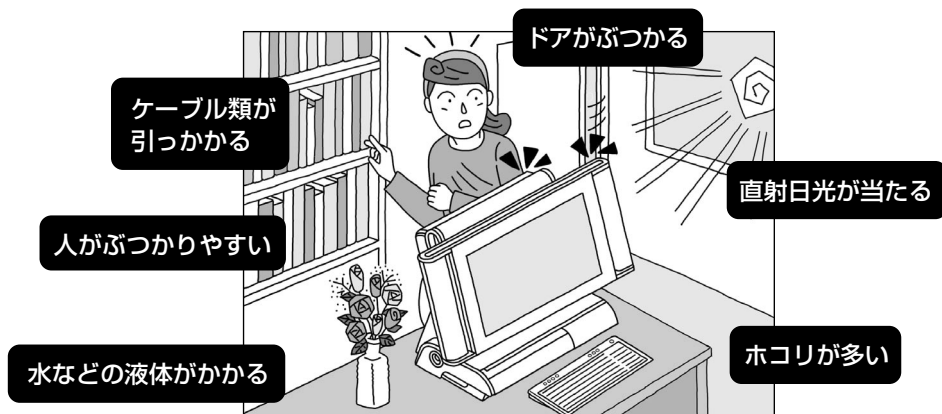
キーボードを置き、ゆったりマウスを操作できる広さが必要です。
また、キーボードとマウスは、パソコン本体から45度の範囲で使用することをおすすめします。

本体後ろに 10cm 程度

本体の後ろ側に通風孔やコネクタがあるため、壁などから10cm程度離してください。

本体側面にも 15cm 以上

本体の側面は、通風孔をふさがないように15cm 以上の空間を確保してください。

パソコンを使っているときは、本体の上に紙や布を置いて通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

3 こんな場所にはパソコンを置かないで!

小さなお子さんがいる場合は、ケーブルの付いた機器をお子さんが落としてしまうことがあるので、十分気を付けてください。

4 コンセントや電話回線などの近くに置く

◆コンセントについて

・ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、これらの機器とは別のコンセントに接続してください。
・添付の電源ケーブルを直接コンセントに接続してください。
・コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。

◆電話回線について

インターネットを利用するときは、電話回線ケーブル（モジュラケーブル）が電話回線の接続口（モジュラコンセント）に届く範囲にパソコンを設置してください。インターネットに接続するための機器（ケーブルモデムやルータなど）を利用するときは、それらの機器の近くにパソコンを設置します。

◆アンテナ線について

パソコンでテレビを楽しむには、アンテナ線の位置や長さに注意が必要です。アンテナ線の接続については、「アンテナ線を接続する」（12ページ）をご覧ください。

5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

◆扇風機や大型のスピーカ、温風式こたつなど（磁気を発生するもの）

強い磁気を発生する装置が近くにあると、ディスプレイの表示や色が乱れることがあります。パソコン用スピーカなど、磁気をもらさないように設計された装置であれば、近くに置いてもかまいません。

◆ストーブなどの暖房器具

暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

◆ほかのディスプレイやテレビ、ラジオ

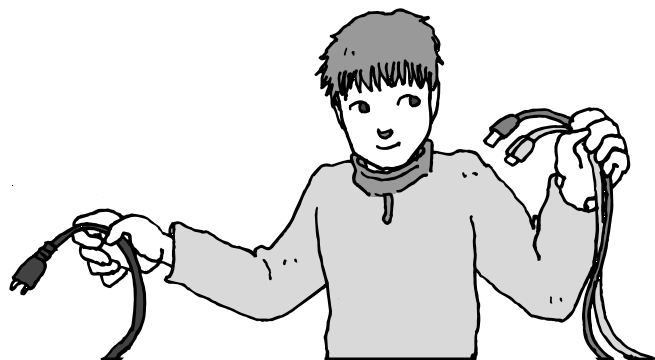
ほかのディスプレイやテレビの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。テレビやラジオの音声に雑音が入ることがあります。

◆コードレス電話、携帯電話

通話中に雑音が入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカに雑音が入ることがあります。

第 2 章

電源を入れる前に接続しよう

テレビとして本機を
使う場合も
この章の作業が必要です

パソコン本体の置き場所を決めたら接続です。キーボードとマウスを使う準備もします。じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次ページから順番に作業を進めてください。電源ケーブルの接続は最後ですよ。

この章の所要時間：約20分

テレビを見るために準備するもの **10**

アンテナ線の種類 **11**

アンテナ線を接続する **12**

B-CASカードをセットする **14**

キーボードを使う準備をする **15**

マウスを使う準備をする **18**

リモコンを使う準備をする **21**

ガジェットスペース用スタンドを取り付ける **22**

電源ケーブルを接続する **25**

インターネットや周辺機器は後から接続

ここではまだ、インターネットには接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第３章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、インターネットや周辺機器の接続をおこないます。

テレビを見るために準備するもの

本機に添付されていないものについては、市販品を用意してください。

ポイント
● テレビを見るための接続と設定に必要なものを準備します

本機に添付されているもの

接続と設定をするためには、次の添付品を使います。
添付品について詳しくは『スタートシート』をご覧ください。

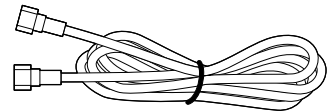
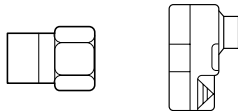
- □ 電源ケーブル
- □ キーボード
- □ マウス
- □ リモコン
- □ キーボード、マウス用乾電池（単３形×４本）
- □ リモコン用乾電池（単４形×２本）
- □ B-CAS カード（ビーキャスカード）

別に用意するもの

本機には添付されていません。別に、市販のものを用意してください。

必ず用意するもの

□ F型コネクタプラグ付きアンテナケーブル※

※：ご購入されたモデルやご家庭のアンテナの種類によって、必要なアンテナケーブルの本数が異なります。詳しくは、次ページの「アンテナの種類」をご覧ください。

F型コネクタプラグ付きアンテナケーブルは、コネクタの片方、または両方の形状がネジタイプのものを用意してください。ネジタイプ以外のコネクタでは、ノイズの影響によって正常に放送を受信できない場合があります。片方のみネジタイプの場合は、パソコン本体側にネジタイプのコネクタを接続してください。

ネジタイプ

箱型

必要に応じて用意するもの

ご家庭のアンテナ線の種類によって、次のものが必要になる場合があります。

- □ 分波器
- □ 混合機
- □ 平行フィーダ線と同軸ケーブルの整合器

アンテナ線の種類

ご家庭のテレビアンテナの種類によって、接続方法が異なります。
ここでは、次の２つのパターンについて説明します。
そのほかの方法や、接続方法の確認については、「テレビ放送の受信環境を確認する」（152 ページ）をご覧ください。

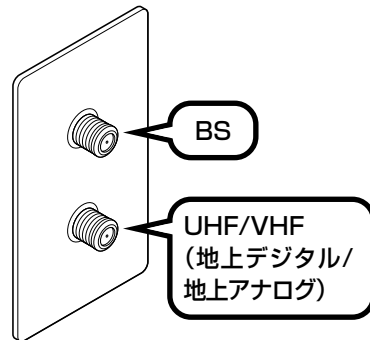
ポイント
● ご家庭の状況によって、接続が異なる

パターン1

壁側にアンテナコネクタが２つ（UHF/VHF 混合と BS）ある場合

この場合は、次のものが必要です。
・F 型コネクタプラグ付きアンテナケーブル※

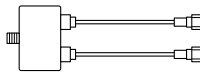
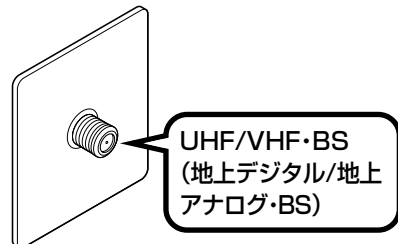
※モデルによって必要な本数が異なります。
・32 型ワイド液晶ディスプレイモデル：２本
・20 型ワイド液晶ディスプレイモデル：１本

F 型コネクタプラグ付き
アンテナケーブル

12 ページに進む
パターン2

壁側にアンテナコネクタが１つ（UHF/VHF/BS の混合）ある場合

この場合は、次のものが必要です。
・UHF/VHF と BS の分波器※ 1
・F 型コネクタプラグ付きアンテナケーブル※ 2

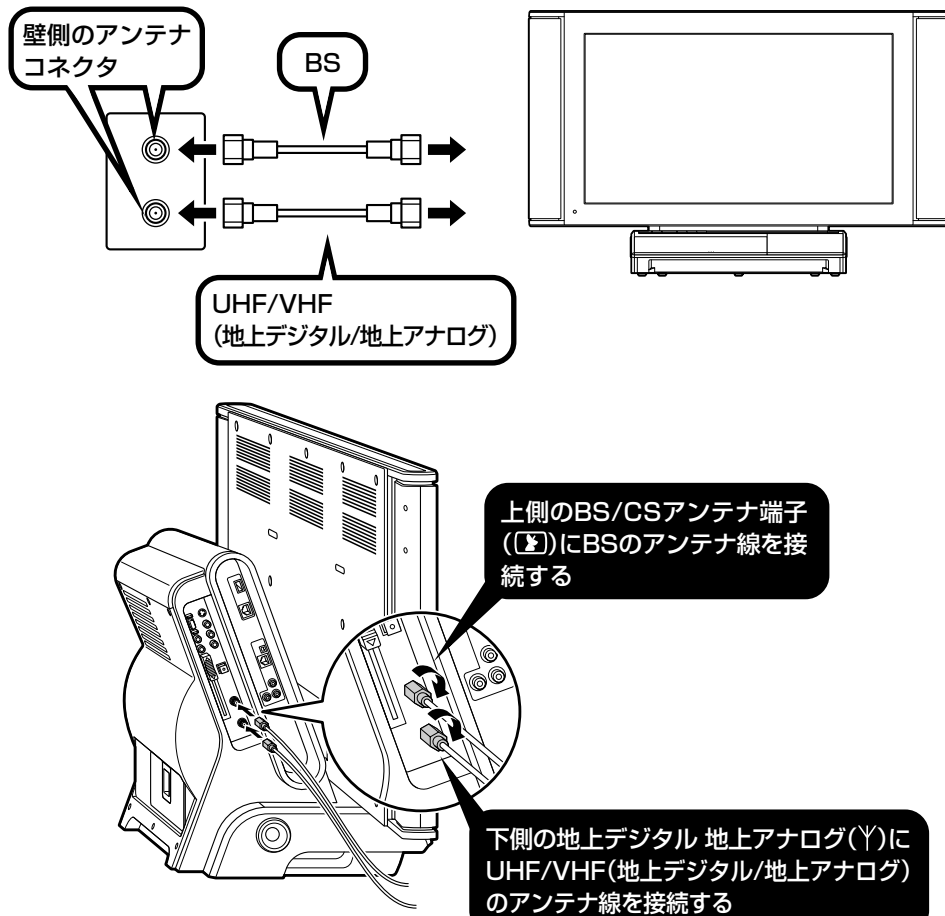
※ 1：20 型ワイド液晶ディスプレイモデルでは必要ありません。
※ 2：分波器の種類によって、必要な本数が異なります。詳しくは分波器のマニュアル、または電器店にお問い合わせください。

F 型コネクタプラグ付き
アンテナケーブル

分波器

13 ページに進む

アンテナ線を接続する

パターン1のアンテナ線の接続方法

本機左側面にある上側のBS/CSアンテナ端子（）にBSのアンテナ線、下側の地上デジタル 地上アナログ（Y）にUHF/VHF（地上デジタル/地上アナログ）のアンテナ線を接続します。F型コネクタプラグのネジは、回らなくなるまでしっかり締めてください。

20型ワイド液晶ディスプレイモデルの場合は、UHF/VHF（地上デジタル/地上アナログ）のアンテナ線を本機左側面の地上デジタル 地上アナログ（Y）に接続してください。20型ワイド液晶ディスプレイモデルでは、BS・110度CSデジタル放送を受信できません。

「B-CASカードをセットする」（14ページ）に進む

パターン2のアンテナ線の接続方法

壁のアンテナコネクタに市販のUHF/VHFとBSの分波器を接続し、本機左側面にある上側のBS/CSアンテナ端子（）にBSのアンテナ線、下側の地上デジタル 地上アナログ（Y）にUHF/VHF（地上デジタル/地上アナログ）のアンテナ線を接続します。
F型コネクタプラグのネジは、回らなくなるまでしっかり締めてください。

20型ワイド液晶ディスプレイモデルの場合、分波器は必要ありません。壁側のアンテナコネクタと本機左側面の地上デジタル 地上アナログ（Y）をF型コネクタプラグ付きアンテナケーブルで接続してください。20型ワイド液晶ディスプレイモデルでは、BS・110度CSデジタル放送を受信できません。

壁側のアンテナコネクタ

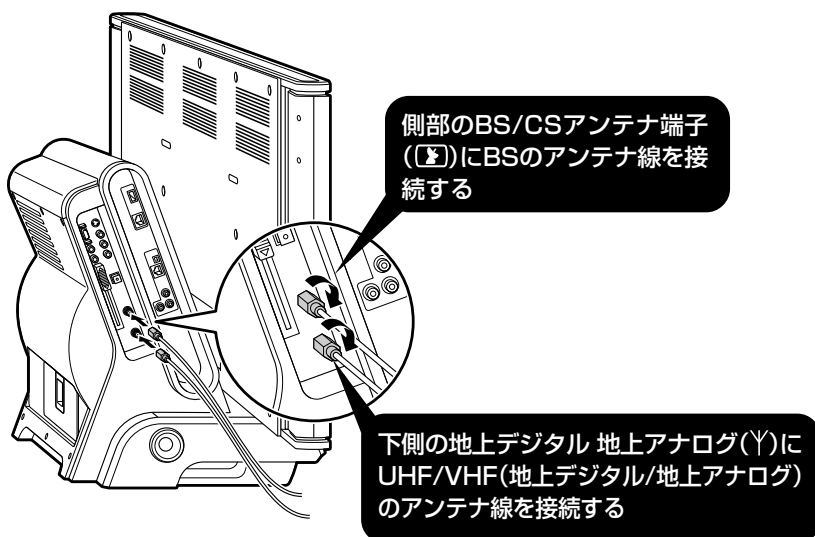
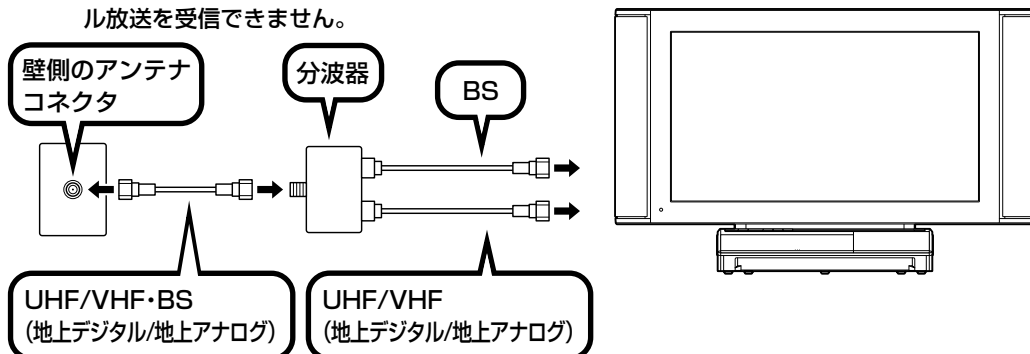
分波器

BS

UHF/VHF・BS
(地上デジタル/地上アナログ)

UHF/VHF
(地上デジタル/地上アナログ)

側部のBS/CSアンテナ端子()にBSのアンテナ線を接続する

下側の地上デジタル 地上アナログ(Y)にUHF/VHF(地上デジタル/地上アナログ)のアンテナ線を接続する

「B-CASカードをセットする」(14ページ)に進む

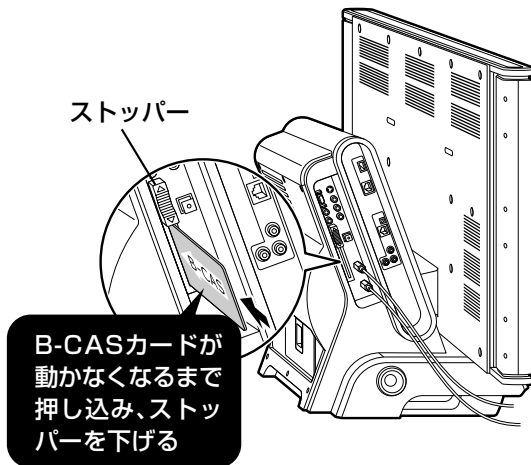
B-CASカードをセットする

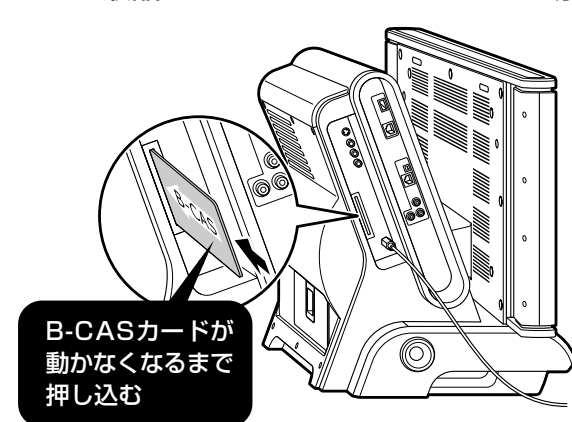
デジタル放送を受信するためには、本機に添付されている「B-CAS カード（ビーキャスカード）」をセットする必要があります。B-CASカードをセットしないと、デジタル放送を受信できません。
B-CAS カードについて詳しくは『テレビを楽しむ本』付録の「B-CAS カードについて」をご覧ください。

ポイント
● B-CAS カードは必ずセットする

B-CASカードのセット方法

下の図の向きに、B-CAS カードをセットします。

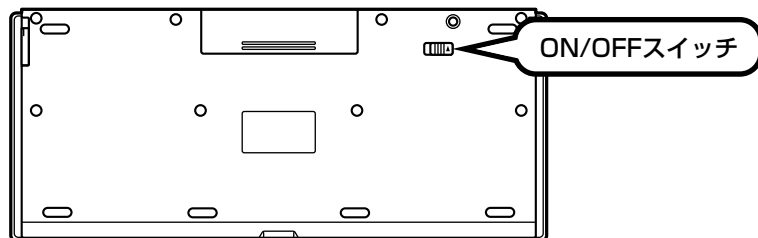
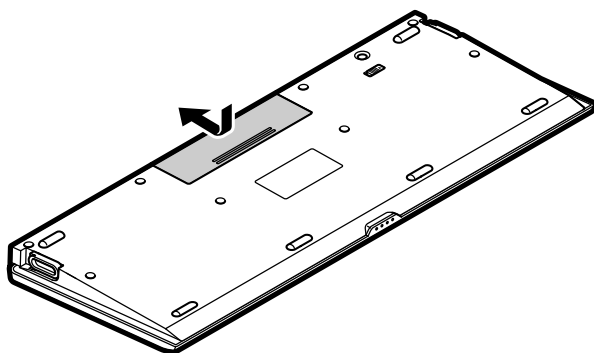
32 型ワイド液晶ディスプレイモデルの場合

- B-CAS カードの向きに注意してセットしてください。
- 必ずストッパーを下げてください。ストッパーを下げないと、デジタル放送が受信できません。

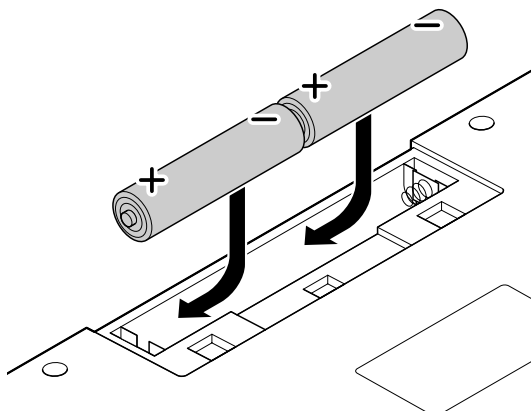
20 型液晶ワイドディスプレイモデルの場合

B-CAS カードの向きに注意してセットしてください。

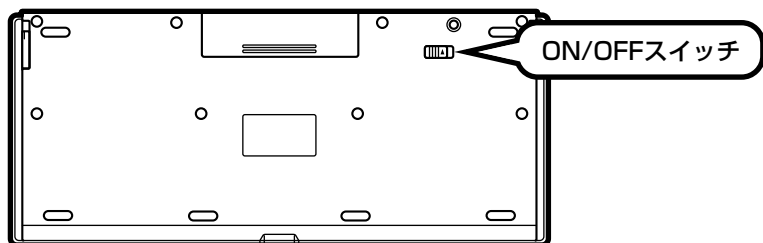
キーボードを使う準備をする

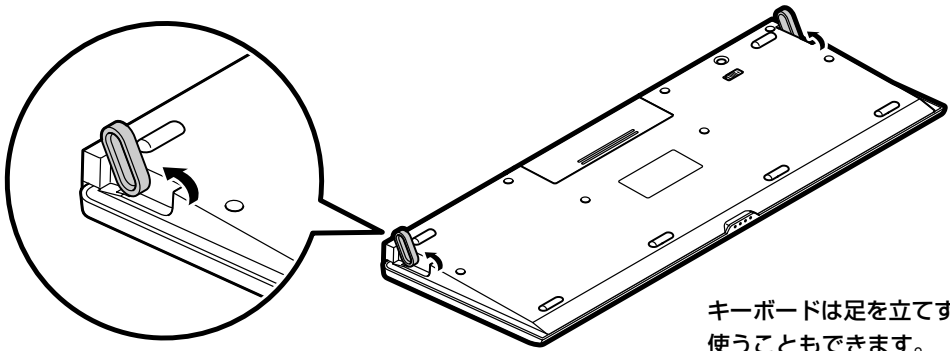
ポイント

- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 キーボード裏面のON/OFFスイッチを「OFF」にする

2 キーボード裏面のカバーを外す

3 乾電池を入れる

単３形アルカリ乾電池２本を入れます。入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

- 乾電池の＋（プラス）と−（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご使用の環境や方法にもよりますが、キーボードの使用時間は連続使用で約３００時間です。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、マンガン乾電池、オキシライド乾電池は使用できません。

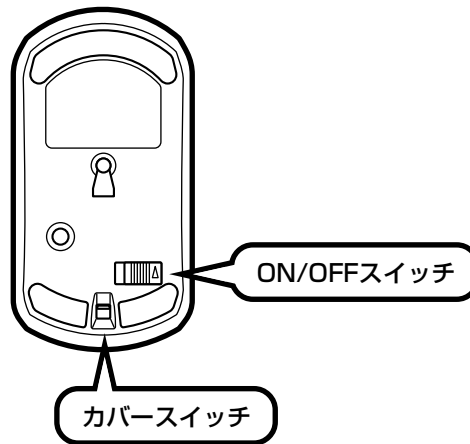
4 キーボード裏面のON/OFFスイッチを「ON」にする

キーボードを長時間使わないときは、キーボード裏面のON/OFFスイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

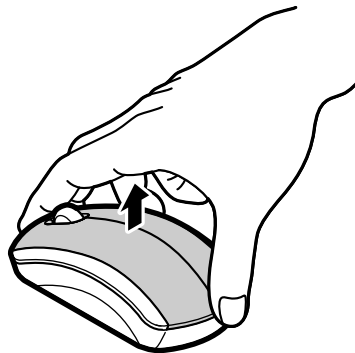
5 キーボードの足を立てる

キーボードは足を立てずに
使うこともできます。

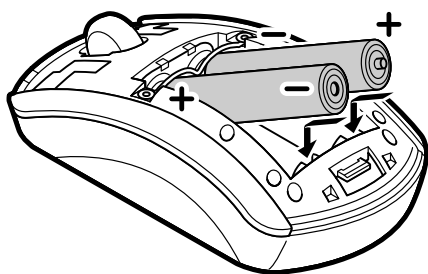
キーボードがうまく動作しないときは、付録の「キーボードとマウスを登録しなおす」(182ページ)をご覧ください。

マウスを使う準備をする

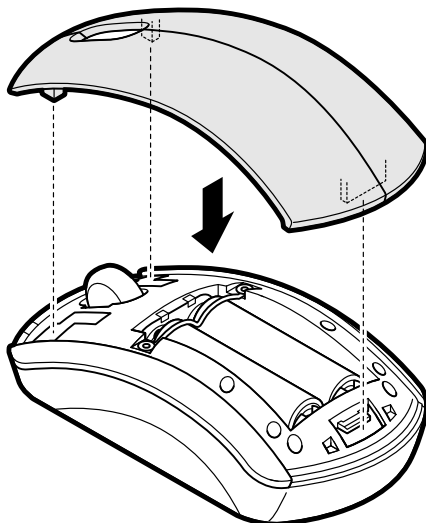
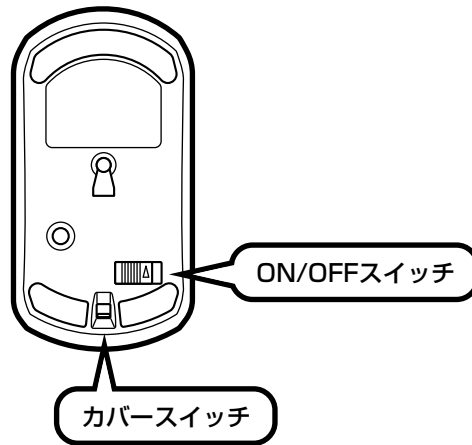
ポイント
- カバーを外して乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にし、カバースイッチを「RELEASE」にする

2 カバーを上に持ち上げて外す

カバーは片方だけ持ち上げると外れにくくなります。前後同時に持ち上げるようにしてください。

3 乾電池を入れる

図のように、単３形アルカリ乾電池をマウスの前方に向けて押し込んでから、後方を端子に合わせて入れてください。

- 乾電池の＋（プラス）と−（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- マウスの後方の端子が変形しないように乾電池を入れてください。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、マンガン乾電池、オキシライド乾電池は使用できません。

4 カバーをもとどおりはめる

カバー前後のツメが穴に入るようにはめてください。

5 マウス底面のカバースイッチを「LOCK」にし、ON/OFFスイッチを「ON」にする

・マウス底面から出ている光を直接見ないでください。

・マウスの電池寿命は、ご使用の環境や方法にもよりますが、連続して操作した場合最大約60時間です。約2.5か月間使用可能です。

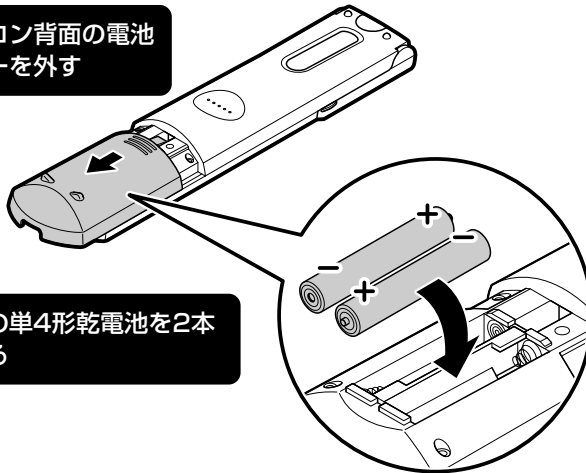
・マウスを長時間使わないときは、マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

マウスがうまく動作しないときは、付録の「キーボードとマウスを登録しなおす」（182ページ）をご覧ください。

リモコンを使う準備をする

ポイント

- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

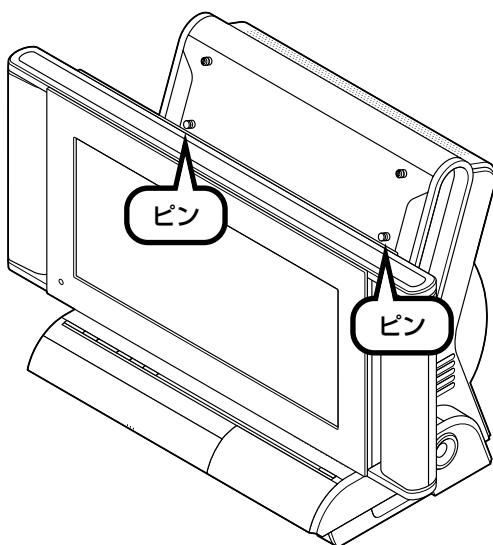
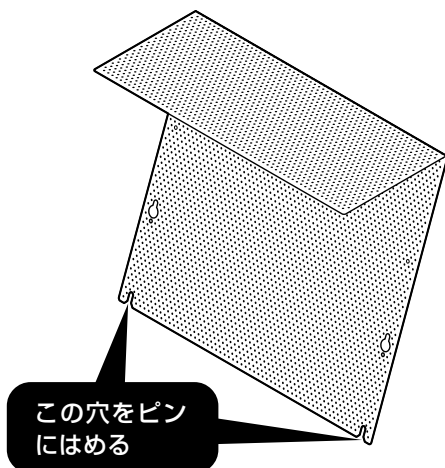
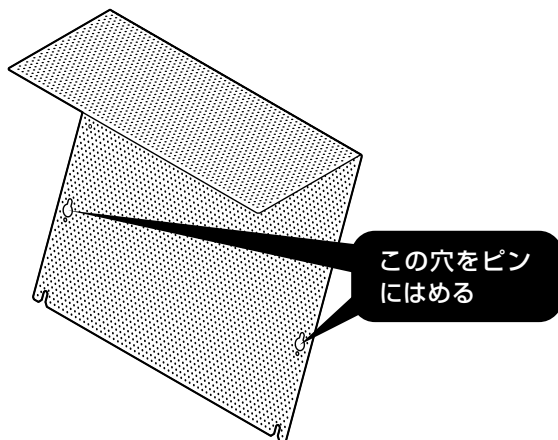
1 リモコンに乾電池を入れる

入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

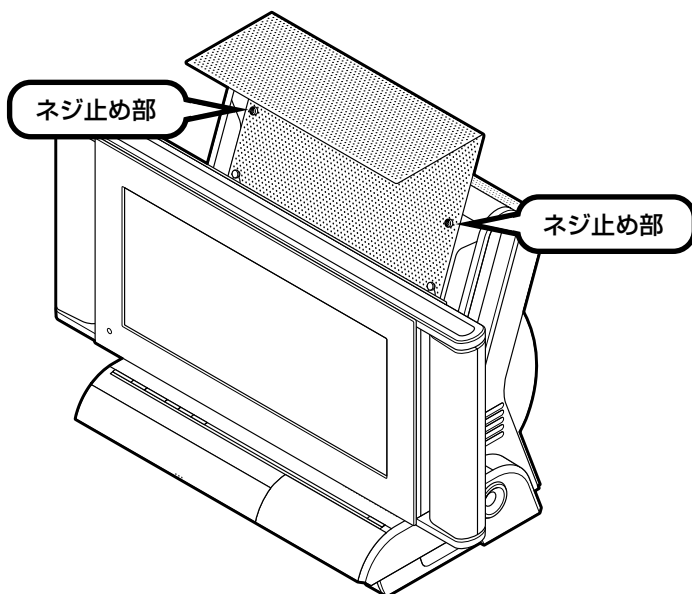
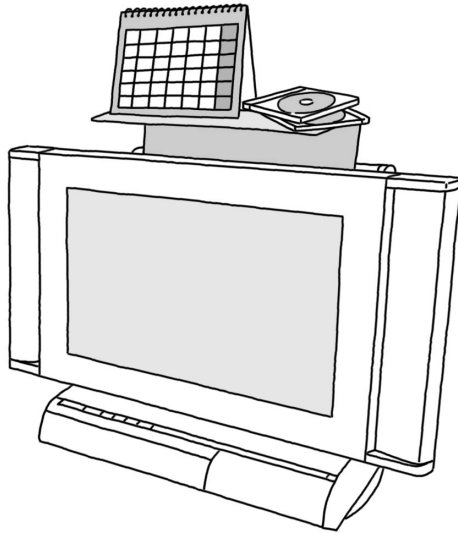
- 乾電池の＋（プラス）と－（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。お早めに新しい乾電池と交換することをおすすめします。
- 乾電池を交換する際は、単４形のマンガン乾電池またはアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池、オキシライド乾電池は使用できません。

ガジェットスペース用スタンドを取り付ける

このパソコンにはガジェットスペース用スタンドが添付されています。取り付けると、パソコンの上に小物類などを置くスペースができます。

ガジェットスペース用スタンドは、セットアップが終わった後で取り付けてもかまいません。

1 本体側にあるピン2か所に、ガジェットスペース用スタンドの穴をはめる

32型ワイド液晶ディスプレイの場合

20型ワイド液晶ディスプレイの場合

2 添付のネジでガジェットスペース用スタンドを固定する

2本のネジで、ガジェットスペース用スタンドをしっかり固定してください。

ガジェットスペースを使う

ガジェットスペースの上に小物などを置いてお使いください。

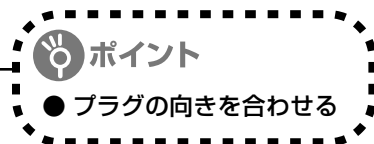
⚠注意

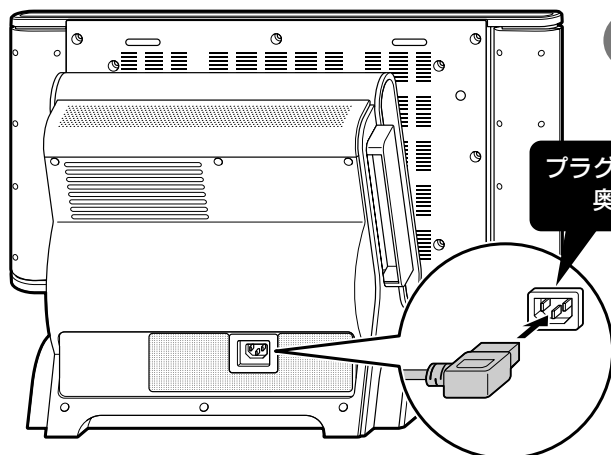
●**ガジェットスペースには、こわれやすいものや重いもの(1kg以上のもの)を載せないでください。**
載せたものが落ちて、けがの原因になります。

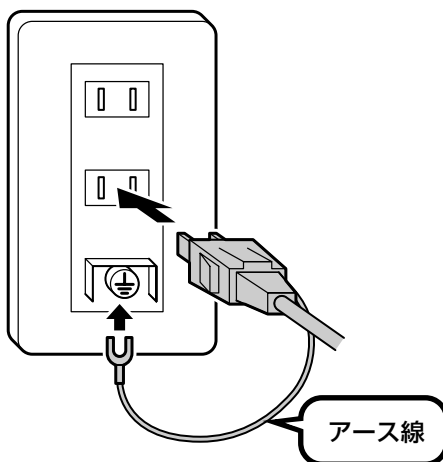
●**花瓶など液体を含んだものを載せないでください。**
振動などで落下して、本機の火災や故障の原因になります。

●**ガジェットスペース用スタンドとパソコン本体の間に手をはさまないように注意してください。**
けがのおそれがあります。

液晶ディスプレイの角度を変える際は、本体と液晶ディスプレイの間に、ガジェットスペースから小物などが落ちてはさまっていないか、確認してください。
ものがはさまったまま液晶ディスプレイの角度を変えると、本機が故障するおそれがあります。

電源ケーブルを接続する

● プラグの向きを合わせる

1 電源ケーブルをパソコン本体に接続する

モデルによって、ディスプレイ背面の形状は異なる場合があります。

2 もう一方のプラグをコンセントに差し込む

先にアース線を接続してから、プラグを差し込んでください。

・アース線の端子部分にはキャップが付いています。接続するときに取り外してください。

・電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。

・アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

電源ケーブルを取り外すときは、先にプラグを抜いてから、アース線を取り外してください。

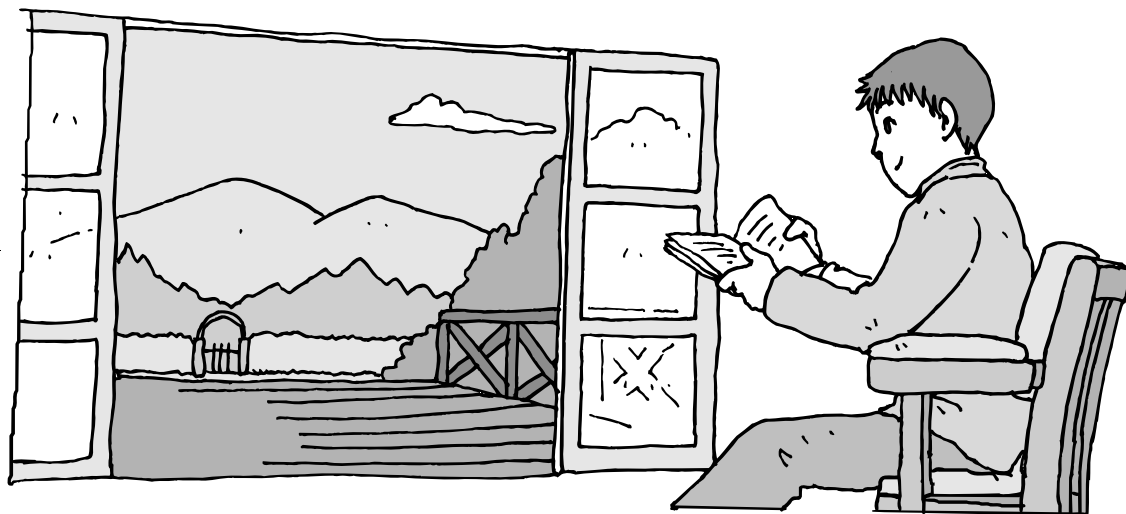
これで接続は完了です。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第３章　セットアップを始める」に進んでください。第３章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源ケーブルなどが人の通る場所にないことを、もう一度確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

セットアップを始める

テレビとして本機を
使う場合も
この章の作業が必要です

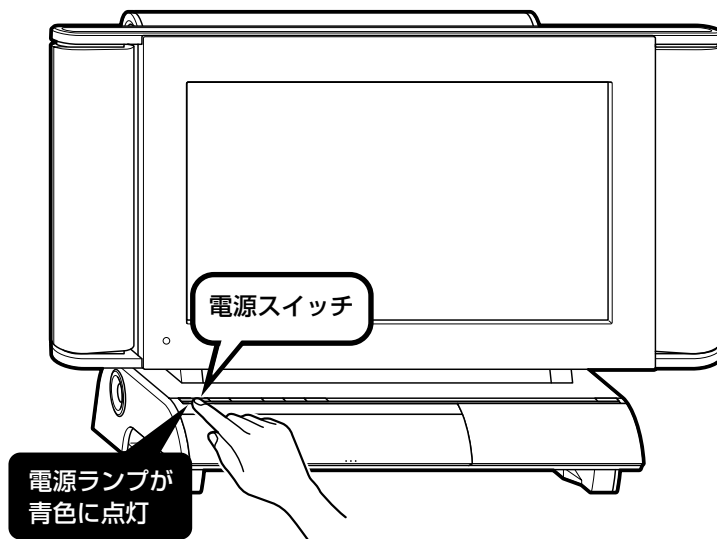
今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：約30～40分

電源を入れる 28
パソコンの設定を始める 30
画面を見ながら手順を進める 33
キーボードを使って名前を入れる 34
121ポップリンクを設定する 39
ソフトを使えるようにする 40
ここで一段落 45
Windowsのパスワードを設定する 47
テレビの設定を始める 49
設定ができたか確認する 54
テレビをつける／消すには 57
テレビの設定が終わったら 60
テレビが見られない／
放送局が見つからないときは 61
お客様登録のお願い 65

電源を入れる

● 電源スイッチの場所を確認しておく

1 電源スイッチを押して電源を入れる

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※（ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点）が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

※ 社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインに従い、ドット抜けの割合を付録の「仕様一覧」（190ページ）または『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

電源スイッチを押しても、電源ランプが点灯しない場合、電源ケーブルが正しく接続されていないことが考えられます。「電源ケーブルを接続する」（25ページ）をご覧ください。

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）などが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない!

セットアップ作業がすべて終わるまでに、約30〜40分かかります。「ここで一段落」（45ページ）までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源ケーブルをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源ケーブルをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの設定を始める

ポイント
- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

1 セットアップの最初の画面を確かめる

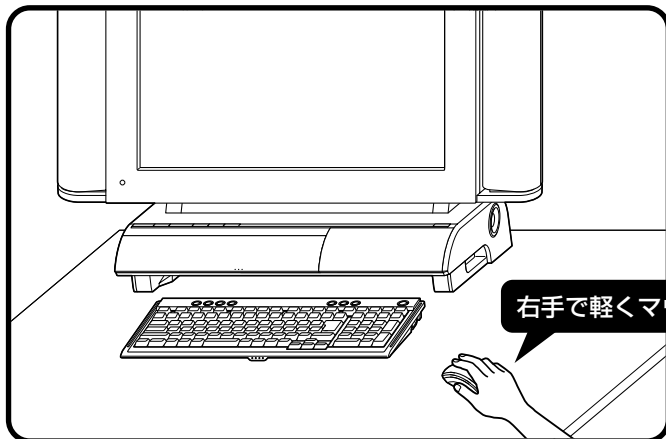
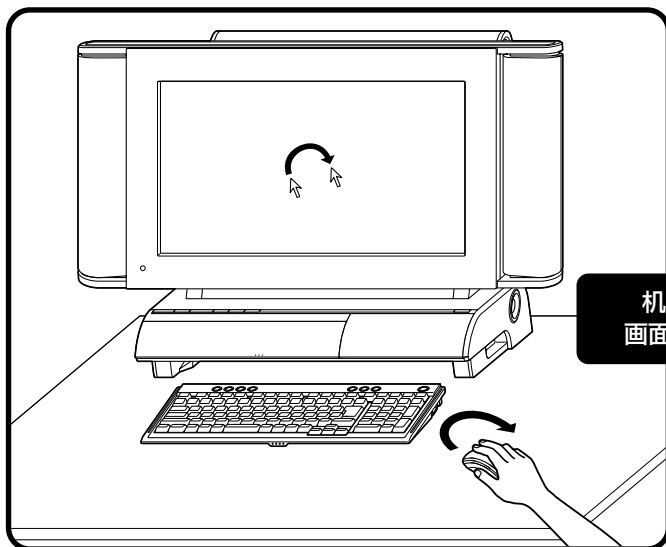
「Windowsのセットアップ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

は、「何もしないで待ってて」の合図

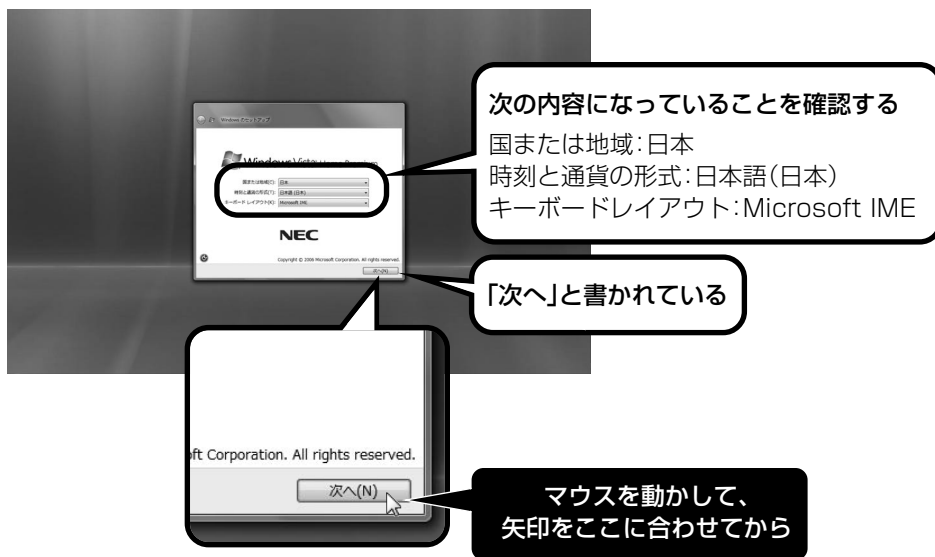
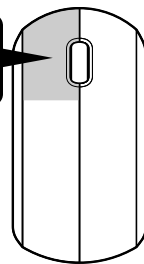
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面にのマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 マウスを動かす

このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

マウスを動かすと､その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に 10cm 程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

- マウス底面のON/OFFスイッチが「ON」になっているか、底面の中央部が赤く光っているか確認してください。
- マウスがうまく動作しないときは､『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。
- まだ、マウスのボタンを押さないでください。

3 画面内の右下に矢印を動かす

何も設定を変えず、「次へ」にマウスの矢印 （マウスポインタ）を合わせてマウスの左ボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「ライセンス条項をお読みになってください」と書かれた画面になります。

クリック

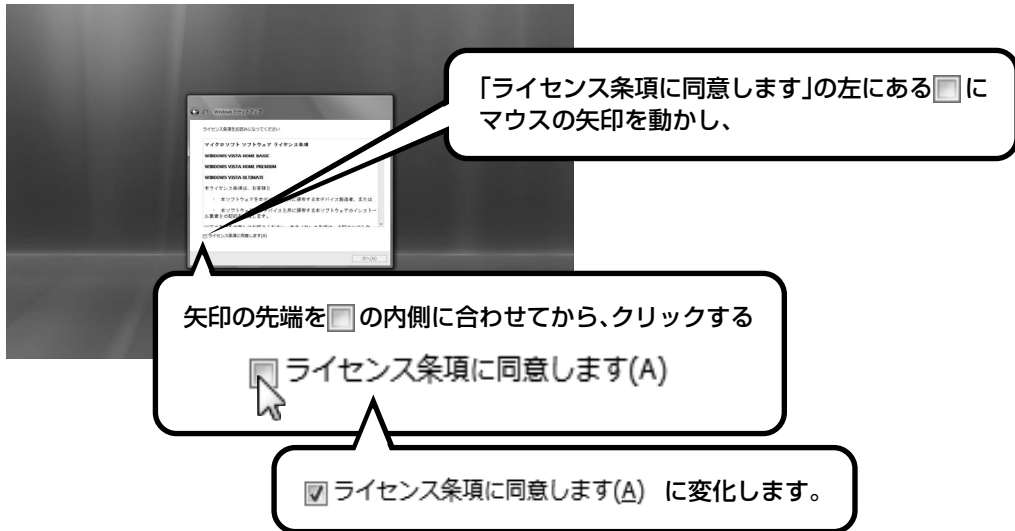
このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

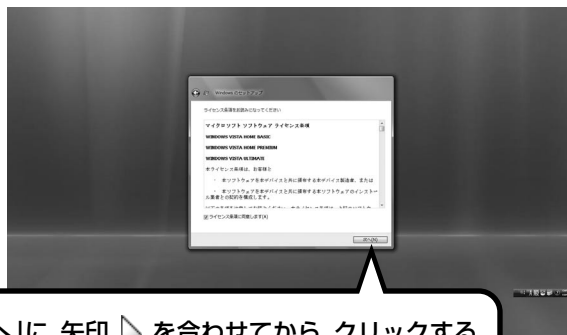
画面を見ながら手順を進める

ポイント

- 画面に書かれたことを読みながら
- 指示にしたがってクリック

1 ライセンス条項に同意する

ライセンス条項に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。

これで、ライセンス条項に同意することになります。「ライセンス条項に同意します」の左が□から☑に変わらないときは、マウスの矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「ライセンス条項」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある▼をクリックします。

キーボードを使って名前を入れる

● ローマ字(アルファベット)で名前を入れる

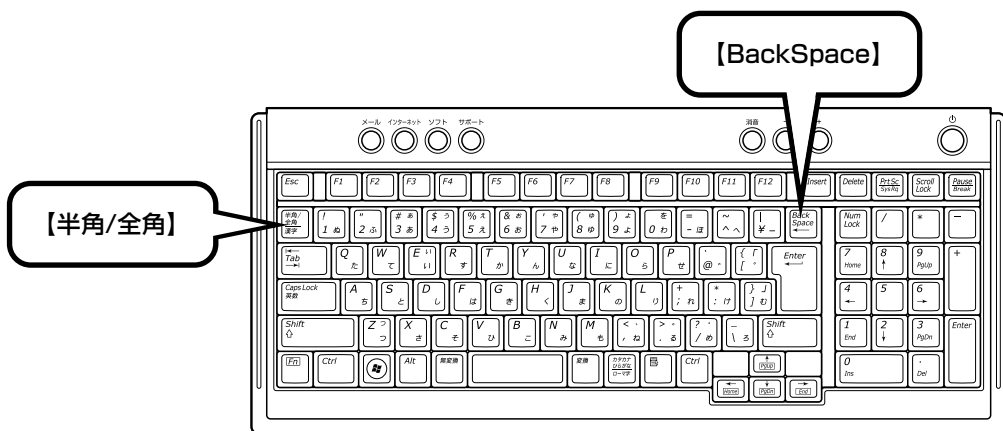
1 自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(｜)が点滅しているのを見てから、キーボードの【半角/全角】を一回押し、キーボードから自分の名前をローマ字で入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー名を入力してください」下の欄をクリックしてください。

【BackSpace】

【半角/全角】

・ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。
・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9
・キーボード裏面のON/OFFスイッチが「ON」になっているか確認してください。
・キーボードがうまく動作しないときは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。

入力を間違えたら

キーボードの【BackSpace】(バックスペース)を押してください。

ひらがなが表示されるときは

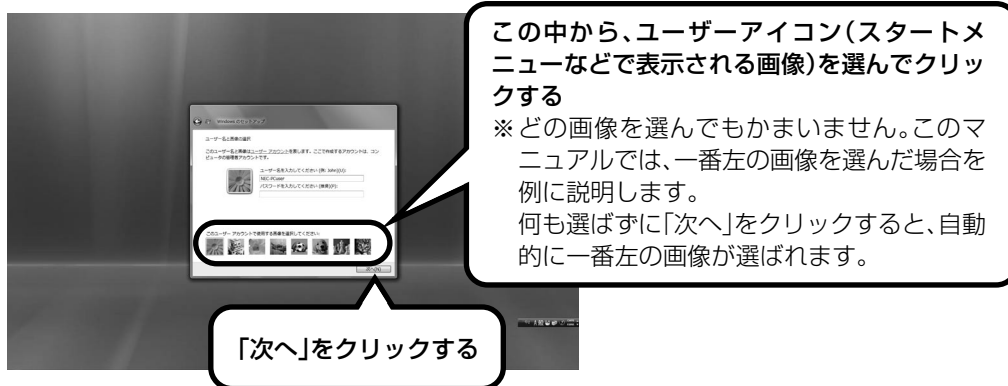
キーボードの【BackSpace】を押して、表示された文字をすべて消してください。次に、キーボードの【半角/全角】を押すと、アルファベットが表示されるようになります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす（再セットアップする）とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

この中から、ユーザーアイコン（スタートメニューなどで表示される画像）を選んでクリックする

※どの画像を選んでもかまいません。このマニュアルでは、一番左の画像を選んだ場合を例に説明します。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に一番左の画像が選ばれます。

「次へ」をクリックする

パスワードは、ここでは設定しません。セットアップ作業が終わってから設定します。

2 次の画面に進む

・デスクトップの背景を選んでクリックすると、画面が選んだ背景に変わります。

・キーボードの操作に慣れていないかたは、表示された名前のまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「VALUESTAR」(バリュースター)とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・キーボード裏面のON/OFFスイッチが「ON」になっているか確認してください。

・キーボードがうまく動作しないときは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「マウス、キーボードがおかしいとき」をご覧ください。

・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。

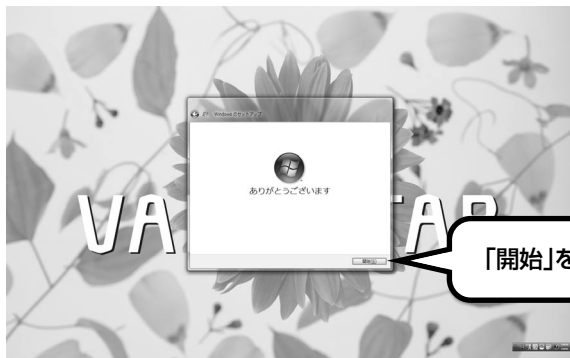
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

・すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。

・34ページで入力した自分の名前と同じ名前は入力しないでください。

3　コンピュータを保護する設定をする

Windows がいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windows の更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

4 さらにセットアップ作業を進める

「開始」をクリックすると、「しばらくお待ちください。コンピュータのパフォーマンスを確認しています。」と表示されます。その後、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

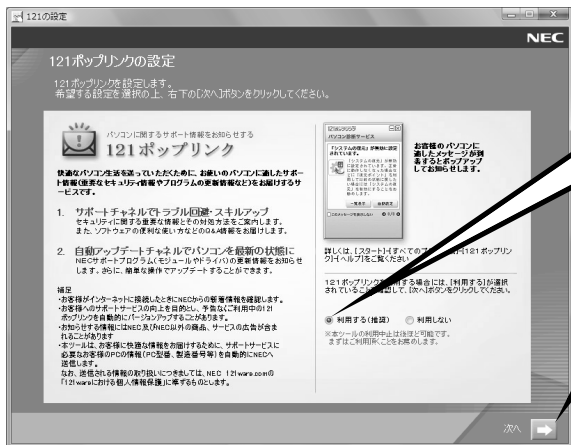
パソコンが再起動しても、
まだセットアップ作業が残っています。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

ポイント

● NEC から新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する(推奨)」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリック

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報(危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NEC からインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

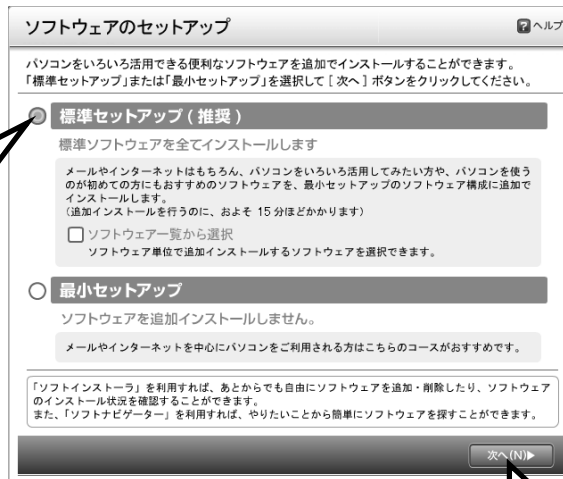
画面右下に次のようなメッセージが表示されることがあります。

ここでこの画面が表示されても問題ありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

ソフトを使えるようにする

ポイント

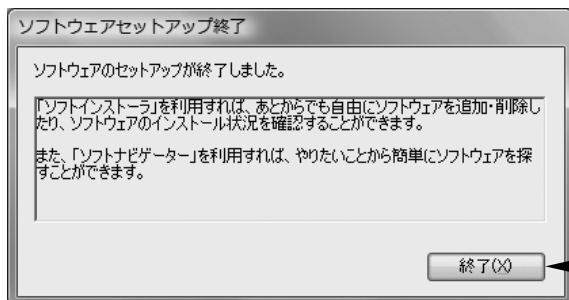
● 目的に合わせて、パソコンに入れるソフトを選べる

1 次の画面に進む

❷「次へ」をクリックする

- 通常は、「標準セットアップ」を選んでください。
- 「ソフトウェア一覧から選択」の左にある□をクリックして☑にすると、一覧から使いたいソフトを選んでインストールできます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。
- 「最小セットアップ」を選ぶと、ソフトを追加せず、必要最小限のソフトだけでパソコンを使い始められます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

2 ソフトを追加する

画面に表示される予想時間は目安です。「ソフトウェアセットアップ終了」の画面が表示されれば、ソフトが正しく追加されています。

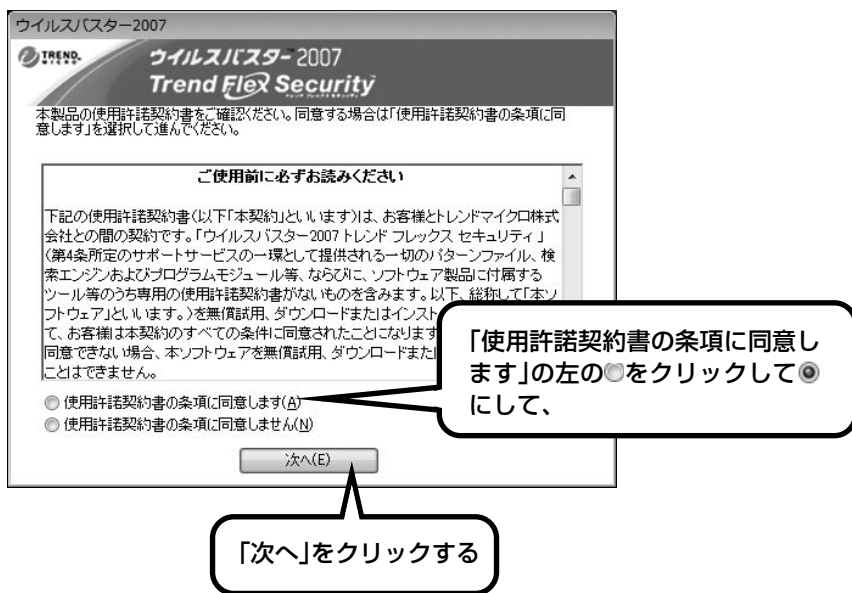
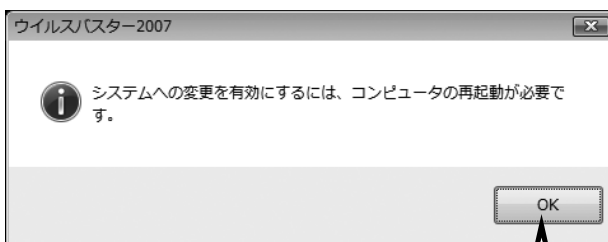
「インストール中」画面が表示され、ソフトの追加が始まります。ソフトの追加が終わると、次の画面が表示されます。

自動的に再起動します。次の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

3 ガジェットを登録する

再起動後、「復元ポイントを作成しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
しばらくすると、次の画面が表示されます。

画面右側に、NEC オリジナルガジェットが表示されます。

4 ウイルスバスターの使用許諾契約書を確認する

続けて、「ウイルスバスター 2007」の画面が表示されます。
表示された内容を読んで、同意できる場合は次の手順で操作してください。

- 同意できない場合は、「使用許諾契約書の条項に同意しません」をにして、「次へ」をクリックします。
  同意しなかった場合、ウイルスバスター 2007 を使用することができません。パソコンを安全に使うために、同意することをおすすめします。
- 「使用許諾契約書の条項に同意しません」を選んだ場合で、再度、この画面を表示させたいときは、「スタート」-「すべてのプログラム」-「ウイルスバスター 2007」-「ウイルスバスターを起動」をクリックしてください。

自動的にパソコンが再起動します。次ページの画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

ここで一段落

ポイント

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

しばらくすると、「ウェルカムセンター」が表示されます。今は、[×]をクリックして画面を閉じてください。

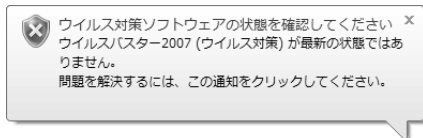
ウェルカムセンター

次に起動したときからは、ウェルカムセンターの画面に「起動時に実行します」のチェックが追加されます。「起動時に実行します」の左の☑をクリックして□にすると、次回からこの画面は表示されなくなります。

最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、パソコンの電源スイッチを押すと、いつもこの画面（デスクトップ画面と呼びます）が表示されるようになります。

デスクトップ画面

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

これは、このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が最新の状態ではない可能性があることをお知らせするものです。この後、パソコンをインターネットにつなぐと「ウイルスバスター」を最新の状態にできます。インターネットにつなぐまでは、このメッセージが表示されても、何もしなくてかまいません。詳しくは、「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」(119ページ)をご覧ください。

Windowsのパスワードを設定する

- パソコンをより安全に使うために、パスワードを設定
- パスワードは覚えやすく、忘れないものを

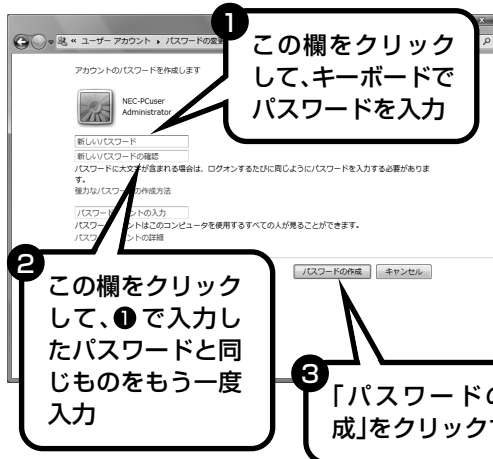
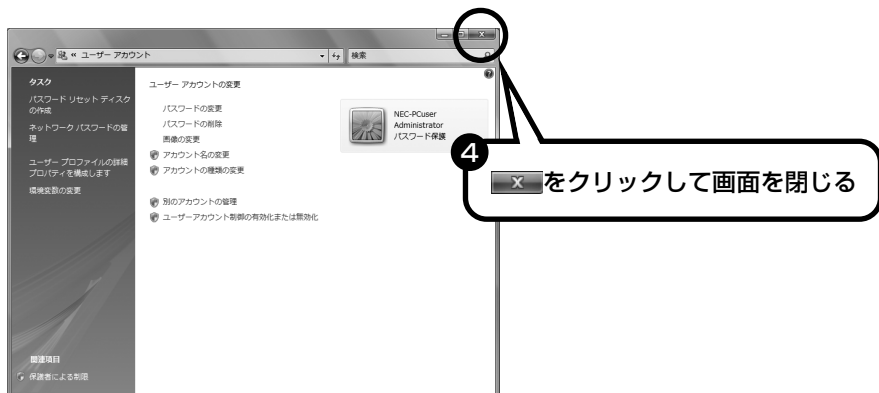
パスワードの設定

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、次の手順でパソコンを使うときにパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

TV機能を使って予約録画をする際、Windows起動時のパスワードによって動作が異なります。詳しくは、『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 パスワードを設定する

- 入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。
- 覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。
- 「パスワードのヒントの入力」欄に、パスワードを思い出すためのヒントを入力しておくと、パスワード入力を間違えたときにヒントが表示されるようになります。

これで、Windowsのパスワードが設定されました。次回から、パソコンの電源を入れたり、スリープ状態、休止状態から復帰したりするときには、パスワードの入力が必要になります。

テレビを見る準備を始める場合

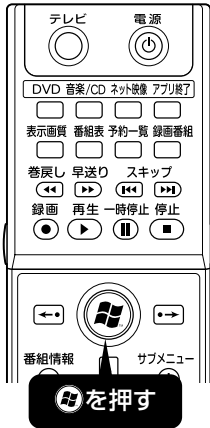
次ページへ進んで、Media Centerとテレビ機能の初期設定を始めます。

パソコンとして使い始める場合

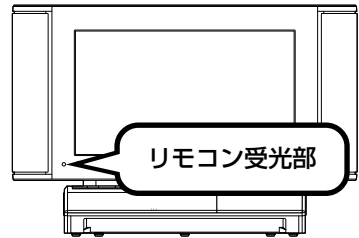
テレビの設定をせずに、パソコンとして使い始める場合は、「お客様登録のお願い」（65ページ）へ進んでください。

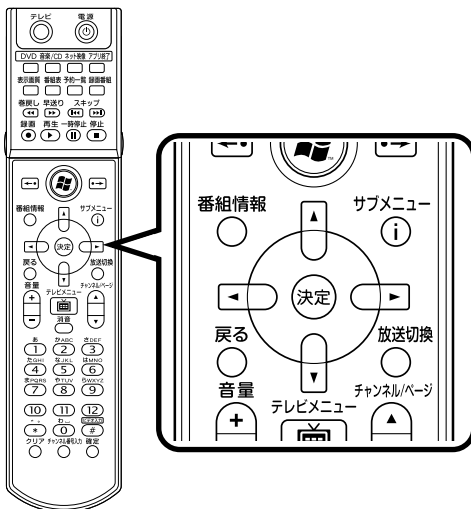
テレビの設定を始める

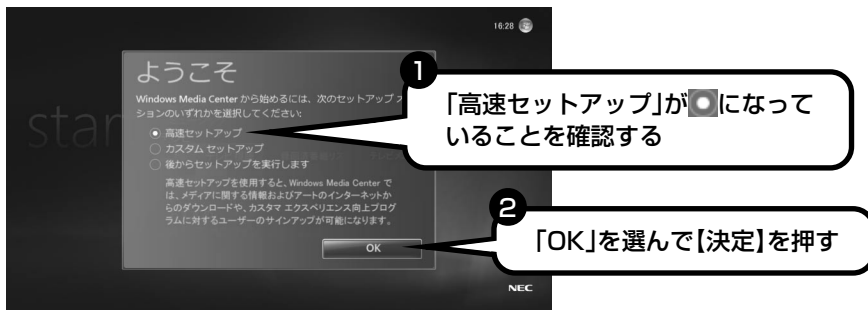
● Media Centerの設定、テレビ初期設定の順番で設定する

1 Media Centerの初期設定をする

リモコンのを押すと、Windows Media Center（以降、「Media Center」と記載します）が起動して、「ようこそ」と書かれた画面が表示されます。
「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックしても起動できます。

リモコンを使うときは、リモコン受光部に向けて操作してください。リモコンが使える範囲は次のとおりです。

・受光部から約3m以内、左右約38度、上下約17度以内の範囲

リモコンでの操作方法

ここからの、テレビの設定で使うリモコンのボタンは、【矢印（▲▼◄►）】と【決定】の2種類です。

【矢印(▲▼◄►)】で項目を選ぶ

【決定】で選んだ項目を確定する

・マウスで選びたい場所をクリックしても操作できます。

・「高速セットアップ」が選ばれていなかったり、リモコンやマウスの操作で選ばれているところが変わってしまった場合は、リモコンの【矢印（▲▼◀▶）】を押して「高速セットアップ」を選び、リモコンの【決定】を押してください。その後、【矢印（▲▼◀▶）】で「OK」を選び、【決定】を押してください。

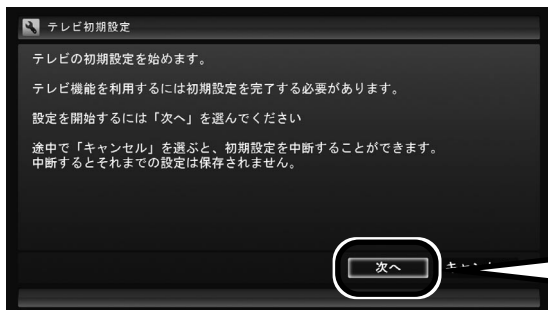
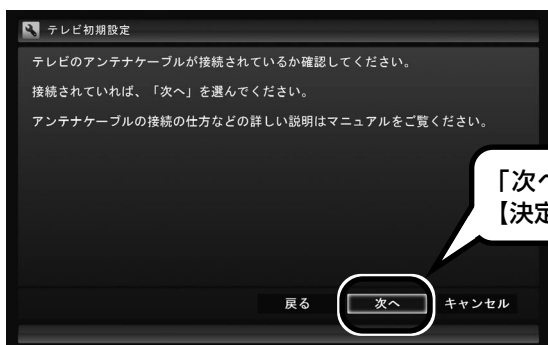
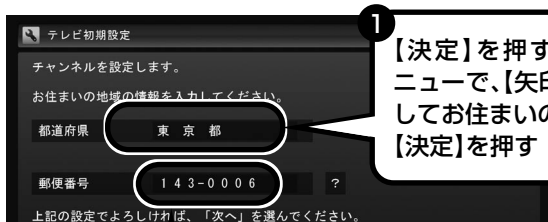
・セットアップの内容を変更したい場合は「カスタム」を選んでください。

CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しているときは、パソコンの設定中です。次の画面が表示されるまで何も操作せずに待ってください。

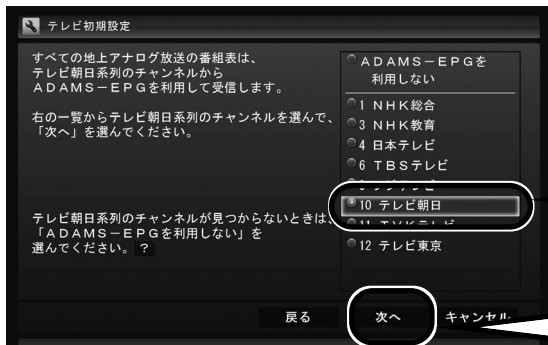
次の画面が表示されます。
これで、Media Centerのセットアップは完了です。続けて、テレビの初期設定をします。

2 「テレビ初期設定」をする

ここでは、リモコンを使って操作する方法を説明します。それぞれの項目は、マウスでクリックしても選べます。

「テレビ初期設定」画面が表示されます。

テレビ初期設定の最初の画面が表示されます。

アンテナケーブルの確認画面が表示されます。

画面内に「？」が表示されているときは、「？」を選んで【決定】を押すと、その項目についての説明が表示されます。

自動的に、チャンネルの検索が始まります。チャンネルを探し終わると、画面右下に「次へ」が表示されます。

「次へ」を選んで
【決定】を押す

テレビ朝日系列のチャンネルを選ぶ画面が表示されます。

1 テレビ朝日系列の放送局の左が になっていることを確認する

2 「次へ」を選んで
【決定】を押す

地上アナログ放送の番組表は、各地域におけるテレビ朝日系列の放送局から送信されます。
各地域の番組表を送信している放送局は、次のとおりです（2006年9月現在）。

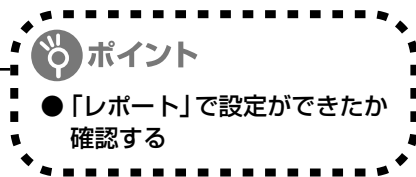
放 送 局	
北海道テレビ放送	朝日放送(ABCテレビ)
青森朝日放送	広島ホームテレビ
岩手朝日テレビ	山口朝日放送
東日本放送	瀬戸内海放送
秋田朝日放送	愛媛朝日テレビ
山形テレビ	九州朝日放送
福島放送	長崎文化放送
新潟テレビ21	熊本朝日放送
長野朝日放送	大分朝日放送
あさひテレビ	鹿児島放送
北陸朝日放送	琉球朝日放送
メ~テレ	テレビ朝日

自動的に番組表の受信時刻が設定されます。設定が終わると、画面右下に「次へ」が表示されます。「次へ」が表示されたら、「次へ」を選んで【決定】を押してください。

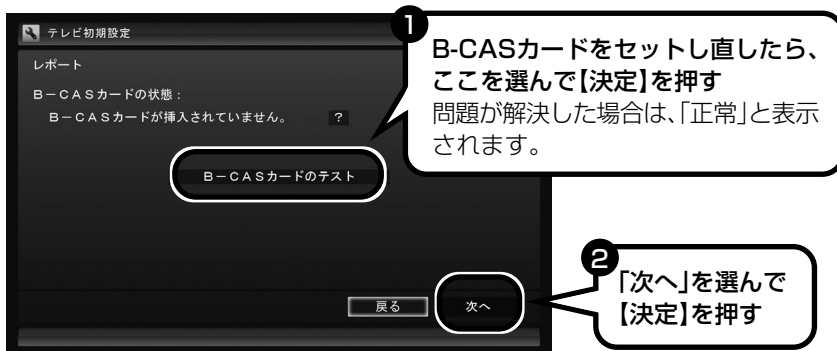
この画面は、Windows のログオンパスワードを設定していない場合は表示されません。その場合は、次の画面に進んでください。

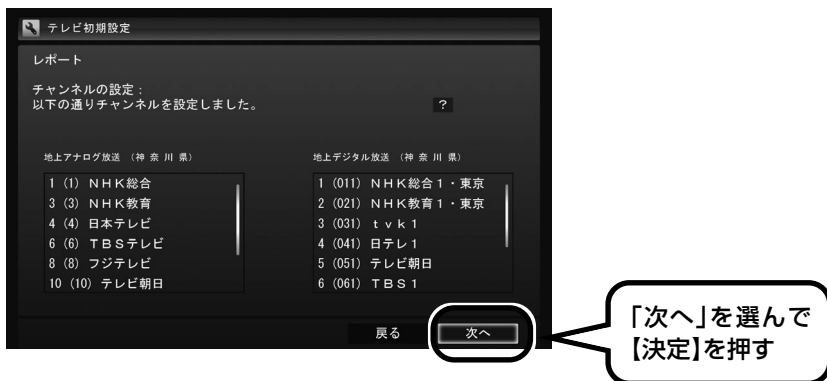
続けて、問題なく設定できたかどうかを確認します。

設定ができたか確認する

●「レポート」で設定ができたか確認する

1 B-CASカードの確認

問題がない場合は、この画面は表示されません。次の手順に進んでください。

この画面が表示された場合は、B-CAS カードに問題があります。
「B-CAS カードをセットする」(14ページ) をご覧になり、B-CAS カードをセットし直してください。

2 チャンネルの設定を確認する

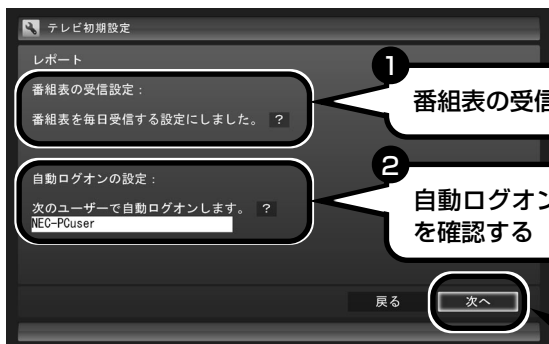
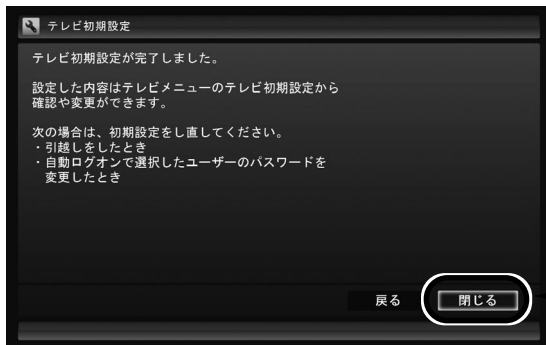
設定できたチャンネルが表示されます。
「チャンネルが見つかりませんでした」と表示された場合も、「次へ」を選んで設定を進めてください。その場合は、「テレビ初期設定」が終わってから、「テレビが見られない／放送局が見つからないときは」(61 ページ) をご覧ください。

3 受信レベルの確認（デジタルハイビジョンTV（地デジ/BS/CS）モデルのみ）

この画面は、デジタルハイビジョンTV（地デジ）モデルでは表示されません。次の「番組表と自動ログオンの確認」に進んでください。

受信状態が悪い場合は、アンテナの電源が入っているかを確認してください。また、アンテナの向きを確認してください。アンテナの電源は「受信レベルの確認」を選んで表示される画面で確認できます。

調整の結果、受信状態が改善しないときも、「次へ」を選んで【決定】を押してください。問題の解決は「テレビが見られない／放送局が見つからないときは」（61 ページ）でおこないます。

「次へ」を選んで【決定】を押す

4 番組表と自動ログオンの確認

自動ログオンについて詳しくは、『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

テレビ初期設定終了の画面が表示されます。

テレビ画面が表示されます。これで、テレビの初期設定は終了です。
設定は、後から変えることもできます。詳しくは、「テレビ初期設定を確認、変更する」(61 ページ)をご覧ください。

5 テレビを終了する

テレビ画面が消え、デスクトップ画面が表示されます。

問題はありませんでしたか?

●問題がない場合
次ページへ進んでください

●問題があった場合
「テレビが見られない/放送局が見つからないときは」(61 ページ)をご覧ください。

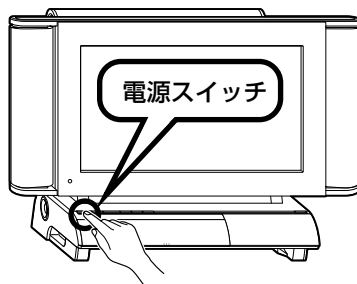
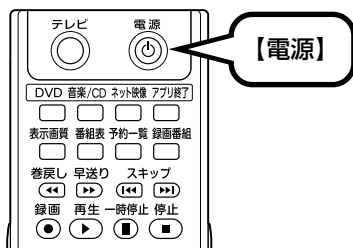
テレビをつける／消すには

ポイント

- すべての設定が終了して、テレビが見られるようになったら、次の方法で本機の電源を入れられます。

電源を入れてすぐにテレビが見たい場合

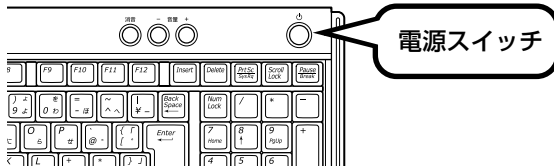
リモコンの【電源】、または本機の電源スイッチを押す

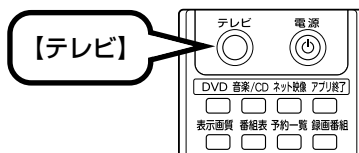
通常は、電源スイッチを４秒以上押し続けないでください。

テレビ画面が表示されます。

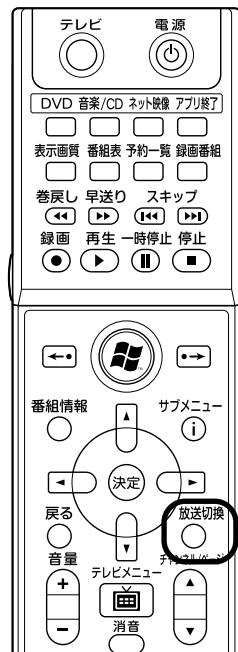
テレビの表示をやめたいときは、リモコンの【テレビ】、または本機のテレビ表示／終了ボタンを押します。

パソコンとして使いたい場合

キーボードの電源スイッチを押す

通常は、電源スイッチを４秒以上押し続けないでください。

デスクトップ画面が表示され、パソコンが使えるようになります。

パソコンを使っている途中でテレビを見たいときはリモコンの【テレビ】、または本機のテレビ表示／終了ボタンを押します。

リモコンで放送を切り換える

テレビが表示できたら、放送の種類を切り換えられるか確認します。リモコンの【放送切換】を押して切り換えます。

・地上アナログ放送に切り換えたときは、画面右上に「地上アナログ」または「地上A」と表示されます。

・地上デジタル放送に切り換えたときは、画面右上に「地上デジタル」または「地上D」と表示されます。

・BSデジタル放送に切り換えたときは、画面右上に「BS/CS デジタル」または「BS」と表示されます。

・110度CSデジタル放送に切り換えたときは、画面右上に「BS/CS デジタル」または「CS1」「CS2」と表示されます。

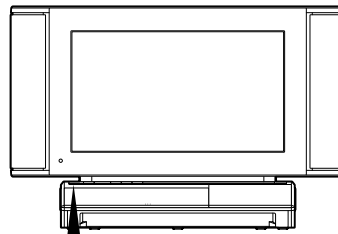
テレビの表示を終了させる

テレビを終了させるには、次の２とおりの方法があります。

テレビの画面を終了させて、パソコンの画面を表示したい場合

リモコンの【テレビ】、または本機のテレビ表示 / 終了ボタンを押します。
テレビ画面が終了し、デスクトップ画面が表示されます。

テレビと一緒に本機を終了したい場合

リモコンの【電源】を押します。
スリープ状態になります。画面が消え、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

テレビの設定が終わったら

お疲れ様でした。
これで、本機でテレビを見るための設定は
すべて終了です。

パソコンを使うための初期設定も完了しているので、パソコンとしても利用できます。

◆これからの進め方◆

さらにテレビを楽しみたい

テレビ番組の録画など、さらにテレビを楽しみたい方は、『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

インターネットなどの設定をしたい

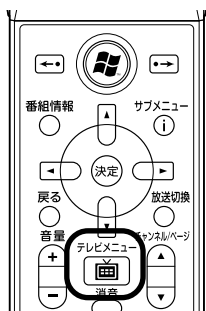
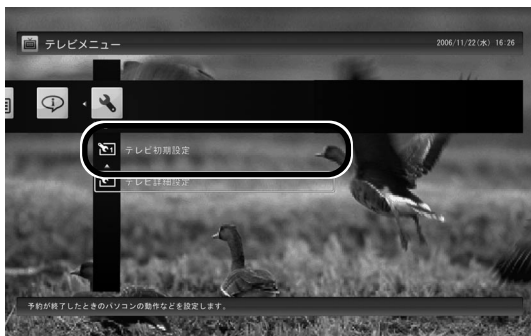
インターネットの設定など、本機をパソコンとして楽しむための情報を知りたい方は、『準備と設定』（このマニュアル）の第４章以降をご覧ください。

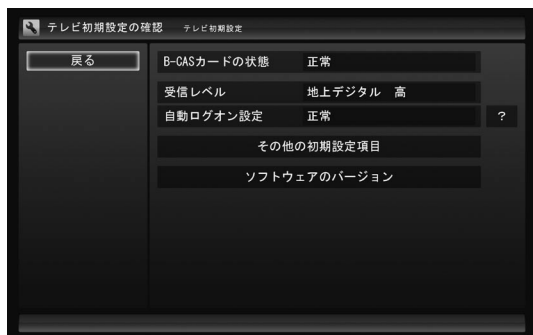
テレビが見られない／放送局が見つからないときは

「テレビ初期設定」で問題があったときや、設定が終わっているのに見られない放送があるときは、次の手順で確認してください。また、設定を変更することもできます。

テレビ初期設定を確認、変更する

1 リモコンの【テレビメニュー】を押す

テレビメニューが表示されます。

2 （設定）-「テレビ初期設定」を選んで【決定】を押す

3 「テレビ初期設定の確認」を選んで【決定】を押す

4 表示された内容から、問題のある項目を選んで【決定】を押す

モデルによって画面は異なります

各項目の詳細内容が表示されます。ここから、各設定を変更することもできます。

「B-CAS カードの状態」に問題があったとき

「B-CASカードをセットする」（14ページ）をご覧になり、B-CASカードをセットし直してください。

地上デジタル放送の「受信レベル」に問題があったとき

地上デジタル放送の受信レベルがすべて0またはチャンネルスキャンをおこなっても受信可能チャンネルが表示されない場合は、お近くの電器店などに次の点を確認してください。

・お住まいの場所が地上デジタル放送のサービスエリア内か
・地上デジタル放送を受信可能なアンテナを設置しているか

また、受信レベルが50以下の場合、その放送を見ることができません。ご利用の環境で放送が受信できるかどうか、お近くの電器店にご相談ください。

BS デジタル放送の「受信レベル」に問題があったとき

BSデジタル放送の受信レベルがすべて0の場合は、アンテナを設置した事業者などに、アンテナに給電が必要かどうかを確認してください。
給電が必要な場合は、設定を変更してアンテナに給電してください。
また、受信レベルが50以下の場合、その放送を見ることができません。ご利用の環境で放送が受信できるかどうか、お近くの電器店にご相談ください。

なお、地上アナログ放送の受信レベルは確認できません。

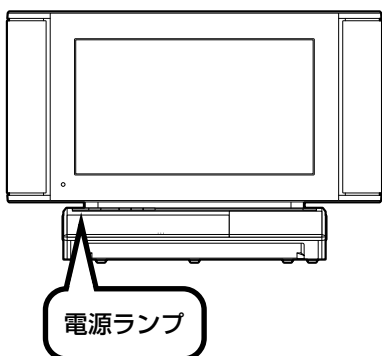
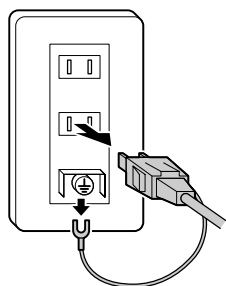
次の手順でアンテナ線の接続を確認すると、状況が改善する場合があります。

接続を確認する

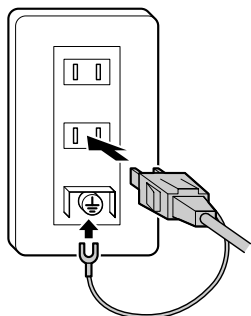
1 本機の電源を切る(シャットダウンする)

通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっているので、一度、パソコンを起動してから電源を切る必要があります。

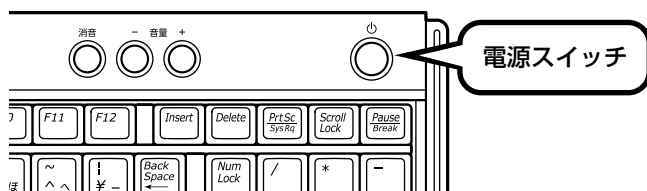
電源を切るには、「スタート」- ▶ -「シャットダウン」をクリックします。詳しくは、「電源を切る（シャットダウンする)」（70 ページ）をご覧ください。

2 本機の電源ランプが消えたことを確認する

3 壁のコンセントから、電源ケーブルのプラグを抜く

4 アンテナケーブルの接続を確認する

「アンテナ線を接続する」（12ページ）を見て、アンテナケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。

5 アース線と電源ケーブルのプラグを再度接続する

先にアース線を接続してから、電源ケーブルのプラグを差し込んでください。

6 キーボードの電源スイッチを押して、本機の電源を入れる

正しく電源が入ることを確認してください。

●「テレビ初期設定」でチャンネルが見つからなかったとき

ここまでの作業が終わったら、テレビ初期設定をやりなおします。
リモコンの【テレビメニュー】を押して、「設定」-「テレビ初期設定」-「テレビ初期設定の開始」を選んで、テレビ初期設定をやり直してください。

● 設定は終わったが、見られない放送があったとき

ここまでの作業が終わったら、「テレビをつける／消すには」（57ページ）の方法で放送が見られるかどうか確認してください。
見られない場合、お客様の環境で受信できない放送である可能性があります。詳しくはお近くの電器店にご相談ください。

お客様登録のお願い

お客様登録はこれからパソコンを安心・快適にお使いいただく上で非常に重要です。NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com（ワントゥワンウェア・ドット・コム)」では、お客様登録されたかたに充実したサポート・サービスを提供しております。この機会に是非ご登録ください。
※法人のお客様としてご使用の場合も、ご登録をおすすめします。
登録料・会費無料

ご登録の特典

特典１　電話サポート

商品についての電話相談窓口「121 コンタクトセンター」へ使い方について相談できます。
詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典２　メールサービス

ご利用製品のサポート情報やキャンペーンのご案内などをメールマガジンでお届けいたします。
詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典３　インターネットサポート

121ware.com で「ログイン ID」を取得していただきますと、さまざまなサポート・サービスをご利用いただけます。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。
ログインIDは、「121ware.com」(http://121ware.com/) およびNECショッピングサイト「NEC Direct」(http://www.necdirect.jp/) で共通にご利用いただける ID です。取得方法については『121ware ガイドブック』をご覧ください。

◆ 121ware.com でご利用いただけるサポート・サービス

ログインIDをご登録いただくと…	【使い方相談】の電話サポートが受けられる	お客様とNECとのコンタクト履歴がわかる	インターネットから修理の申し込みができる	【買取サービス】の申し込みができる
ログインIDとE-mailアドレスをご登録いただくと…	121オリジナルメールマガジンをお届け！	「NEC Direct」※でお得にお買い物！	※日本電気(株)が運営するショッピングサイトです。	
ログインIDと保有商品をご登録いただくと…	保有商品の情報をすばやくGET！	保有商品に関するQ&A情報をすばやくGET！	保有商品に合うモジュールをすばやくGET！	パソコンを最新の状態に！「自動アップデート」
ほかにもいろいろなサービスが！	インターネットから電話サポート予約サービス！	お役立ち情報フォローアップメールサービス！		

最新情報・詳細につきましては、インターネットでご確認ください。

お客様登録の方法

お客様登録をして、電話の問い合わせのときに必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログインID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様に合ったサポート・サービスをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネット登録（推奨）

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第5章または第6章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイアカウント（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

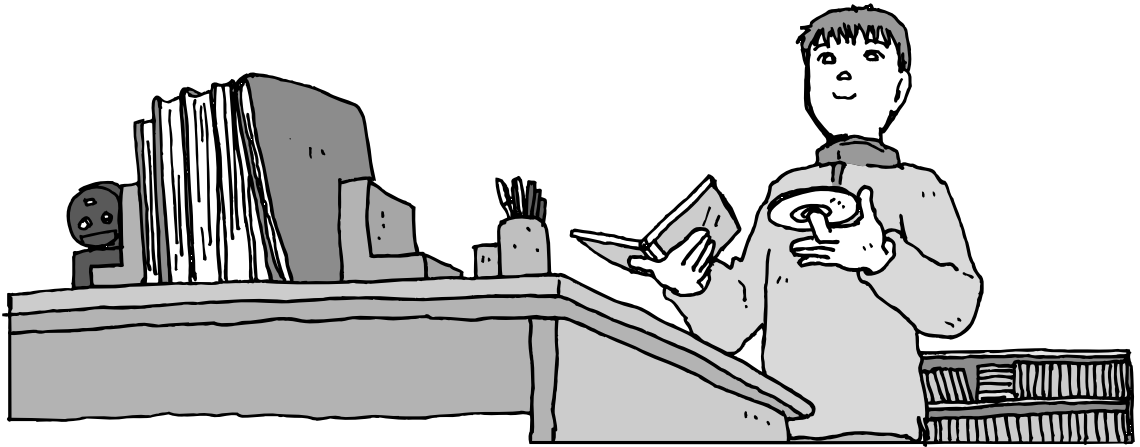
FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

お手持ちのFAXから「0120-977-121」（フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口番号である9番を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と#を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、CD-ROMやDVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

パソコンを終了する **68**

パソコンを使い始める **72**

省電力機能について **74**

よく使うボタンなど **78**

音量を調節する **80**

CD-ROMやDVDの扱い方 **81**

キーボードを収納する **84**

パソコンがはじめてのかたへ **87**

パソコンの画面で解説、検索
「サポートナビゲーター」について **91**

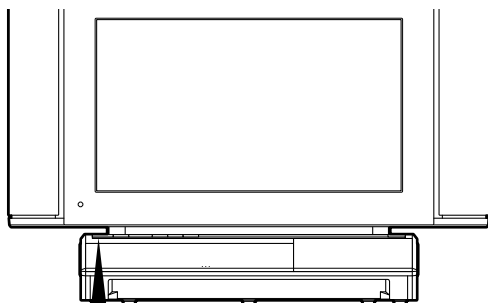
もしものときに備えて **96**

パソコンを終了する

パソコンを終了するときは、マウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。いきなり電源ケーブルを抜いたりするのは、絶対ダメです。

Windows Vista では、通常、パソコンを終了するときに電源を切らず（シャットダウンせず）、スリープ状態にします。スリープ状態は、電力の消費を抑えながら、すぐに作業を再開できるようにする省電力機能です。完全に電源を切りたい（シャットダウンしたい）場合は、「電源を切る（シャットダウンする）」（70 ページ）をご覧ください。

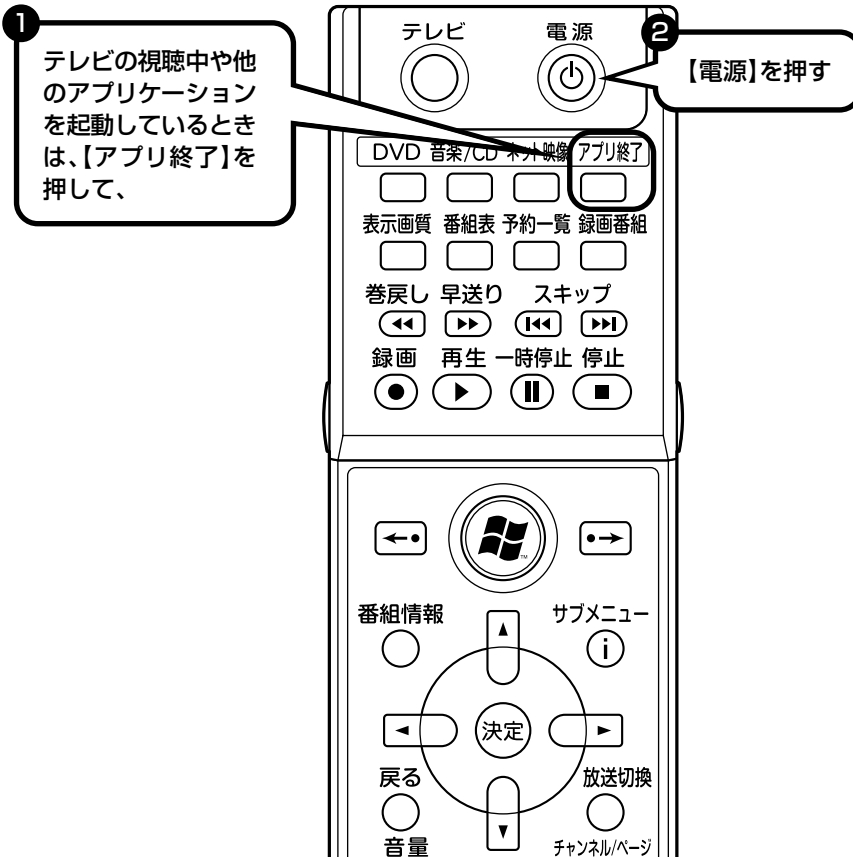
1 画面を見ながら、マウスを操作してパソコンを終了する

Windows Updateなどが自動的におこなわれ、パソコンをいったん終了する必要があるときに、 が のように変わることがあります。その場合も、そのままクリックしてください。このとき、パソコンはスリープ状態ではなく電源を切った（シャットダウンした）状態になるため、次回パソコンを使うときに、通常よりも時間がかかります。

2 電源ランプを確認する

画面が暗くなり、スリープ状態になります。

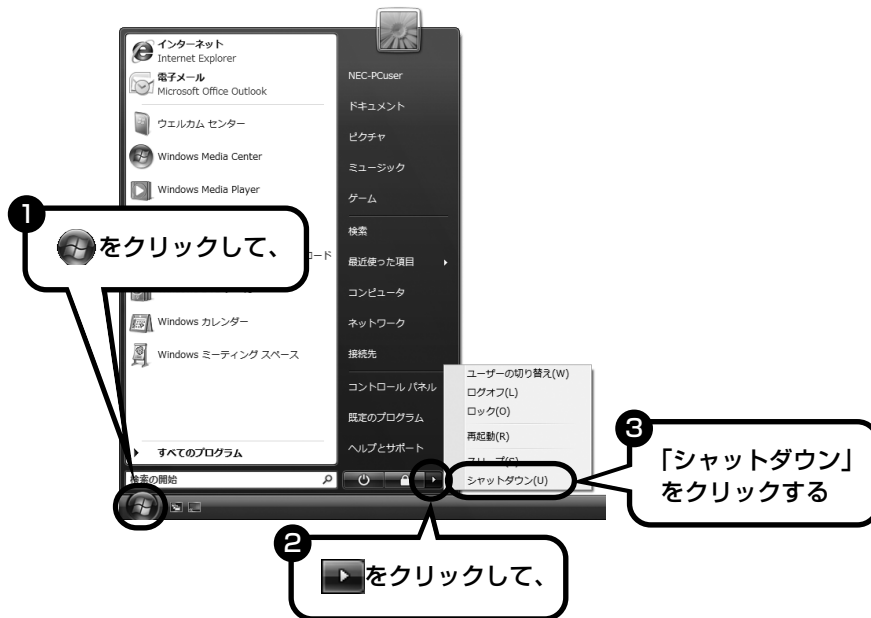
リモコンの⏻からパソコンを終了することもできる

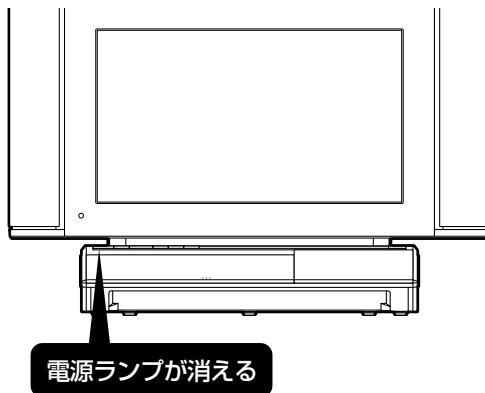
❶ テレビの視聴中や他のアプリケーションを起動しているときは、【アプリ終了】を押して、

❷ 【電源】を押す

リモコンの【電源】を押してもパソコンを終了することができます。
テレビの視聴中など、パソコンの画面から離れているときにリモコンで操作してください。

電源を切る(シャットダウンする)

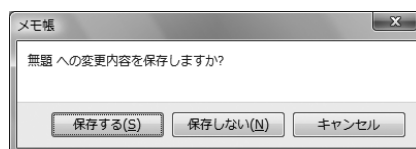
長期間パソコンを使わないときや、パソコンの置き場所を移動するとき、パソコン内部に機器を取り付けるときは、電源を切ります。電源を切ることを、「シャットダウン」と呼びます。

1 画面を見ながら操作して、「シャットダウン」をクリックする

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「シャットダウン」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないで電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
そのままにしていると、数秒後、画面が暗くなり、メッセージが表示されます。
作成した文書などを保存したい場合、「次のプログラムが実行中です」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してから電源を切るようにしましょう。

続けて電源を入れるときは

いったん電源を切ってから電源を入れなおすときは、電源が切れてから５秒以上待って電源スイッチを押してください。

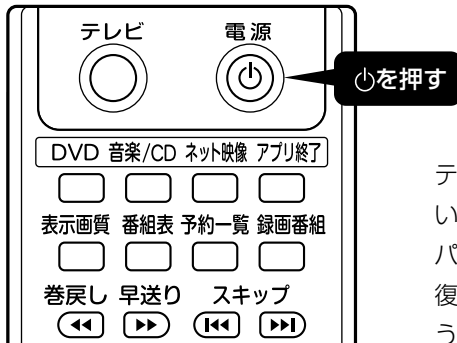
マウスの操作で電源が切れないとき

画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを４秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから5秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めてマウスの操作で電源を切ってください。

パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

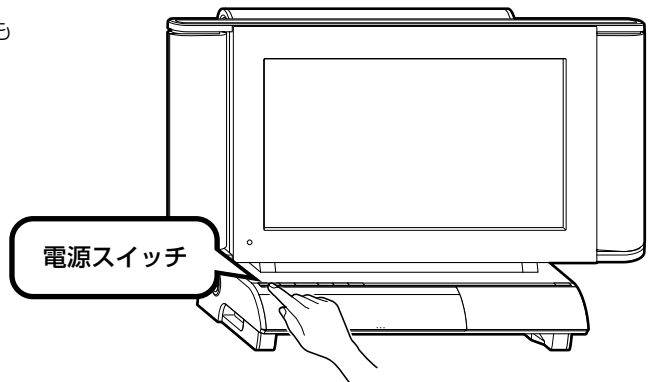
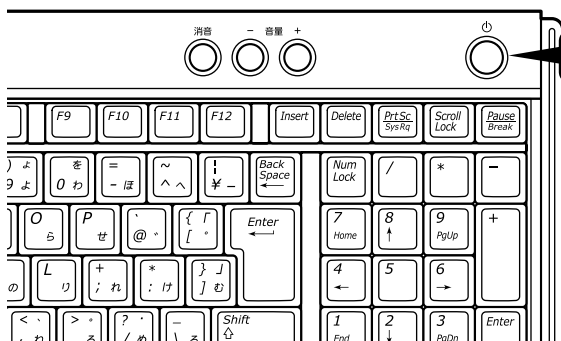
パソコンを使い始める

リモコンとパソコン本体、キーボードのどこから電源を入れるかで何が起動するか決まります。

テレビを見ながらパソコンを使い始めたいときは、リモコンの【電源】を押す

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

テレビ初期設定（49ページ～ 56ページ）が終了している場合は、テレビの画面が表示されます。
パソコンのテレビランプが青色に点滅し、Windowsも復帰します。青色に点灯すると、Windows が使えるようになります。

リモコンの【アプリ終了】を押すか、パソコン本体の「テレビ」ボタンを押すと、Windows のデスクトップ画面が表示されます。

パソコンの電源スイッチを押しても
テレビの画面が表示されます。

Windowsを使いたいときは、キーボードの電源スイッチを押す

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、電源スイッチを押す前に周辺機器の電源を入れてください。

Windows が復帰して、デスクトップ画面が表示されます。

設定を変更するには

リモコンとパソコンの電源スイッチの設定を変更して、テレビが起動しないようにすることもできます。
設定内容について詳しくは、『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

省電力機能について

パソコンを使わないと、自動的に省電力状態になるようになっています。

10分以上使わないと自動的に画面が消える（ご購入時）

ご購入時には、パソコンを操作していない時間が続くと、自動的にパソコンが省電力状態になるように設定されています。パソコンを使っていない時間によって、「ディスプレイの電源を切る」、「スリープ状態」、「休止状態」の３つの段階があります。

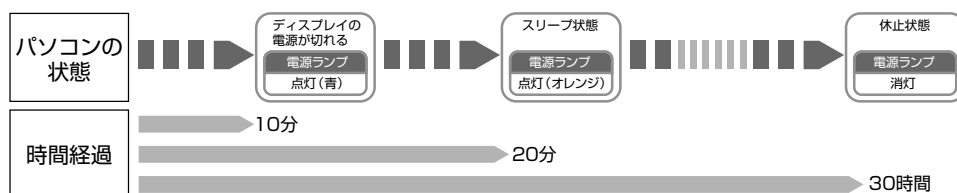
省電力状態について

それぞれの省電力状態は、次のように電力を節約します。

・ディスプレイの電源を切る
パソコンは起動したまま、ディスプレイの電源だけを切ります。通常よりも少し消費電力が下がります。

・スリープ状態
ハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スリープ状態を解除すると、すぐに作業の続きを始めることができます。

・休止状態
パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。消費電力は、シャットダウンしたときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態からもとの状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスリープ状態からもとの状態に戻すよりも時間がかかります。

パソコンを使っていない時間と省電力状態

ハイブリッドスリープについて

このパソコンでは、ご購入時の状態で「ハイブリッドスリープ」をおこなうように設定されています。「ハイブリッドスリープ」は、スリープ状態になるのと同時に、ハードディスクにも作業中のデータを保存します。これによって、スリープ状態のときに電源ケーブルが抜けるなどしても、作業内容を失わずに再開できます。

ハイブリッドスリープは、使用しないように設定することもできます。設定方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。

暗くなった画面をもとに戻すには

スリープ状態などで、暗くなった画面は、次の方法でもとに戻せます。

・電源ボタンが青色に点灯していて、画面が暗い場合
　ディスプレイが省電力状態になっていることが考えられます。この場合は、マウスを軽く動かしてください。
　また、画面消灯ボタンのランプが点灯しているときは、ナイトモードになっています。この場合は、画面消灯ボタンを押してください。

・電源ボタンがオレンジ色に点灯していて、画面が暗い場合
　スリープ状態になっています。この場合は、電源スイッチを軽く1回押してください。

・電源ボタンが消灯していて、画面が暗い場合
　休止状態、または電源が切れています。この場合は、電源スイッチを軽く1回押してください。

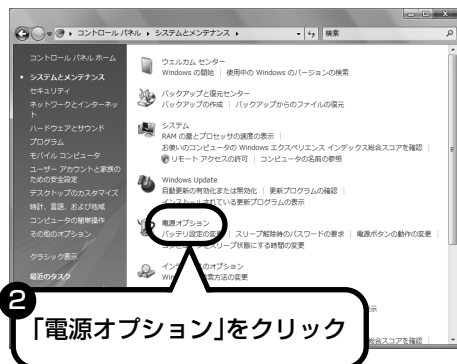
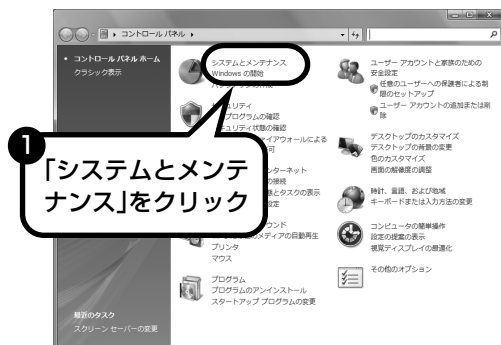
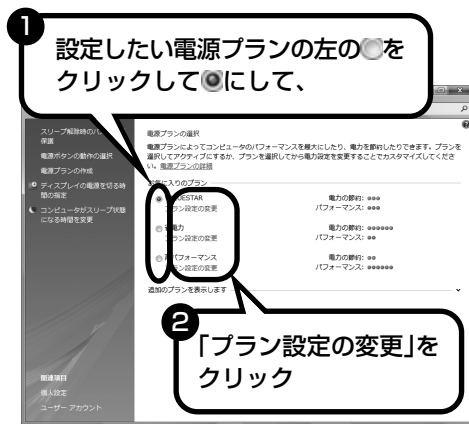
・「ぱっと観テレビ」機能が有効なときは、電源スイッチを押すと、テレビが表示されます。テレビを消す方法については、「テレビをつける／消すには」（57ページ）をご覧ください。

・電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスリープ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスリープ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 「システムとメンテナンス」､「電源オプション」の順にクリック

3 設定したい電源プランをクリックし､電源プランの下の「プラン設定の変更」をクリック

4「コンピュータをスリープ状態にする」で「なし」に変更

この画面で「ディスプレイの電源を切る」までの時間も設定できます。

これで、設定の変更は終わりです。

省電力機能の詳しい説明は、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」で

スリープ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」に説明があります。

よく使うボタンなど

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。そのほかのボタンなどについて知りたいときは、巻末の「各部の名称」をご覧ください。

パソコン本体

電源スイッチ/電源ランプ

パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。チャンネル設定が終わっていると、パソコンと同時にテレビが起動します。
電源が入っているときは、電源スイッチの下のランプが青色に点灯します。スリープ状態のときはオレンジ色に点灯します。電源が切れているときは、消灯します。

CD/ハードディスクアクセスランプ( )

CDやハードディスクを読み書きしているときに点滅・点灯します。
点滅・点灯中は、電源スイッチや、DVD/CDドライブのディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。

テレビ表示/終了ボタン

テレビを表示させたり、表示を終了させるときに押します。

ニューメリックロックキーランプ( )

このランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

DVD/CDドライブ

ブルーレイディスクやCD-ROM、DVD-Video、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

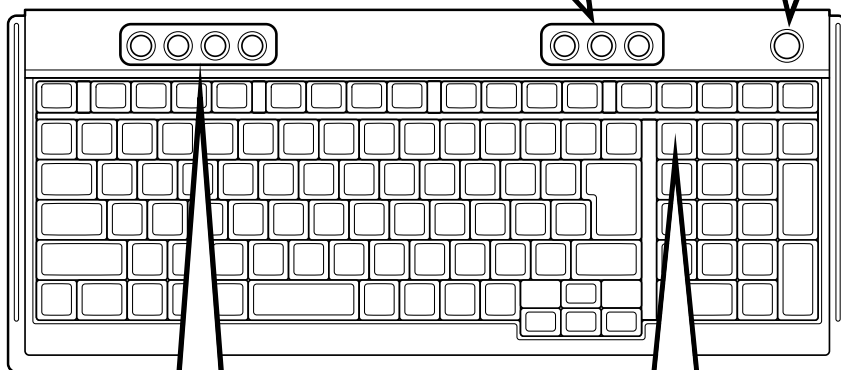
※ テレビ機能については『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

キーボード

ボリュームボタン

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。消音を押すと音が消えます。

電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるときや、省電力状態から復帰するときに押します。

ワンタッチスタートボタン

メール
メールを利用するためのソフトが始まります。

インターネット
ホームページを見るためのソフトが始まります。

ソフト
このパソコンに入っているいろいろなソフトを利用するための「ソフトナビゲーター」が始まります。

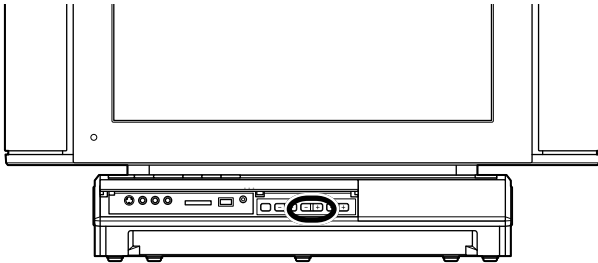
サポート
パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

【NumLock】

このキーを押すと、ディスプレイ右下にあるニューメリックロックキーランプ(⃞1)の点灯／消灯が切り換わります。
ニューメリックロックキーランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

音量を調節する

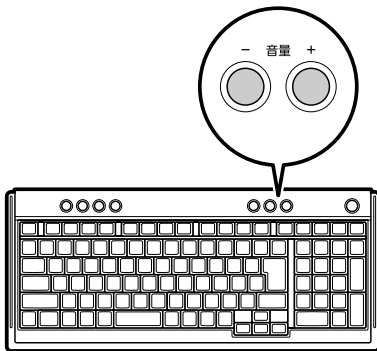
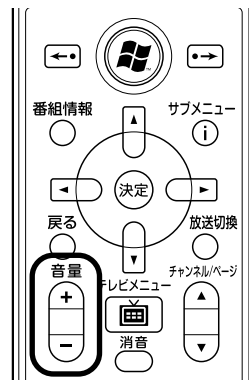
パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

本体前面のボタンで調節する

（本体前面のカバーを開けたところ）

前面のカバーの突起部を軽く押すと、カバーが開きます。
＋を押すと大きく、－を押すと小さくなります。

キーボード、リモコンから音量を調節する

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。

キーボード

リモコン

・ディスプレイの音量調節で最小になっていると、キーボードのボタンから音を大きくすることができません。

・キーボード、リモコンから音量を変更するとき、起動しているソフトによっては、音量の表示が変わらない場合があります。

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

・ブルーレイディスクも、CDやDVDと同じように扱います。
・ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
・このパソコンにインストールされているOS以外のOSに対応したCDやDVDは、使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
・使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。
・このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

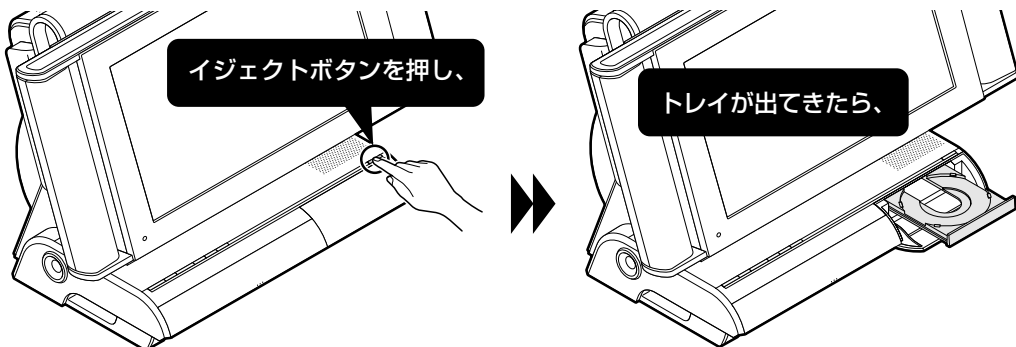
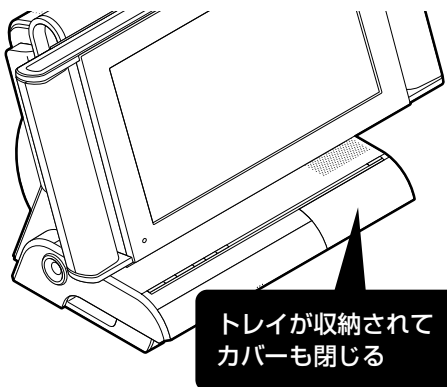
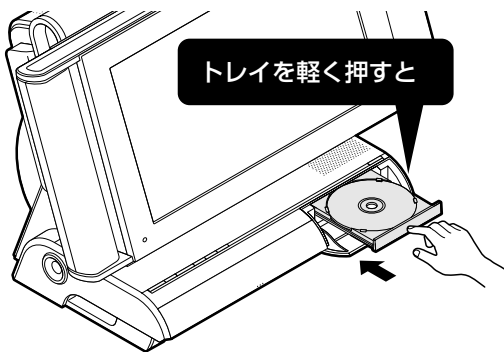
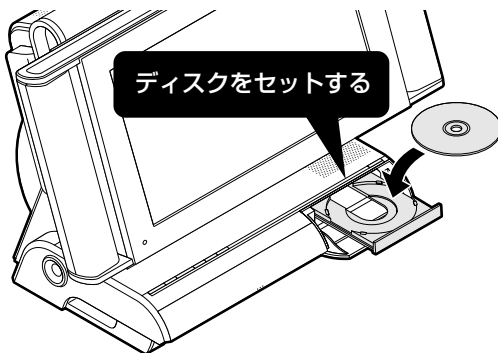
ディスクを取り扱うときの注意

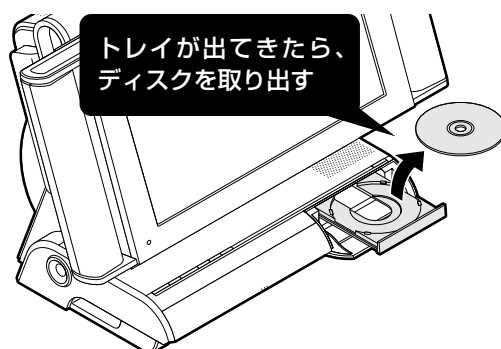
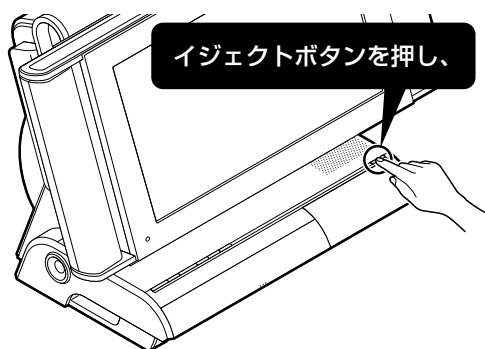
次の注意事項を守ってください。
・データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
・ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
・ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
・ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
・汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けてふく。
・汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
・ベンジン、シンナーなどは使わない。
・ゴミやホコリの多い場所で使わない。
・直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してトレイを出す

トレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出し入れできます。

イジェクトボタンを押し、

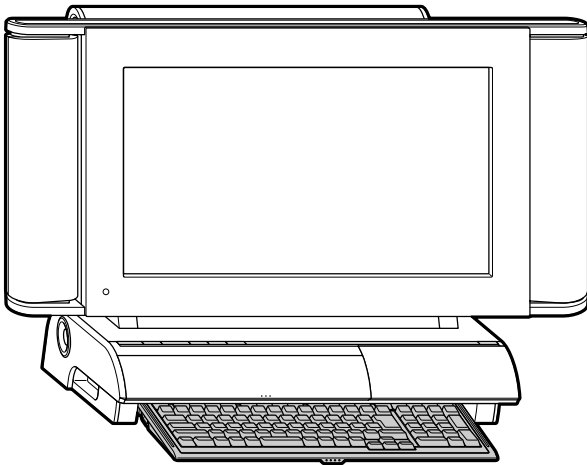
トレイが出てきたら、

2 ディスクを入れる

トレイを軽く押す代わりに、イジェクトボタンを
押してディスクを収納することもできます。

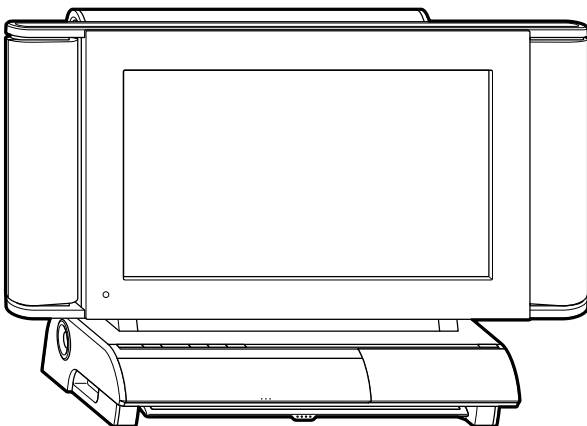
3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、トレイを軽く押すか、イジェクトボタンを押してください。トレイが収納されてカバーが閉じます。

キーボードを収納する

このパソコンのキーボードは、スライドインキーボードです。
キーボードを使用しないときは、パソコン本体の下に収納することができます。

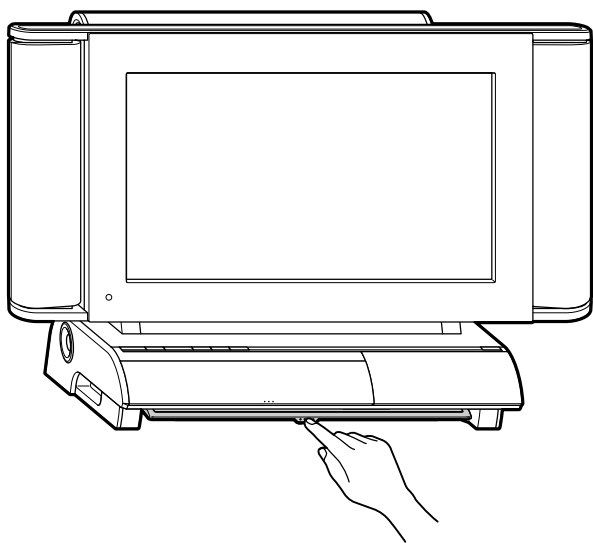
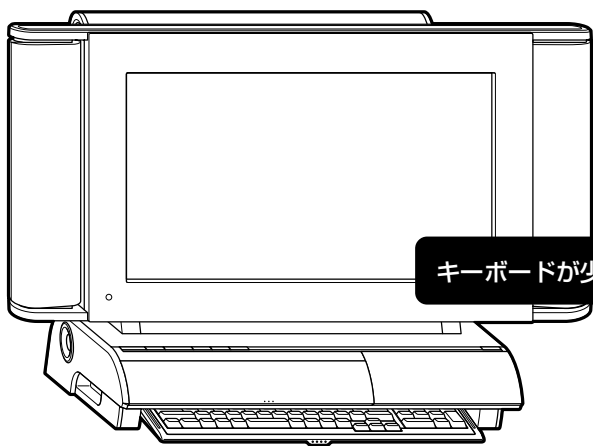
1 キーボードをパソコン本体の下に入れる

キーボード裏面の足を立てている場合は、倒してください。

キーボードを本体の下に入れて、そのまま奥にスライドさせます。

キーボードを斜めにしないように、水平に入れてください。

パソコンの電源が入っている場合、キーボードを奥まで押し込むと、テレビが表示されます（テレビの設定が終わっている場合）。

キーボードを収納したときに、パソコンの電源を切ったり、ほかのソフトを起動したり、何も起動しないように設定を変更することもできます。詳しくは、「「キーボードシンクロナイザー」で設定する」（86ページ）をご覧ください。

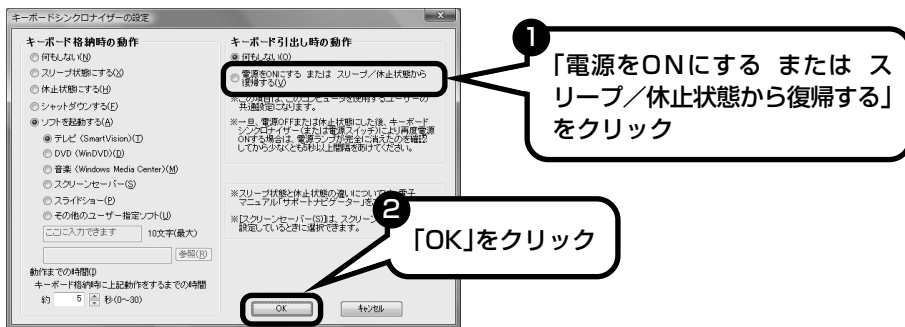
2 キーボードを取り出す

キーボード前面の中央部分を少し押します。

キーボードを取り出したときに、パソコンの電源を入れたり、休止状態から復帰するように設定することができます。詳しくは、「「キーボードシンクロナイザー」で設定する」（86 ページ）をご覧ください。

静かに引き出してください。
引き出したら、必要に応じてキーボード裏面の足を立ててください。

「キーボードシンクロナイザー」で設定する

「キーボードシンクロナイザー」というソフトで、パソコン本体の下に収納されたキーボードを取り出したときにパソコンに電源を入れたり、スリープ状態や休止状態から復帰したりするように設定することができます（ご購入時の状態では、「何もしない」に設定されています）。

1 画面左下の「スタート」-「すべてのプログラム」-「キーボードシンクロナイザー」-「キーボードシンクロナイザーの設定」の順にクリック

2 「キーボード引出し時の動作」を設定して「OK」をクリック

これで設定が変更できました。
この画面で、キーボードを収納したときの動作も設定できます。

パソコン本体の電源を切った後（またはスリープ状態や休止状態の後）、収納されたキーボードを取り出して再度電源を入れる場合は、電源ランプが完全に消えたのを確認してから、5秒以上間隔をあけてください。

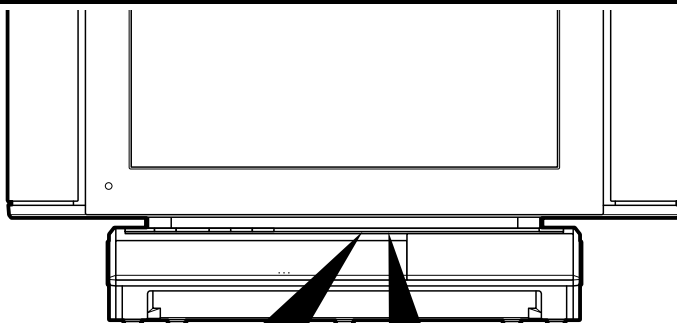
パソコンが はじめてのかたへ

このパソコンに入っている「パソコンのいろは 3」を使って、基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろは3」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろは 3」が入っています。「パソコンのいろは 3」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろは 3」で学習を始めてみましょう。

ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろは3」を始める前にすべて終了させてください。

1 ディスプレイ右下のランプを確認する

🄰ランプが点灯していること

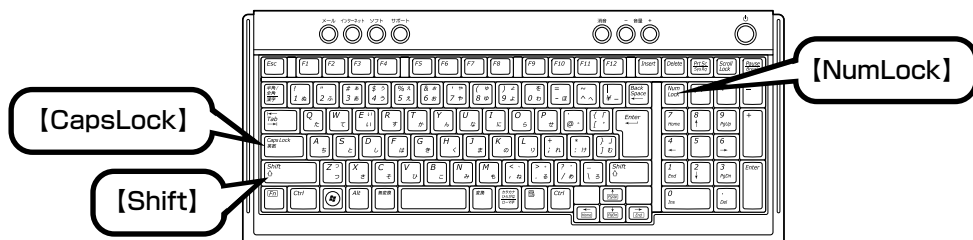
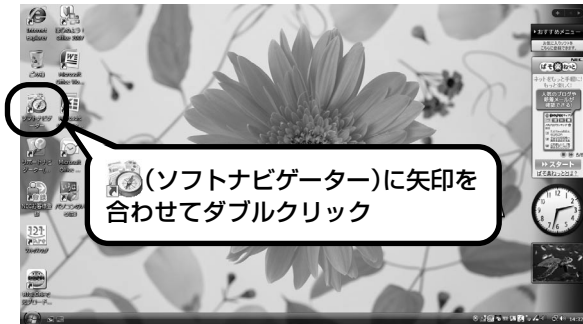
【Shift】(シフト)を押したまま【CapsLock】(キャップスロック)を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。【Shift】はキーボードに2つありますが、どちらか1つを押すだけでかまいません。

🄰ランプが消えていること

【NumLock】(ニューメリックロック)を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。

【CapsLock】

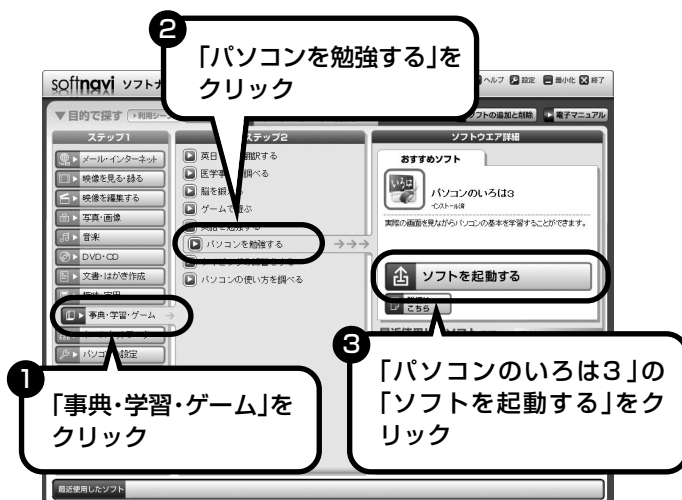
【Shift】

【NumLock】

2 ソフトナビゲーターを起動する

ソフトナビゲーターの最初の画面が表示されます。

ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。
「ソフトナビゲーター」では、画面左の「ステップ 1」からやりたいことのジャンルをクリックして、「ステップ 2」でやりたいことの内容をクリックすると、必要なソフトが自動的に選ばれます。選ばれたソフトの「ソフトを起動する」をクリックすると、ソフトを使い始められます。
「ソフトナビゲーター」について詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「基本編」をご覧ください。

3 「パソコンのいろは3」を始める

「パソコンのいろは3」が表示され、自動的に「1章 マウスで遊ぶ」の練習が始まります。

パソコンを使うのがはじめてのかたは、1章から順番に始めてください。章や項目のどこからでも始められ、1〜2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろは3」を終了させることもできます。その場合、画面右下に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に確認の画面が表示されるので、「終了します」をクリックすると「お疲れさまでした。」と表示され、終了します。

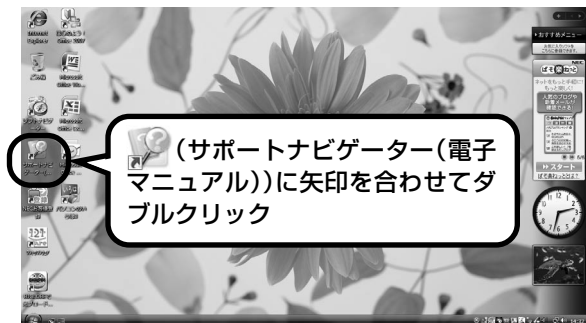
「終了」をクリックしても終了しないときは、キーボードの【Esc】を押してから、再度「終了」をクリックしてください。

途中から練習するときは

次回から、「パソコンのいろは3」を起動すると、目次が表示されるようになります。やりたい章や項目をクリックすると、練習を始められます。

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について

紙で見るマニュアルのほかに、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」があります。このパソコンのさらに詳しい使い方を知りたいとき、パソコンを使っていて困ったときに見てみましょう。

サポートナビゲーターを起動する

「サポートナビゲーターの使い方」のムービーが表示された後、「サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

ムービーは、終了をクリックして省略することもできます。

目的に応じて３つの入り口があります。これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、ボタンをクリックしてください。

▶安心安全に使う　インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。

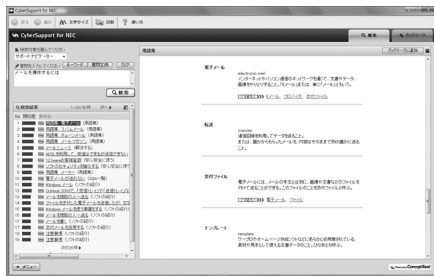
▶使いこなす　Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。

▶解決する　うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

「サポートナビゲーター」の詳しい内容については、付録の「「サポートナビゲーター」詳細目次」（198ページ）をご覧ください。

パソコンの中を検索してみる

知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して検索してみましょう。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupportの「使用許諾契約書」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回からは、すぐに結果が出るようになります。

詳しい機能については「パソコン各部の説明」

このパソコンのいろいろな部分の機能や使い方を知ろう

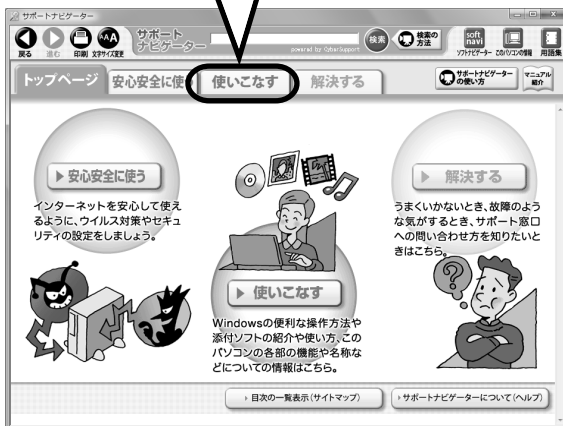
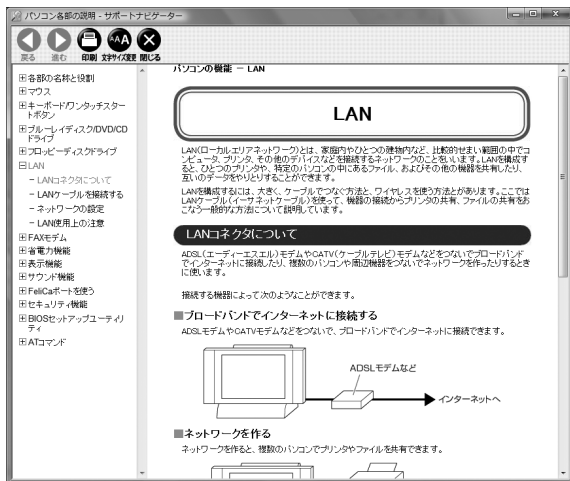
このパソコンのボタンやドライブについて、詳しく知りたいときには、「パソコン各部の説明」を見てみましょう。たとえば、次のような機能や使い方について知ることができます。

・トリプルメモリースロット
「SDメモリーカード」「メモリースティック」「xD-ピクチャーカード」などが使えます。デジタルカメラで撮影した画像を見たり、音楽CDの曲を保存するのに便利です。

・光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子
AVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続し、音楽などを楽しむことができます。

・IEEE1394（DV）コネクタ（4ピン）
デジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けて、映像の取り込みや編集、他のデジタルビデオ機器への出力ができます。

ほかにも、「パソコン各部の説明」では、このパソコンの便利な設定の方法についても詳しく説明しています。

「パソコン各部の説明」を見るためには

「パソコン各部の説明」の画面が表示されます。画面左のしおりをクリックすると、ほかのページを見ることができます。

もしものときに備えて

● 大切なデータはこまめにバックアップ
● 再セットアップディスクの作成はお早めに
● 不正アクセスはパスワードで阻止

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ－NX（エヌエックス）」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ－ NX」の使い方について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップを始める前に」-「データのバックアップを取る」をご覧ください。
ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

- セキュリティ機能を使用してデータのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。
- セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、ハードディスクに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、ハードディスクのいずれかのドライブに約0.9 ～ 50GBの空き容量が必要です。

ハードディスク全体のバックアップを取る

Total Restoreというソフトを使うと、ハードディスク全体をDVDなどのディスクにバックアップしたり、復元したりできます。
インターネットやメールの設定や、ソフトの設定など、すべておこなった状態をバックアップ/復元できるので便利です。
トラブルが起きたときのために、色々な設定が終わった状態のハードディスクのバックアップを取っておくことをおすすめします。

Total Restoreの使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「ハードディスクをバックアップ/復元する」をご覧ください。

データを保存しておくだけでもバックアップになる

「バックアップ-NX」を利用するほかに、大切なデータを定期的にDVD-RやCD-R、外付けのハードディスクなどに保存しておくだけでもバックアップの効果があります。

再セットアップディスクを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。しかし、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップディスクを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップディスクを作成する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

再セットアップディスクは、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

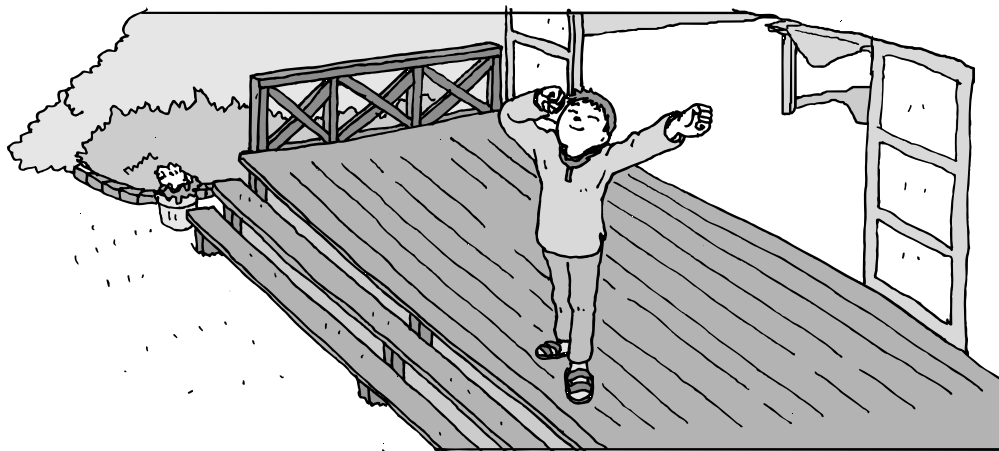
Windows起動時のパスワードを設定する

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows 起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

手順については、「Windows のパスワードを設定する」(47 ページ)をご覧ください。

TV 機能を使って予約録画をする際、Windows 起動時のパスワードによって動作が異なります。詳しくは、『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

第5章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第６章　パソコンを買い替えたかたへ」（125ページ）へ進んでください。

インターネットの魅力 **100**
いろいろある接続方法 **101**
ブロードバンド接続の流れ **102**
プロバイダに入会する **104**
ルータを利用したブロードバンド接続の設定 ... **108**
ブロードバンド接続の設定 **112**
インターネットに接続する **114**
メールソフトを設定する **115**
パソコンを安全に使うための設定をおこなう **119**

インターネットの魅力

インターネットは、わずかの間にものすごい勢いで普及が進んで、私たちの生活に身近なものになりました。

ホームページ

インターネットは情報の宝庫です。役所などの公共機関や大きな企業だけでなく、近所の商店や小さな工場まで、本当にいろいろな人たちが、自分のホームページを持つようになりました。電車の乗り継ぎや発車時刻をホームページで調べたり、バーゲンセールの目玉商品をホームページでチェックするなど、インターネットがあれば、生活のちょっとしたことが便利になります。

メール

インターネットを利用したメール(「電子メール」とか「Eメール」ともいいます)を使うと、家族や友人、仕事や趣味の仲間たちと手軽に連絡することができます。日本全国どこでも、世界中のどこにいる人とでも、料金を気にせず用件を伝えられること。デジタルカメラで撮った写真などをメールと一緒に送信できること。相手が都合のよいときにメールを見ればよいので、時間帯を気にしなくてよいこと。このような便利さのために、いまでは、たくさんの人たちにとって、メールが欠かせない通信手段になっています。

まだまだある、インターネットの魅力

インターネットの通信回線を使って、格安の料金で市外電話や国際電話を利用することができる「IP電話」というサービスを利用することもできます。ホームページを経由して、買い物をしたり(「オンラインショッピング」といいます)、ソフトやデータを自分のパソコンに取り入れたり(「ダウンロード」といいます)、使う人それぞれにインターネットは活用されています。

いろいろある接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがありますが、高速なブロードバンド接続と、それ以外に大きく分けられます。

ブロードバンド接続

ADSL（エーディーエスエル）

家庭にあるアナログ回線（一般の電話回線）を使って、インターネット接続をする方法です。いくつかの回線事業者がサービスを提供していて、回線速度もサービスごとに異なります。
サービスの提供地域が広く、アナログ回線を利用するため、手軽にブロードバンドを利用できます。

FTTH（エフティーティーエイチ）

光ファイバーを使ってインターネット接続をする方法です。回線事業者によってサービスの名前が異なります（B フレッツなど）。
ほかのブロードバンド接続よりも高速な通信をおこなえます。また、受信だけではなく送信速度も高速なため、大きなデータのやりとりに向いています。
光ファイバーを家の中に引き込むための工事が必要になる場合があります。

CATV（ケーブルテレビ / シーエーティーブイ）

ケーブルテレビ会社の回線を使ってインターネット接続をする方法です。インターネットと同時に、ケーブルテレビ放送なども利用できます。回線速度やサービスは、各CATV業者によって異なります。

そのほかの接続

ダイヤルアップ接続

一般の電話回線を使ってインターネットに接続する方法です。電話回線があれば、電話回線ケーブル（モジュラケーブル）を用意するだけでインターネットに接続できます。
回線速度がほかの接続と比べてきわめて遅いため、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。また、インターネット利用中は電話を使用できません（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

ISDN（アイエスディーエヌ）

NTTのデジタル回線、ISDNでインターネットに接続する方法です。アナログ回線よりも少しだけ高速になります。また、電話とインターネットを同時に利用できます。ダイヤルアップ接続と同じように、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。

ブロードバンド接続の流れ

ADSLの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、BIGLOBEに入会することをおすすめします。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(104ページ)をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

このパソコンから直接申し込むことができます。パソコンをアナログ回線に接続して、操作を進めます。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(104ページ)をご覧ください。

3 ADSL回線の開通を待つ

ADSLは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの(フレッツ・ADSL)と、別の回線事業者(イー・アクセスやアッカなどという会社があります)が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース(料金プラン)が分かれています。ADSLを利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じてADSL対応モデムの準備や電話回線の工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります(BIGLOBEなどのプロバイダは、申し込んでからADSL回線が開通するまでの間、ダイヤルアップ接続でインターネットを利用できるようにしています)。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線装置を接続して、パソコンの設定を変更する

ADSLモデムなどの回線装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」(107ページ)をご覧ください。

申し込みたいコース(料金プラン)を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

ADSL以外の接続の場合

FTTH

お住まいの地域や建物で光ファイバーの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。
申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間～2か月程度の時間がかかります。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

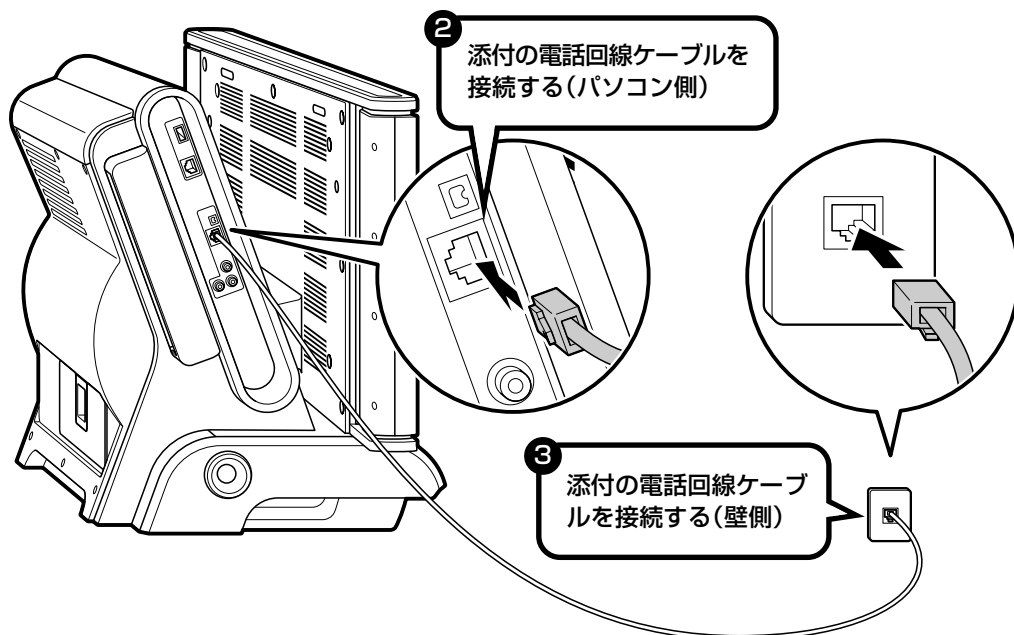
ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「使いほーだい」コースが「フレッツ・ISDN」に対応しています。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

プロバイダに入会する

BIGLOBE（ビッグローブ）に入会する場合を例に、プロバイダ（インターネット接続業者）に入会する手順を説明します。このパソコンからプロバイダに入会を申し込む前に、パソコンと電話線を接続する必要があります。

1 アナログ回線に接続する

アナログ回線の接続に使う電話回線ケーブルは、このパソコンには添付されていません。市販の電話回線ケーブルを用意してください。

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

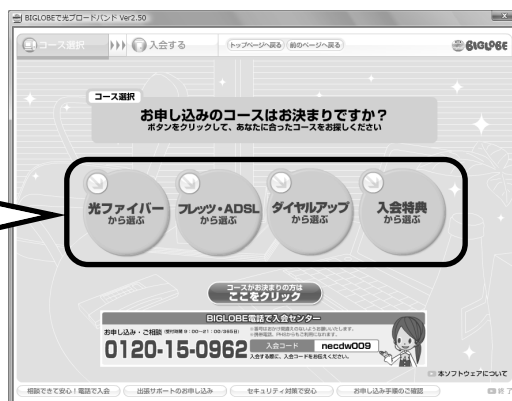
- ここでは、このパソコンから直接入会する手順を説明します。キーボードから自分の名前や住所などを入力する必要があります。
- 「BIGLOBE電話で入会センター」でお電話での入会申し込みもできます。
  BIGLOBE 電話で入会センター
  0120-15-0962
  （受付時間 9:00～21:00　365 日）
  〔入会コード：necdw029〕

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに 24 時間つながっているコンピュータ（「サーバー」といいます）を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役になってくれるのです。プロバイダは、「ISP（インターネット・サービス・プロバイダの略）」と呼ばれることもあります。

2 BIGLOBEへの入会手続きを始める

手順の途中で「ユーザーアカウント制御（続行するには許可が必要です）」画面が表示されたら、「続行」をクリックしてください。

デスクトップ画面の(BIGLOBE で光ブロードバンド）をダブルクリックします。

この後の手順は、申し込もうとしているコースに合わせて、画面に表示される指示にしたがって進めてください。

その他のプロバイダに入会するには

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックして、「インターネットの申込み」をクリックすると、さまざまなプロバイダに入会する手続きができます。

入会したいプロバイダの名前をクリックする

クリックしたプロバイダのサービス内容などが、同じ画面の右側に表示されます。その中から「入会する」などの表示をクリックすると、各プロバイダへの入会手続きが始まります。

この方法で入会できるのは、次のプロバイダです。

BIGLOBE、OCN、ODN、So-net、かるがるネット、Yahoo! BB

ケーブルテレビなど、上記以外のプロバイダに入会したい場合、各プロバイダまでお問い合わせください。

入会手続きが完了したら

ブロードバンド接続(ADSL、FTTH)でルータを利用しない場合

ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置とこのパソコンを直接接続してブロードバンド接続する場合は、「ブロードバンド接続の設定」(112ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。

ブロードバンド接続(ADSL、FTTH)でルータを利用する場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用してブロードバンド接続する場合は、「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(108ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。ルータには、ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置を接続します。

ダイヤルアップ接続を利用する場合

「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「FAXモデム」をご覧になり、設定をおこなってください。FAXや郵送でプロバイダに入会申し込みをした場合は、まず「プロバイダに入会する」(104ページ)の手順でこのパソコンとアナログ回線を接続してから、設定をおこないます。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続を利用される場合、このパソコンに接続する機器の種類や設定については、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

ルータを利用したブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

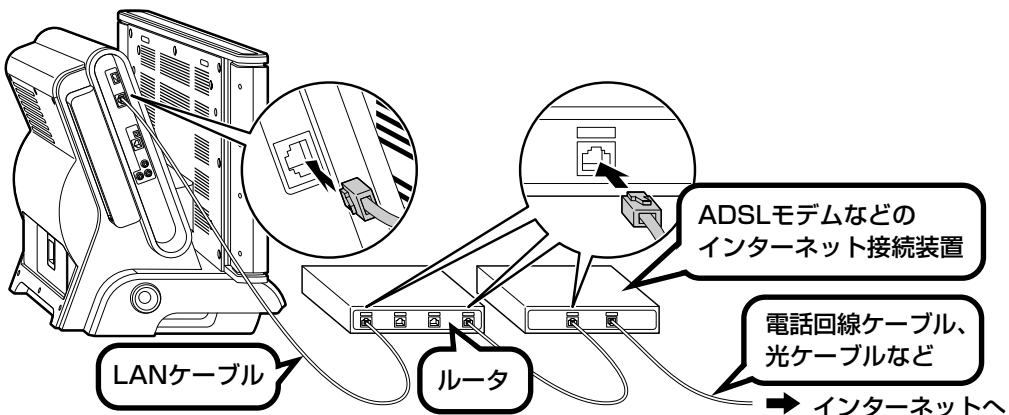
LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

- ADSL：ADSLモデム
- FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）
- CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

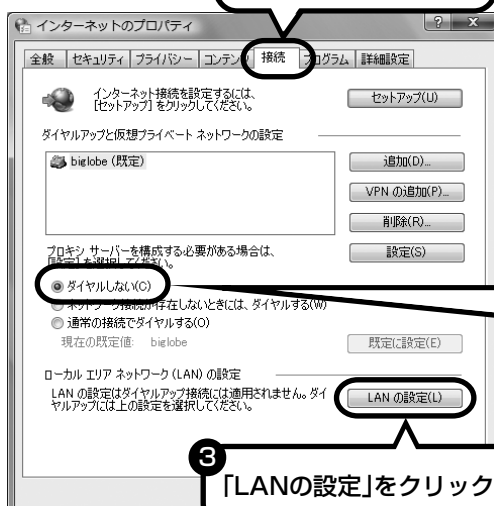
1 図のように接続する

- ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。
- ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ルータとパソコンを接続したら

ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

・接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。

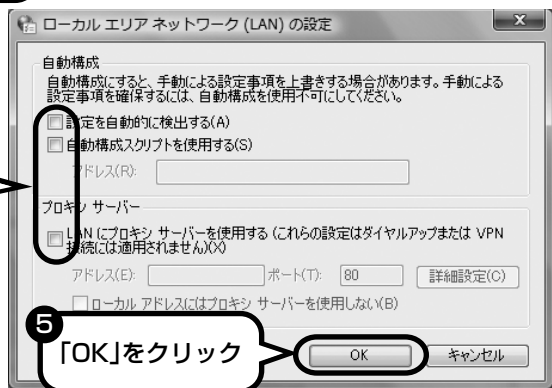
・ユーザー名、パスワードについては、113ページをご覧ください。

2 インターネットのプロパティを表示する

❶ をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリック

❸「ネットワークとインターネット」をクリック

❹「インターネットオプション」をクリック

3 「ダイヤルしない」に設定する

「ダイヤルしない」をクリックできないときは、そのまま「LANの設定」をクリックして、次の手順に進んでください。

☑になっている項目があるときは、クリックして☐に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

4 パソコンを再起動する

しばらくすると、パソコンの電源が切れ、自動的にもう一度電源が入ります（再起動）。

これで、ルータを利用したブロードバンド接続の設定は完了です。「インターネットに接続する」（114ページ）へ進んでインターネットへの接続を試してください。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

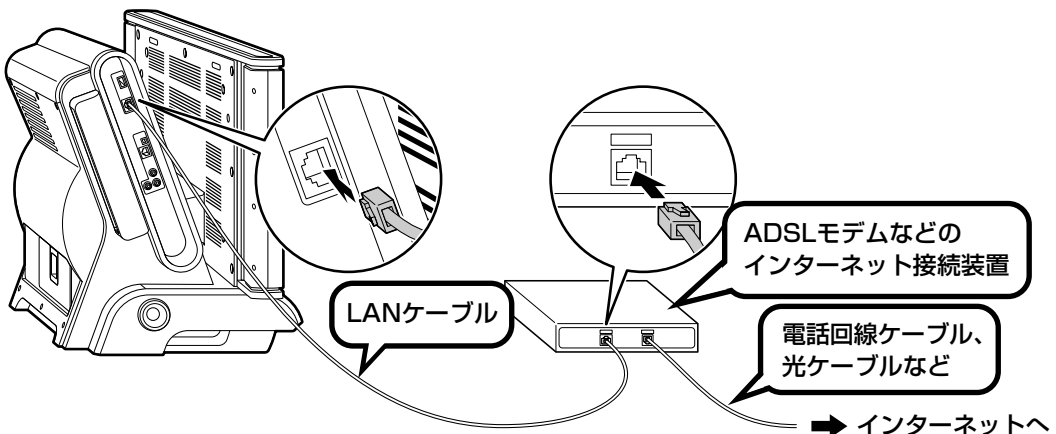
LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の２種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSLモデム
・FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）
・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

1 図のように接続する

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

2 設定をする

詳しい設定方法については、回線業者またはプロバイダにお問い合わせください。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、BIGLOBEの場合は「ユーザID」と呼ばれます。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

これで、ルータを利用しないブロードバンド接続の設定は完了です。次回からは、次ページの方法でインターネットに接続できます。

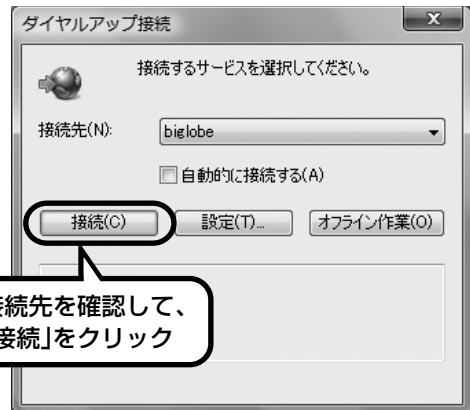
インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。

「接続」をクリックすると、Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます（設定によっては、パスワードを入力する画面が表示されます）。

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用している場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて次ページの「メールソフトを設定する」へ進んでください。

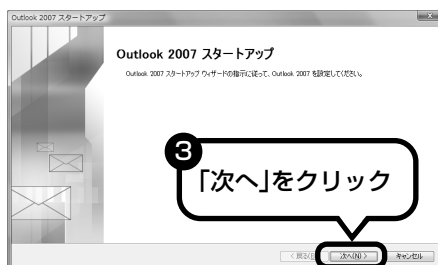
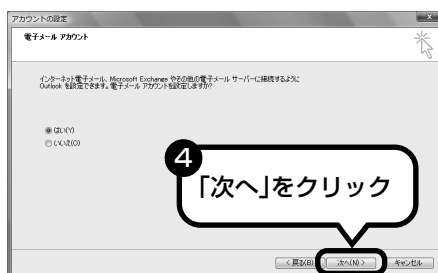
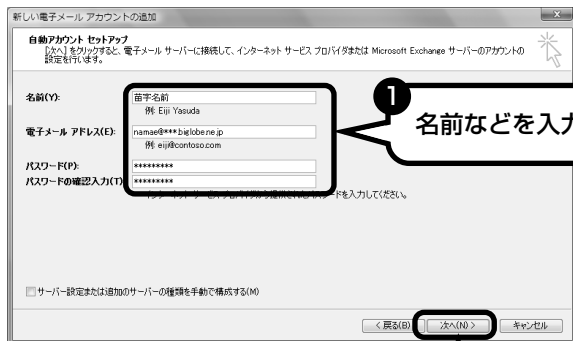
メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook（アウトルック）というソフトが用意されています。

・ADSLやFTTHで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも併せてご覧になり、設定することをおすすめします。

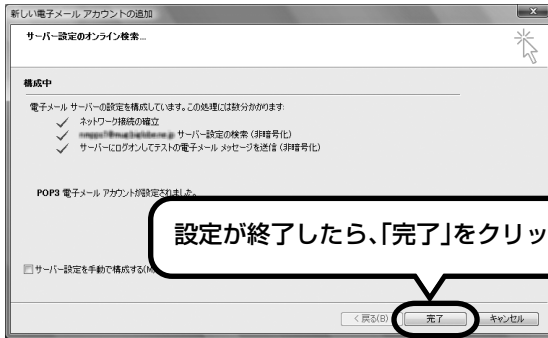
・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Windows® メール」というソフトでメールを利用できます。Windows® メールの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「Windows メール」をご覧ください。

・Outlookのセットアップ、インストールについてのお問い合わせ先（Microsoft）
月〜金曜日　午前9時30分〜午前12時、午後1時〜午後7時
土曜日・日曜日　午前10時〜午後5時／指定休業日、年末年始、祝祭日除く
東京：03-5354-4500（有料）／大阪：06-6347-4400（有料）
インターネットでのお問い合わせは
URL：http://support.microsoft.com/select/?target=assistance
その他、基本操作などについてのお問い合わせ先は『パソコンのトラブルを解決する本』の「ソフトのサポート窓口一覧」をご覧ください。

1 Outlookを起動する

2 サーバーのアカウントを自動で設定する

サーバーの自動アカウント設定に失敗したときは、設定内容を確認し、「次へ」をクリックしてください。それでも設定できない場合は、「サーバーの自動アカウント設定に失敗したら」(118ページ)をご覧ください。

■ 次の項目に入力してください。

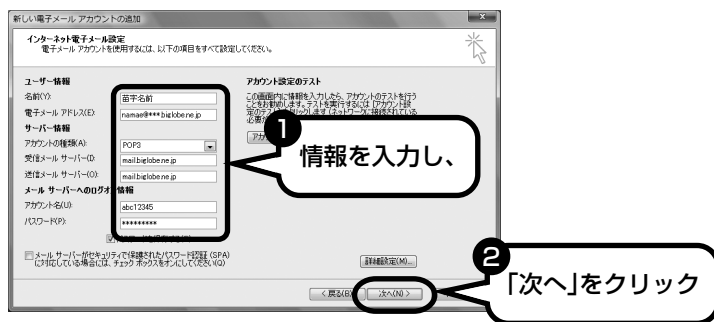
名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。
パスワードの確認入力	確認のため、上記パスワードを再度入力します。

3 メールの設定を完了する

・セットアップが完了すると、「ユーザー名の指定」画面、「マイクロソフトソフトウェアライセンス条項」に同意する画面、プライバシーオプションを設定する画面やMicrosoft Updateを利用するための登録画面などが表示されます。説明をよく読んで、画面の指示にしたがって進めてください。
Microsoft Updateについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「Windows を更新する」-「Microsoft Update とは」をご覧ください。

・手順の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックしてください。

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

サーバーの自動アカウント設定に失敗したら

「メールソフトを設定する」の手順２（116ページ）で設定に失敗した場合は、サーバーの設定を手動でおこなうことができます。
手動でおこなうには、失敗した画面で「サーバー設定を手動で構成する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。その後、「電子メールサービスの選択」の画面で「インターネット電子メール」を◉にして「次へ」をクリックします。
次の画面が表示されたら、それぞれの情報を入力してください。

■ この画面では、次の項目に入力してください。

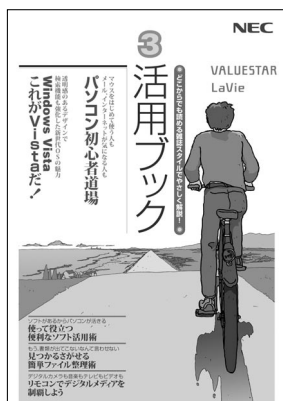
名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
アカウントの種類	ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は「IMAP」を選びます。詳しくはプロバイダに確認してください。
受信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー	会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント

- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、ウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
このほか、パソコンやインターネットを安心して使うために注意することを『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」で紹介しています。
このページと併せてご覧になり、セキュリティ対策をしてください。

『活用ブック』で紹介していること

- Windows Update
  インターネットを通じて、Windows の問題点を修復する「Windows Update」について説明しています。
- ウイルス対策ソフト
  このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」について説明しています。この後の「パソコンをウイルスから守るために」と併せてご覧ください。
- 個人情報を守るために
  クレジットカード番号などの大切な個人情報が流出するのを防ぐために、注意しなければいけないことを紹介しています。
- 無線 LAN を使うとき
  無線 LAN を使うときに、特に注意しなくてはいけないセキュリティの設定を説明しています。

パソコンをウイルスから守るために(1)

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CDやDVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

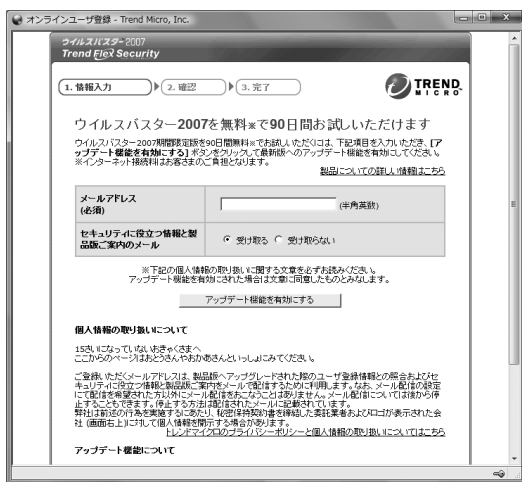
このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新(「アップデート」といいます)してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、はじめてアップデートを利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、すべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、ライセンスキーを入力していただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第5章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第6章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、はじめてアップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるため、アップデート機能を有効にする必要があります。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下のを右クリックして、「アップデート開始」をクリックしてください。表示された画面の内容をよく読み、必要事項を記入してから、「アップデート機能を有効にする」をクリックしてください。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために(2)

ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「リアルタイム検索」といいます。「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。

ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する(「リアルタイム検索」が有効)設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下のを右クリックして表示されるリストの「リアルタイム検索」右側にがついていないときは「リアルタイム検索」は無効です。がついているときは有効です。

「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「リアルタイム検索」を一時的に無効にすることができます。

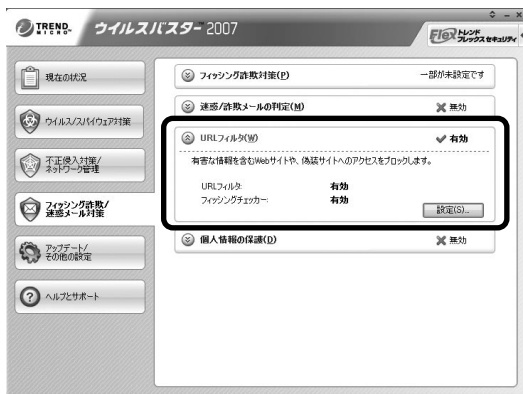
また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「リアルタイム検索」を一時的に無効に設定してください。

「リアルタイム検索」の有効/無効設定について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

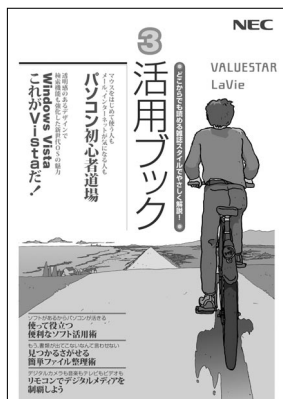
その他のウイルス対策ソフトを使う

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うこともできます。

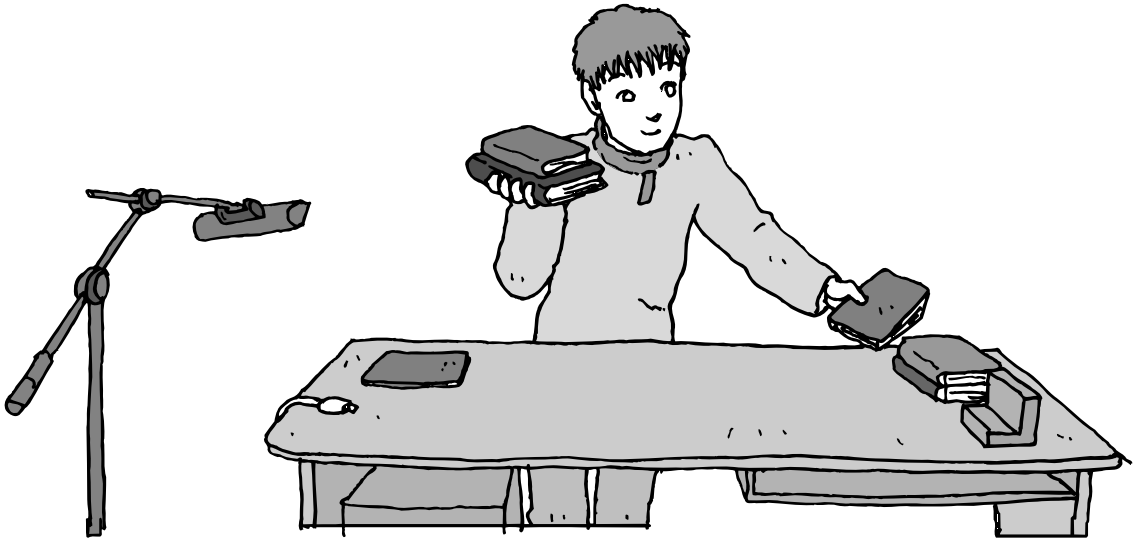
「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除(アンインストール)してください。削除方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

お子様を有害ホームページから守るために

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報や違法情報を含むホームページもあります。
このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれる「ウイルスバスター」のURLフィルタ機能を使うことをおすすめします。
利用者それぞれに適した設定ができるため、お子様も安心してインターネットを楽しめるようになります。

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする **126**

古いパソコンからデータを移す **128**

周辺機器を使えるようにする **131**

ソフトを移す **132**

インターネットを使えるようにする

これまでのパソコンで、インターネットを利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

CATVのかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

ブロードバンドの接続、設定をおこなう

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、パソコンと通信回線の接続、インターネットの設定、メールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第５章の該当するページをご覧ください。

ルータを利用する場合の接続設定をおこなう

「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(108ページ)をご覧ください。

ルータタイプのADSLモデムを利用している場合も同じです。

ルータを利用しない場合の接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(112ページ)をご覧ください。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(114ページ)をご覧ください。

設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(115ページ)をご覧ください。

インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、「古いパソコンからデータを移す」(128ページ)へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

ダイヤルアップの接続、設定をおこなう

パソコンを買い替えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り換えたいかたも、まず、ダイヤルアップ接続をおこない、その後でプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

パソコンを電話回線に接続する

「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「FAXモデム」をご覧ください。

パソコンの設定をおこなう

「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「FAXモデム」をご覧ください。

操作を始める前に、これまでのパソコンで利用していたアクセスポイントの電話番号を調べておいてください。アクセスポイントとは、プロバイダに接続するための電話番号です。わからないときは、プロバイダにお問い合わせください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(115ページ)をご覧ください。

インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

古いパソコンからデータを移す

「Windows 転送ツール」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

「Windows転送ツール」で移行できるデータ

次のデータを移行することができます。

・「Internet Explorer」の設定と「お気に入り」
・「Outlook」の予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・電子メールのアカウント、アドレス帳や送受信データ
・ユーザーアカウントおよび設定
・フォルダとファイル（音楽、画像、ビデオなど）
・プログラムの設定

移行される内容について詳しくは、「ヘルプとサポート」で、「Windows 転送ツール」を検索して「ファイルと設定を転送する：よく寄せられる質問」をご覧ください。

「Windows転送ツール」の利用条件

古いパソコンのOS（オーエス）が次のいずれかであること

・Windows Vista
・Windows XP
・Windows 2000 ※

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、「Windows転送ツール」は利用できません。

※：Windows 2000をご利用の場合、プログラムの設定とシステムの設定は移行できません。

1 「Windows転送ツール」を使う準備をする

ご使用の状況によって、次のものが必要になる場合があります。

・書き込み可能なCDまたはDVD
・USBフラッシュメモリまたは外付けハードディスク
・LANケーブル
・転送ツールケーブル

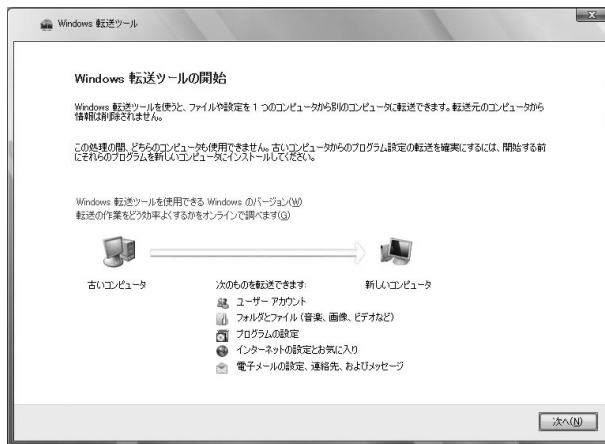
- **使用可能なディスクについて詳しくは、「ヘルプとサポート」をご覧ください。**
- **HUB（ハブ）を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください（こちらの接続方法をおすすめします）。**
- **2台のパソコンをLANケーブルで直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**
- **複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。**

2 「Windows転送ツール」を起動する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックしてください。

3 画面の表示にしたがい操作する

画面の説明を読んで、「次へ」をクリックします。

その後は、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows Vistaに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカーのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカーのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows Vistaに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、古いパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

ソフトを移す

古いパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows Vistaに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows Vistaに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンスキーなどが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカーが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

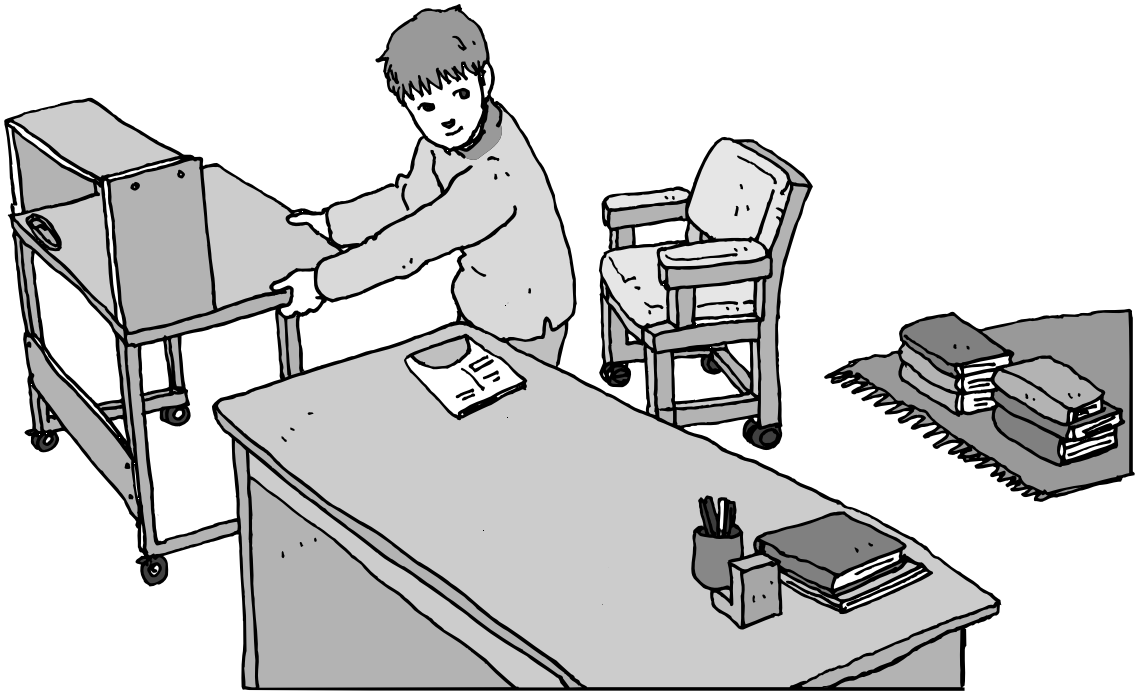
古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第 7 章

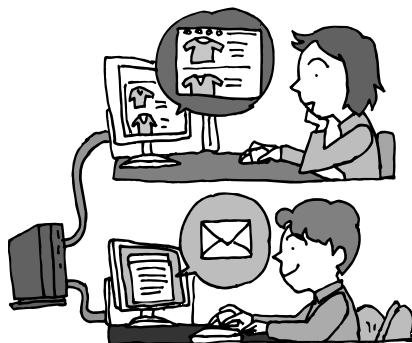
前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットサポーター」が入っています。
家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットサポーター」の使い方を紹介します。

ホームネットワークでできること 134
複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ 136

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

ADSLなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば、「バックアップ－NX」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。
1日1回、週に1回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN（ラン）」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ

「ホームネットサポーター」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

「ホームネットサポーター」の利用条件

「ホームネットサポーター」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

・Windows Vista Ultimate
・Windows Vista Home Premium
・Windows Vista Home Basic
・Windows Vista Business
・Windows XP Professional Service Pack 2
・Windows XP Home Edition Service Pack 2
・Windows XP Media Center Edition 2005

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

ご利用の回線がADSLまたはFTTHであること

ISDN、CATVをご利用の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。
また、はじめてインターネットに接続する際のルータ設定機能は、FTTHをサポートしていません。あらかじめインターネットの接続設定を手動でおこなったあと、ホームネットサポーターを利用してください。

「ホームネットサポーター」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線などが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定をおこなう必要があります。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

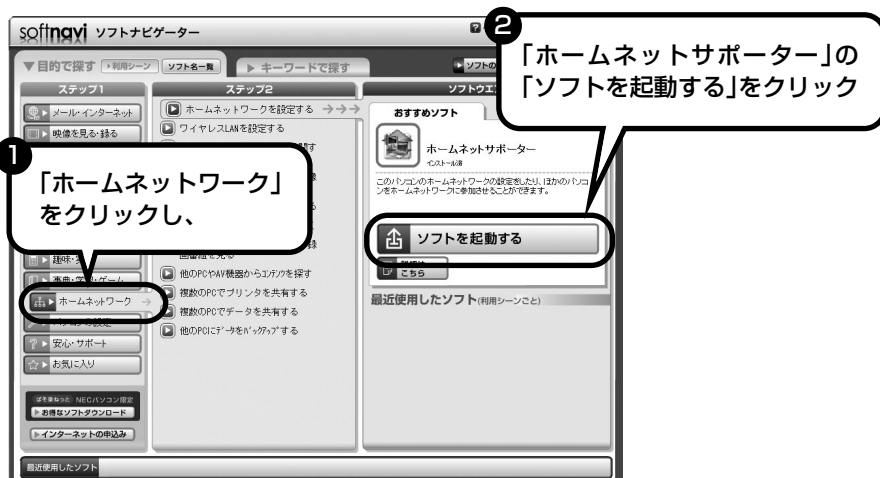
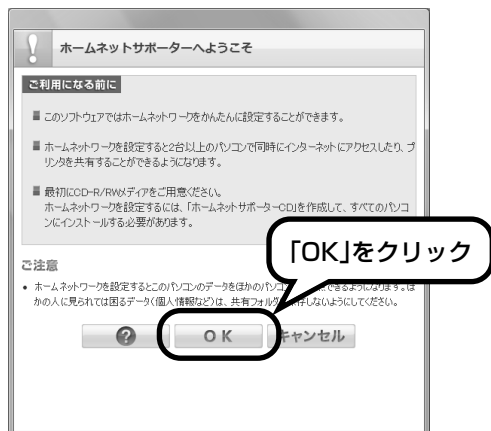
1 「ホームネットサポーター」を使う準備をする

未使用のCD-RまたはCD-RWを1枚用意します。
ホームネットワークに接続するほかのパソコンに、「ホームネットサポーター」をインストールするCDを作成します。

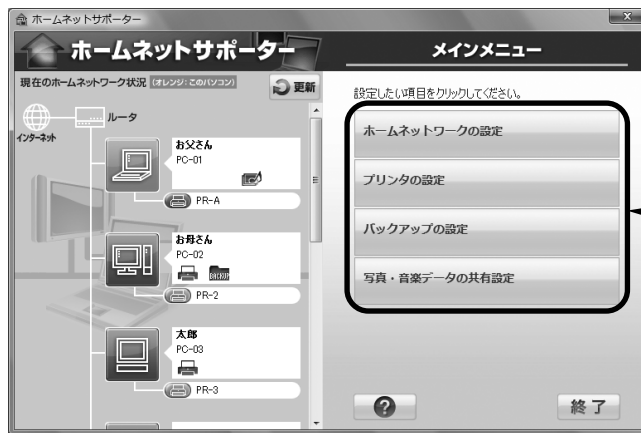
複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者のユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

2 「ホームネットサポーター」を起動する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックしてください。

「ホームネットサポーターへようこそ」の画面が表示されます。

ホームネットワークを設定する画面が表示されます。画面の説明を見て、ホームネットワークの初期設定をしてください。設定が終わると次の画面が表示されます。

3 ホームネットワークを設定する

メインメニューから設定したい項目をクリックし、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

メインメニューからは次の設定をおこなえます。

・ホームネットの設定
・プリンタの設定
・バックアップの設定
・写真・音楽データの共有設定

インストールされているソフトウェアやその他の条件により、利用できる機能には違いがあります。また、パソコンのOSによっては、画面や設定手順が異なります。

第8章

パソコン内部に取り付ける

メモリ（別売）を増設して、パソコンをパワーアップすることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

メモリ……………………………………………… **140**

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM（ラム）ボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める

このパソコンでは、最大2Gバイトまで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設RAMボードなどを準備します。

増設RAMボードを取り付ける

本体のカバーを取り外し、用意した増設RAMボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーをもとに戻します。

メモリが増えたかどうか確認する

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 **デスクトップの（サポートナビゲーター（電子マニュアル））をダブルクリック**

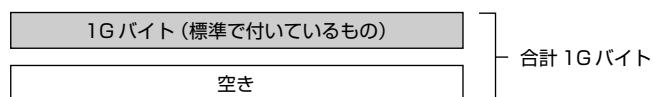
パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

2 **をクリック**

メモリ容量が表示されます。

メモリ容量は実際より数Ｍバイト少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

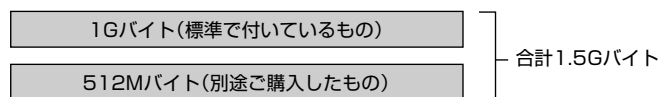
メモリの増やし方の例

このパソコンは、デュアルチャネルのメモリアクセスに対応しており、同容量のRAMボード（SO-DIMM：エスオーディム）が２枚取り付けられていると、より高速な動作が可能です。
ここでは、標準で 1G バイトのメモリが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

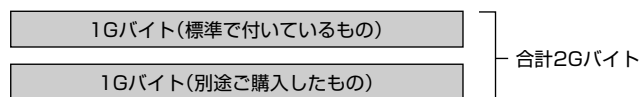
空いている残りの 1 スロットに、増設 RAM ボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設 RAM ボードに取り替えることもできます。メモリは、最大で 2G バイト（1G バイトの増設 RAM ボード× 2 枚）まで増やすことができます。

例 1：1.5G バイトにする場合

512M バイトの増設 RAM ボードを 1 枚追加します。

1Gバイト(標準で付いているもの)
512Mバイト(別途ご購入したもの)
合計1.5Gバイト

例 2：2G バイト（最大）にする場合

1G バイトの増設 RAM ボードを 1 枚追加します。

1Gバイト(標準で付いているもの)
1Gバイト(別途ご購入したもの)
合計2Gバイト

デュアルチャネルとは、同容量/同タイプの2枚のRAMボードに同時にアクセスすることで、メモリのデータ転送性能を約2倍に高速化する技術のことです。

- **ご購入時に同容量の RAM ボードが 2 枚取り付けられているモデルでは、デュアルチャネルでメモリアクセスがおこなわれます。**
- **このパソコンに別売の同容量の増設RAMボードを2枚取り付けると、デュアルチャネルでメモリアクセスがおこなわれるようになります。**
- **実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。**

このパソコンで使える増設RAMボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。このパソコンでは次の増設 RAM ボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PC-AC-ME019C	512Mバイト
PC-AC-ME020C	1Gバイト

(DDR2 SDRAM/SO-DIMM、PC2-5300タイプ)

- このパソコンでは、「SIMM(シム)」や DDR2 が付かない「SDRAM/SO-DIMM」というタイプの増設 RAM ボード(メモリ)は使用できません。間違ってご購入しないように注意してください。
- 市販の増設RAMボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

- 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAM ボードの金属端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

増設RAMボードの取り付けと取り外し

増設 RAM ボードの取り付け方

⚠注意

RAM ボードを差し込むときは、強い力が必要になることがありますので指をぶつけたり、切ったりしないように、注意して作業してください。

増設 RAM ボードを取り付けるときは、本体背面のカバーを開けて作業します。

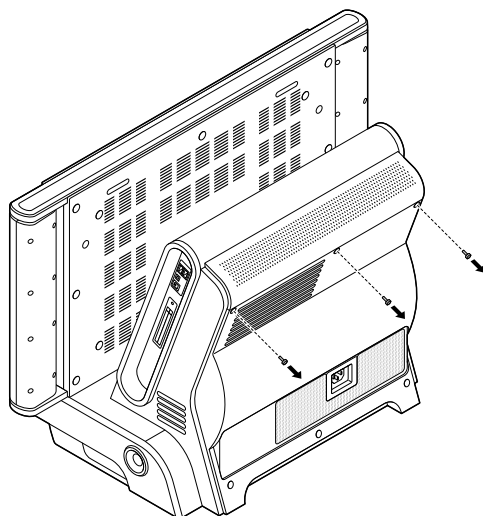
1 パソコンの電源を切る

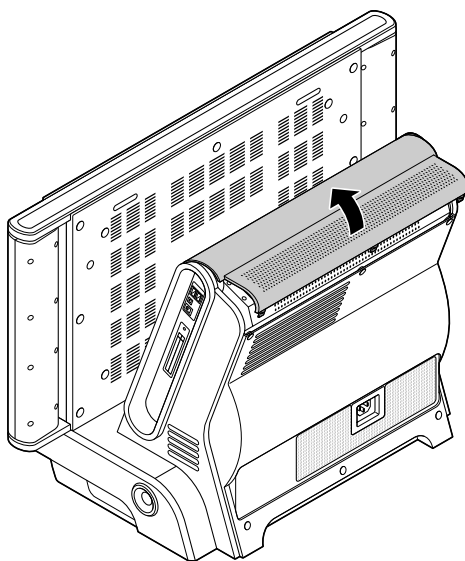
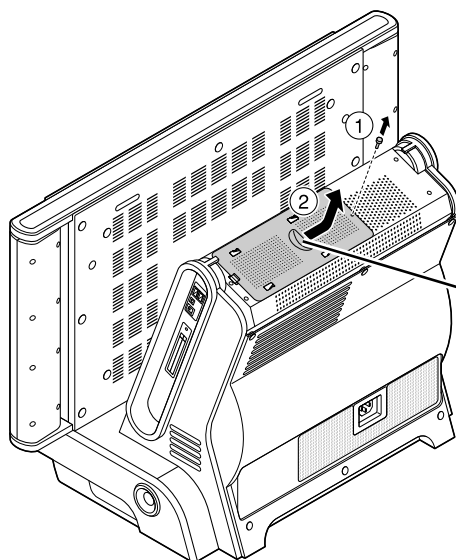
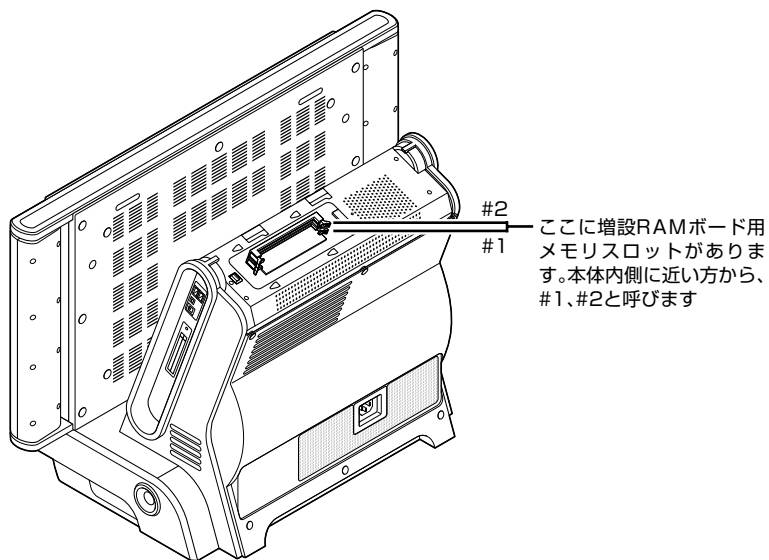
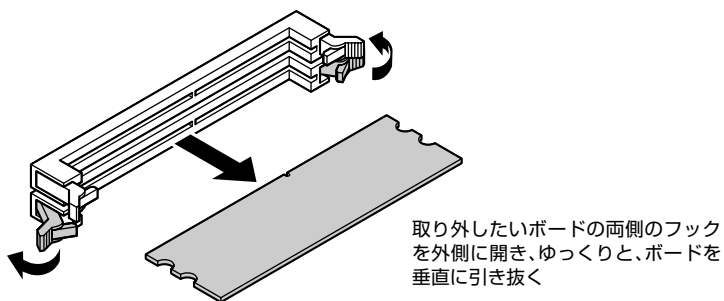
通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windows を起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（70 ページ）の手順で電源を切ってください。

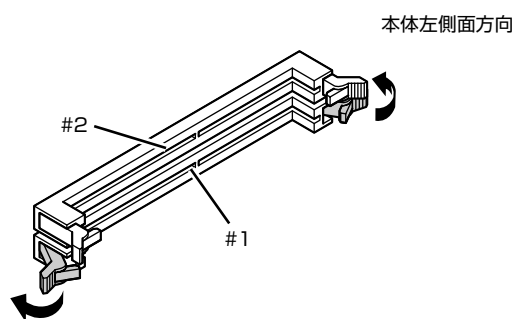
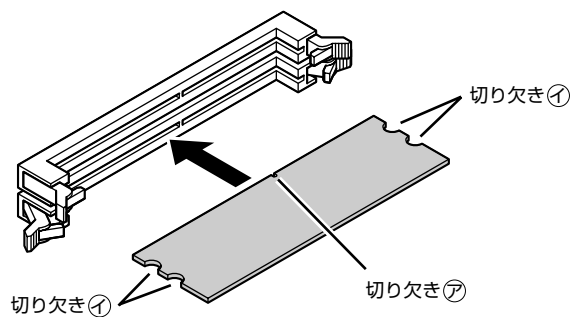
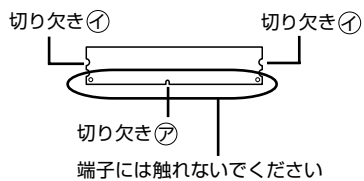
2 アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて、静電気を取り除く

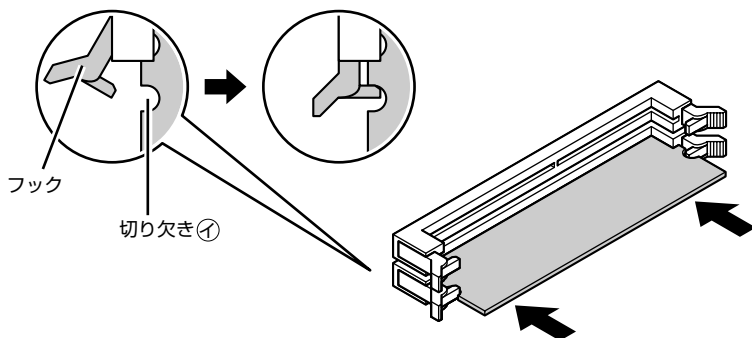
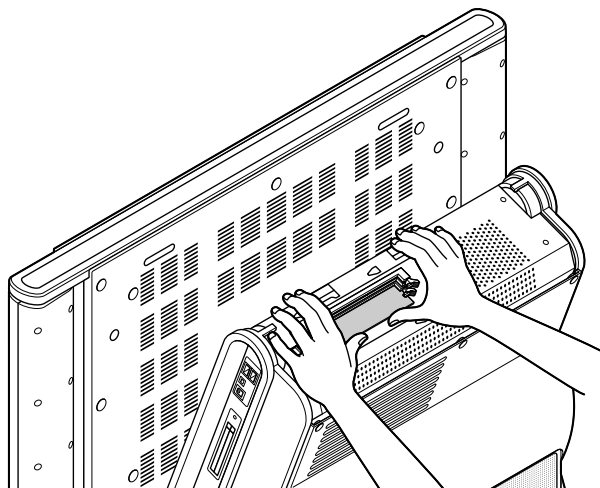
増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になります。

3 電源ケーブルなど、本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

4 図のネジをプラスドライバーでゆるめて取り外す

5 **カバーを本体前面側に持ち上げて取り外す**

内側にもカバーが付いています。

6 **図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、内側のカバーを取り外す**

ここで、増設RAMボード用のメモリスロットの位置を確認しておいてください。

メモリスロット両方にメモリが取り付けられているときは、片方または両方のメモリを取り外してから、別途用意したメモリを取り付けます。

- **フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。**
- **メモリは大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMボードおよび標準で付いていたRAMボードは、大切に保管してください。**

7 ボードを差し込むメモリスロットの両側のフックを外側に開く

8 切り欠き㋐の方向とメモリスロットにあるミゾの位置が合うように、空いているメモリスロットにボードを垂直に差し込む

増設RAMボードは、両手で持ってください。

メモリスロットのミゾとボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

9 **次の図のように本体の上面を支えたまま、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑に引っかかるまで、親指で増設RAMボードを奥まで押し込む**

差し込んだ後、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑にかかっているか確認してください。
かかっていない場合には、指でフックを切り欠き㋑に引っかけてロックしてください。指でロックさせる場合には、強い力は不要です。うまくロックできないときは、無理に押し込まずに、もう一度ボードを差しなおしてください。

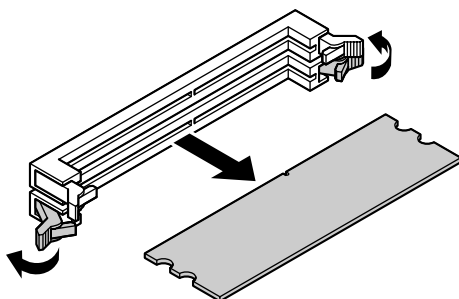
しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

10 内側のカバーをもとに戻し、外したネジで取り付ける

11 カバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体背面に取り付ける

RAM ボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順１～６をおこない、カバーと内側のカバーを取り外す

2 メモリスロットの両側のフックを外側に開き、ゆっくりとボードを垂直に引き抜く

・フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。

・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMボードおよび標準で付いているRAMボードは、大切に保管してください。

3 内側のカバーをもとに戻し、外したネジで取り付ける

4 カバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体背面に取り付ける

増やしたメモリ容量を確認する

パソコンの電源を入れ、「メモリを確認する」（141 ページ）の手順で増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設 RAM ボードを取り付けているか？**

付　録

テレビ放送の受信環境を確認する …… 152
RAID機能について（RAID機能搭載モデルのみ） …… 162
Viiv™デジタルメディアサーバを使う …… 170
パソコンのお手入れ …… 176
ケーブルカバーの取り外し方と取り付け方 …… 178
DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは …… 180
キーボードとマウスを登録しなおす …… 182
アフターケアについて …… 185
パソコンの譲渡、廃棄、改造について …… 186
仕様一覧 …… 190
「サポートナビゲーター」詳細目次 …… 198
索引 …… 201
各部の名称 …… 巻末

テレビ放送の受信環境を確認する

まずはこのページで、地上デジタル放送が見られるかどうか確認してください。さらに詳しい環境の区別については、次ページをご覧ください。

テレビをケーブルテレビで見ている場合

ケーブルテレビの再配信方式を確認してください。
再配信方式について詳しくは、ご利用のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

同一周波数パススルー方式の場合
周波数変換パススルー方式の場合

対応

本機で地上デジタル放送を見られます。
「アンテナ線の種類」（11 ページ）に進んでください。

それ以外の方式の場合

本機ではケーブルテレビで地上デジタル放送を見られません。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

テレビをケーブルテレビ以外の方法で見ている場合

次のチェックで、お使いの環境を確認してください。

❶ **現在、テレビなどで地上デジタル放送を見ていますか？**

見ている

本機で地上デジタル放送を見られます。
「アンテナ線の種類」（11 ページ）に進んでください。

見ていない

❷ **お住まいは集合住宅ですか？戸建て住宅ですか？**

集合住宅

対応

集合住宅の管理会社、大家さんなどに、地上デジタル放送が受信できるかどうか確認してください。

戸建て住宅

❸ **お住まいに、UHFのアンテナは立っていますか？**

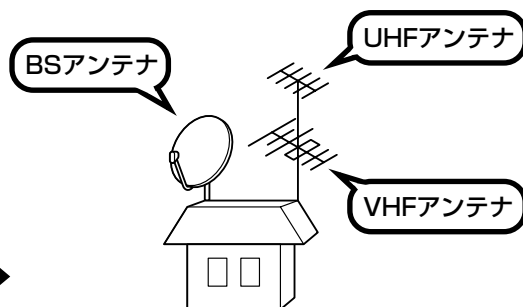
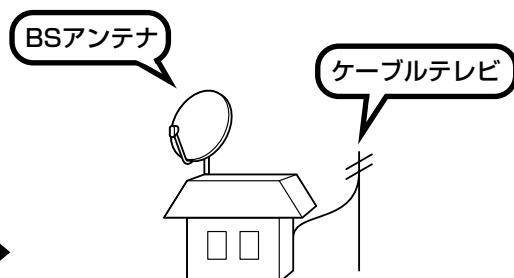
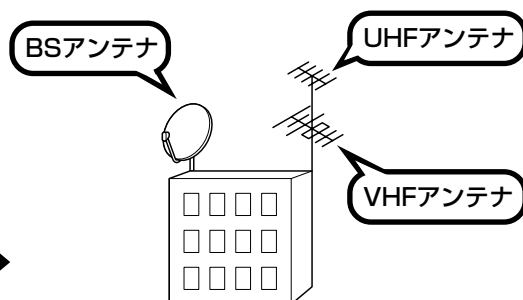
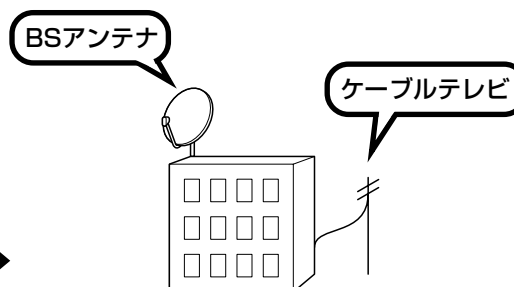
立っている

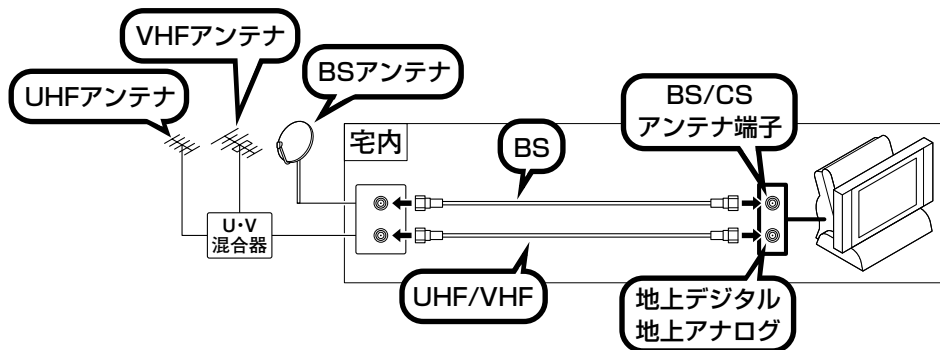
対応

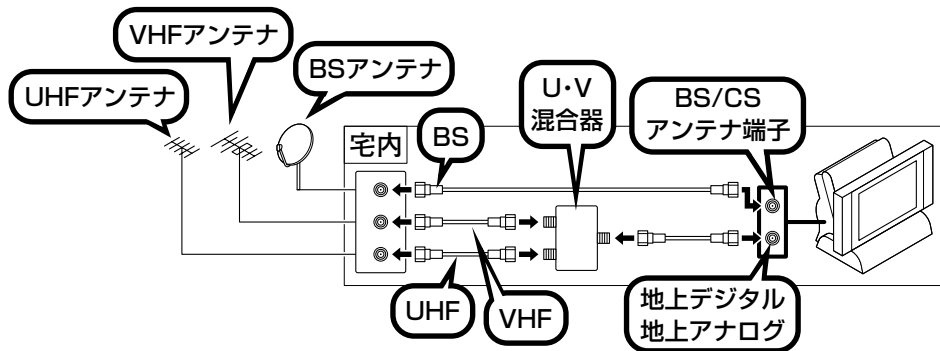
多くの場合、地上デジタル放送を見られます。
ただし、アンテナの調整などが必要になる場合があります。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

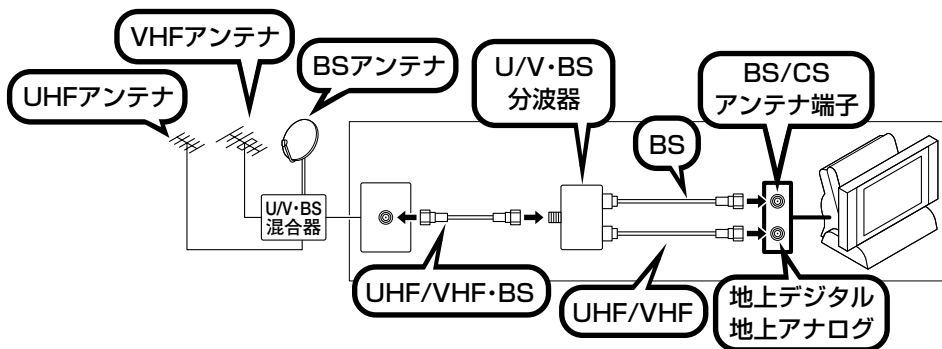
立っていない

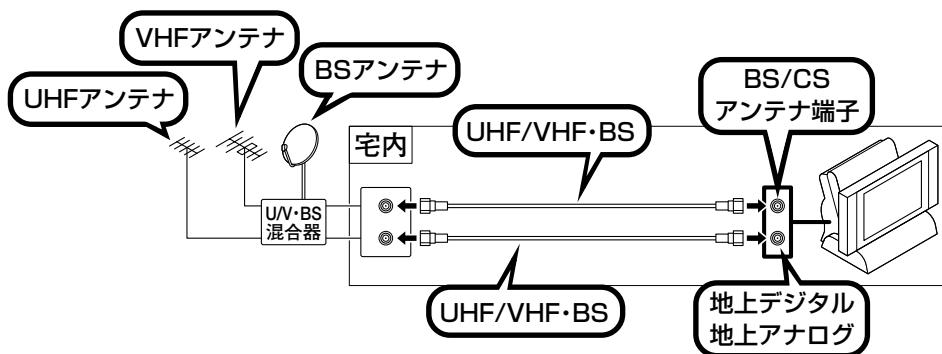
地上デジタル放送に対応した UHF アンテナを立てる必要があります。
詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

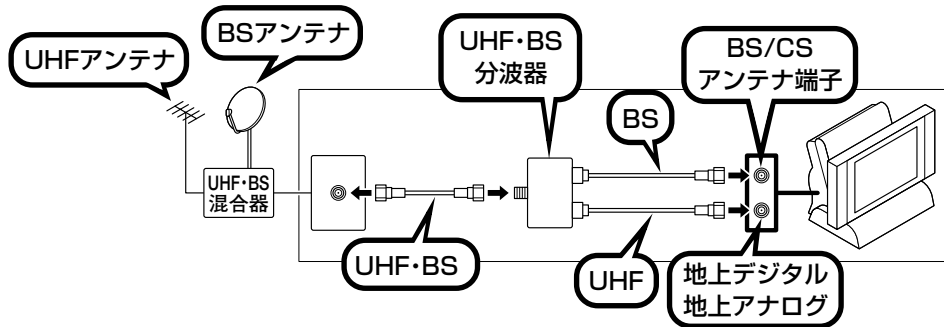
お住まいのテレビ受信アンテナの種類や、受信方法によって、接続方法が異なります。

戸建てで､個別受信の場合

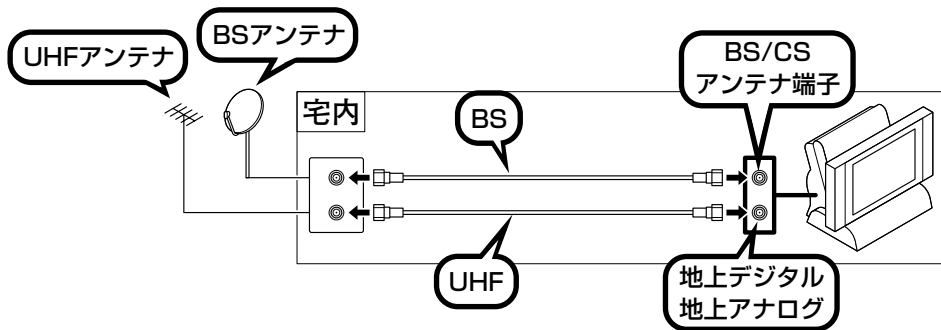
UHF・VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（1）

・地上デジタル放送：受信できます※１（158ページ）。
・BSデジタル放送 ：受信できます※２（158ページ）。

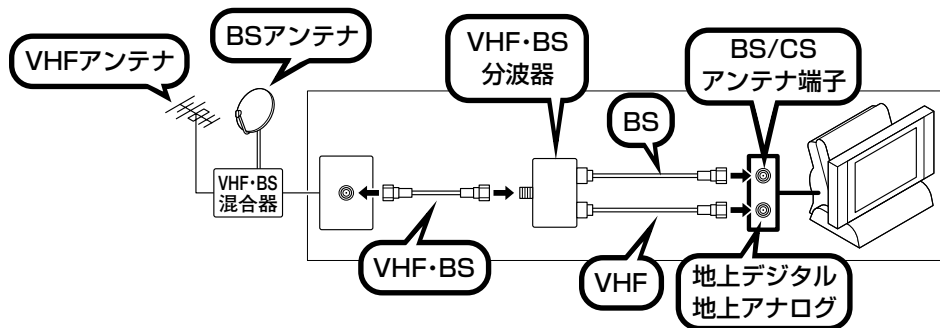
UHF・VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（2）（UHF/VHFアンテナ端子が別々に用意されている場合）

市販のUHFとVHFの混合器が必要になります。
・地上デジタル放送：受信できます※１（158ページ）。
・BSデジタル放送 ：受信できます※２（158ページ）。

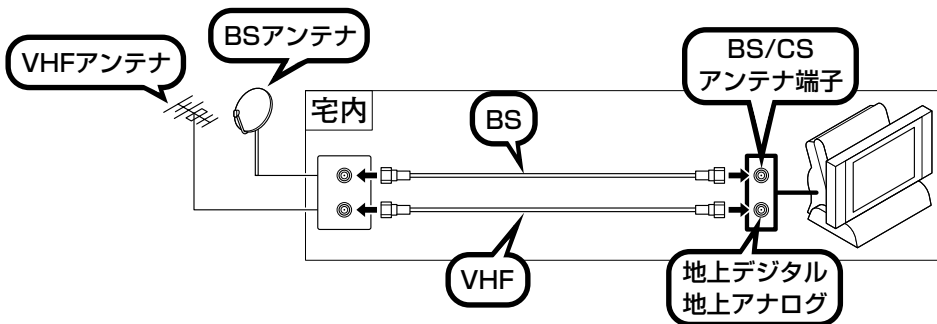
UHF・VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（3）（UHF/VHF アンテナと BS アンテナの端子が分かれていない場合）

市販の UHF/VHF と BS の分波器が必要になります。
・地上デジタル放送：受信できます※１（158 ページ）。
・BS デジタル放送 ：受信できます※２（158 ページ）。

UHF・VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（4）

・地上デジタル放送：受信できます※１（158 ページ）。
・BS デジタル放送 ：受信できます※２（158 ページ）。

UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（1）
（UHF アンテナと BS アンテナの端子が分かれていない場合）

市販の UHF と BS の分波器が必要になります。
・地上デジタル放送：受信できます※ 1（158 ページ）。
・BS デジタル放送 ：受信できます※ 2（158 ページ）。

UHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（2）

・地上デジタル放送：受信できます※ 1（158 ページ）。
・BS デジタル放送 ：受信できます※ 2 ※ 3（158 ページ）。

VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（1）
（VHF アンテナと BS アンテナの端子が分かれていない場合）

市販の VHF と BS の分波器が必要になります。
・地上デジタル放送　：受信できません。受信するためには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを設置する必要があります。
・BS デジタル放送　：受信できます※２（158 ページ）。

VHFアンテナで地上アナログ放送を受信し、BSアンテナでBS放送を受信している場合（2）

・地上デジタル放送：受信できません。受信するためには、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナを設置する必要があります。
・BS デジタル放送：受信できます※２※３（158 ページ）。

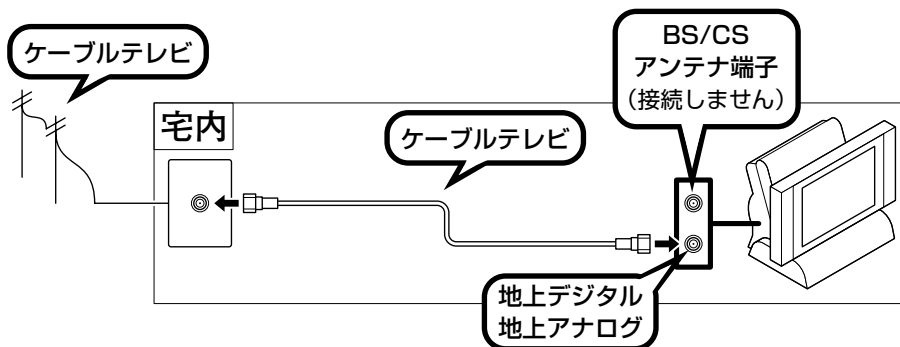
※１：ご使用のUHFアンテナが地上デジタル放送に対応していない場合や、アンテナが地上デジタル放送の電波送信塔の方向に向いていない場合は、地上デジタル放送を受信できません。また、お住まいの地域で地上デジタル放送が開始されていない場合は受信できません。

※２：ご使用のBSデジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様宅内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

※３：お客様の環境によって、BSデジタル放送を受信するためには、アンテナに電源を供給する必要がある場合があります。詳しくは『テレビを楽しむ本』付録の「アンテナの設定をする」をご覧ください。

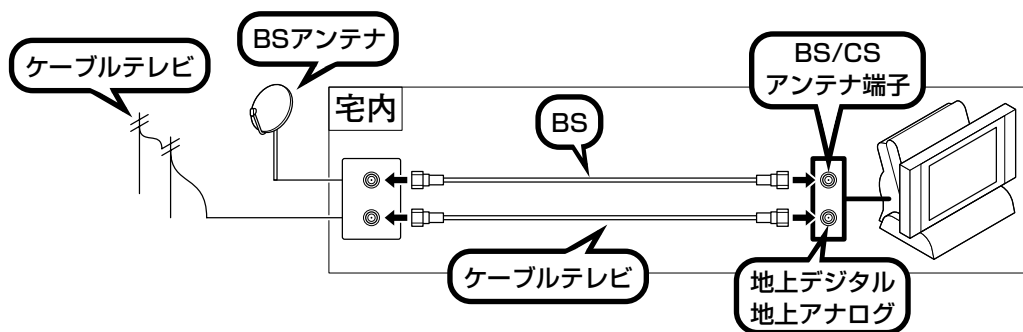
アンテナ線や受信環境について詳しくは、お近くの電器店にご相談ください。

戸建てで、ケーブルテレビ受信の場合

ケーブルテレビで地上アナログ放送、地上デジタル放送、BSデジタル放送を受信している場合

・地上アナログ放送：本機では、ケーブルテレビで再送信しているUHF/VHF帯放送と、C13～C38チャンネルが受信できます※４。

・地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。

・BSデジタル放送：アナログ変換放送のみ対応しています。この場合、本機のBSチャンネルでは受信できません。

ケーブルテレビで地上アナログ放送、地上デジタル放送を受信し、BSデジタル放送はアンテナで受信している場合

- 地上アナログ放送：本機では、ケーブルテレビで再送信しているUHF/VHF帯放送と、C13〜C38チャンネルが受信できます※4。
- 地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
- BSデジタル放送：受信できます※5※6。

※4：ケーブルテレビ事業者により、視聴制限（スクランブル）を設定されたチャンネルは受信できません。

※5：ご使用のBSデジタル放送アンテナが110度CSデジタル放送に対応していない場合や、お客様内の配線状況によっては、110度CSデジタル放送を受信できません。

※6：お客様の環境によって、BSデジタル放送を受信するためには、アンテナに電源を供給する必要がある場合があります。詳しくは『テレビを楽しむ本』付録の「アンテナの設定をする」をご覧ください。

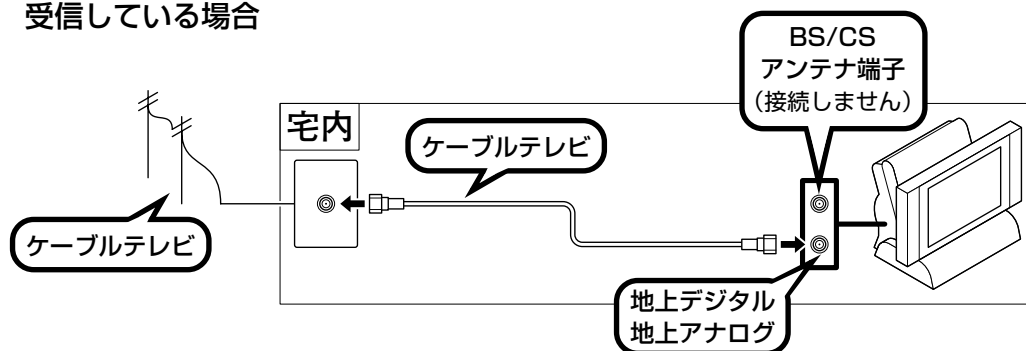
ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

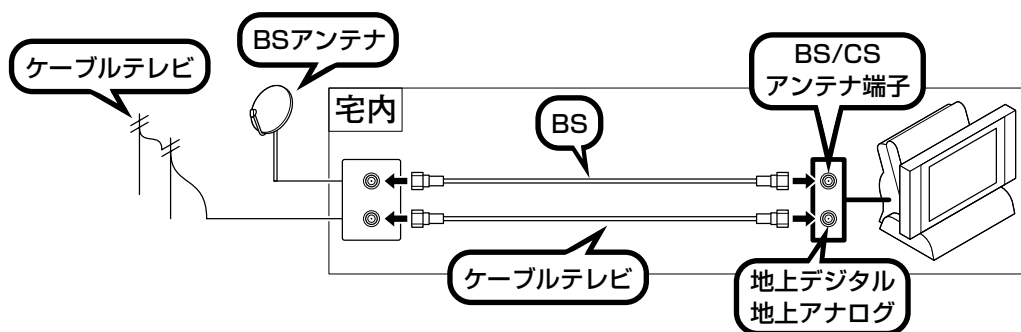
アンテナ線や受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、またはお近くの電器店にご相談ください。

集合住宅で、共聴受信の場合

「戸建てで、個別受信の場合」（154ページ）と同様になります。ただし、お住まいの集合住宅の受信形態によって受信できない場合があります。詳しくは、集合住宅の管理者かお近くの電器店にご相談ください。

集合住宅で、ケーブルテレビ受信の場合

ケーブルテレビで地上アナログ放送、地上デジタル放送、BS デジタル放送を受信している場合

・地上アナログ放送：本機では、ケーブルテレビで再送信しているUHF/VHF帯放送と、C13～C38 チャンネルが受信できます※ 7。
・地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
・BS デジタル放送 ：アナログ変換放送のみ対応しています。この場合、本機の BS チャンネルでは受信できません。

ケーブルテレビで地上アナログ放送、地上デジタル放送を受信し、BS デジタル放送はアンテナで受信している場合

・地上アナログ放送：本機では、ケーブルテレビで再送信しているUHF/VHF帯放送と、C13～C38 チャンネルが受信できます※ 7。
・地上デジタル放送：ケーブルテレビ局が周波数変換パススルー、同一周波数パススルー対応の場合、受信できます。
・BS デジタル放送 ：受信できます※ 8。

※ 7：ケーブルテレビ事業者により、視聴制限（スクランブル）を設定されたチャンネルは受信できません。

※ 8：ご使用の BS デジタル放送アンテナが 110 度 CS デジタル放送に対応していない場合や、お客様内の配線状況によっては、110 度 CS デジタル放送を受信できません。

ケーブルテレビで受信可能な放送については、ケーブルテレビ局にお問い合わせください。アンテナ線や受信環境について詳しくは、ケーブルテレビ局、集合住宅の管理者、またはお近くの電器店にご相談ください。

その他、必要に応じて用意する

アンテナ線が平行フィーダ線になっている場合は、市販の整合器を接続し、同軸ケーブルに変換してください。

RAID機能について（RAID機能搭載モデルのみ）

RAID機能を使えば、より高速で信頼性の高いシステムを構築できます。

RAID機能とは

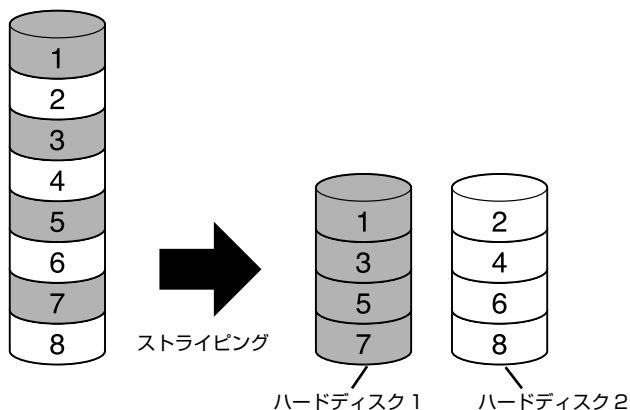
RAID 機能とバックアップについて
RAID（Redundant Array of Inexpensive Disks）とバックアップとは異なります。RAID機能はデータの安全性を向上させる技術ですが、完全なデータ保護を保証するものではなく、RAID機能を搭載しているモデルであってもバックアップの必要性がなくなるわけではありません。大切なデータを失わないために定期的にデータのバックアップを取ることをおすすめします。

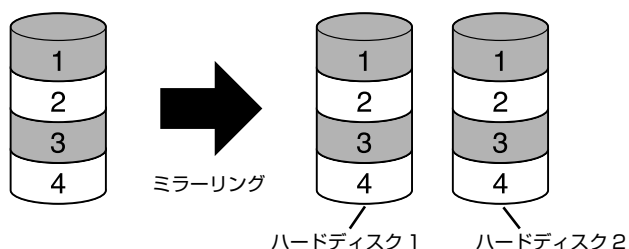
RAID とは、複数のハードディスクをまとめて 1 台のハードディスクとして管理する技術です。RAID 機能を活用することにより、次の効果が期待できます。

・データの安全性向上
　　ハードディスク障害時のデータ損失を防ぎます。
・データ処理の高速化
　　ハードディスクへの読み込み、および書き込みの速度を高速化します。

このパソコンの RAID 機能には、2 つのレベルがあります。それぞれ使用可能なハードディスクの構成、データの安全性、処理の速さが異なります。

RAID0（ストライピング）

2 台以上のハードディスクを 1 つの大きなハードディスクとみなし、データを読み書きする技術です。データの読み込み、書き込みの速度が、RAID0 を構成していない状態に比べて高速化されるというメリットがあります。ハードディスク障害時に重要なデータを保護する機能はありませんが、大容量のデータを取り扱いたい場合に適しています。

RAID1（ミラーリング）

2 台のハードディスクに対して、同じデータを同時に書き込む技術です。そのため、データの安全性に優れており、一方のハードディスクに障害が起きた場合でも、もう一方のハードディスクのデータが無事な場合は、稼動し続けることができます。搭載しているハードディスク容量の半分しか使えませんが、重要なデータの保存に適しています。

各 RAID レベルの特徴を「使用可能な容量」「データの安全性」「処理速度」から比較すると次の表のようになります。

	使用可能な容量	データの安全性	処理速度
RAID0	搭載している全容量	低い	速い
RAID1	全容量の半分	高い	若干遅い

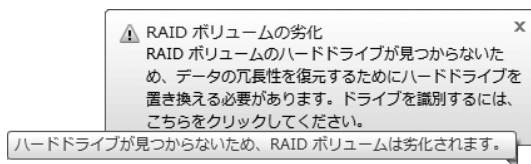
- RAID1はデータの安全性を向上させる技術ですが、完全なデータ保護を保証するものではありません。定期的なデータのバックアップを取ることをおすすめします。
- 電源を入れた後に Intel(R) Matrix Storage Manager option ROM が表示された場合は【Esc】の後、【Y】を押してメニューを終了させてください。このパソコンでは、Intel(R) Matrix Storage Manager option ROM を利用した RAID の設定変更はサポートしていません。ハードディスクのデータがすべて消去される可能性がありますのでご注意ください。

ハードディスク障害が発生したときには

RAID1 では、1 つのハードディスクに障害が発生しても、データが保護され、動作可能な場合があります。すぐにデータのバックアップを取り、修理を依頼してください。

メッセージを確認する

ハードディスクが故障した場合、画面右下のポップアップウィンドウで通知されます。

RAID ボリュームの劣化
RAID ボリュームのハードドライブが見つからないため、データの冗長性を復元するためにハードドライブを置き換える必要があります。ドライブを識別するには、こちらをクリックしてください。
ハードドライブが見つからないため、RAID ボリュームは劣化されます。

修理を依頼する

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Intel(R) Matrix Storage Manager」-「Intel Matrix Storage Console」をクリック**

Intel Matrix Storage Console の画面が表示されます。

2 **「表示」メニューから「詳細モード」を選択する**

3 「RAIDハードドライブ」配下にあるそれぞれのハードドライブの「デバイスポート」を確認する

Intel Matrix Storage Console画面左側のエリアのハードドライブをクリックすると、右側の情報エリアで「デバイスポート」が確認できます。ここで欠番となっている番号のデバイスポートのドライブが故障しているドライブになります。また、左側のエリアで未使用ポートとして表示されるポートの番号は、RAIDコントローラがサポートしているデバイスポート番号を表示しています。

この中には本体で使用していないデバイスポート番号を含みますのでご注意ください。

4 必要なデータのバックアップを取る

「バックアップ－NX」を使用して、必要なデータのバックアップを取ります。手順について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップを始める前に」-「データのバックアップを取る」をご覧ください。

5 再セットアップディスクを作成する

再セットアップディスクを作成していない場合は、ここで作成してください。手順について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

6 修理を依頼する

NEC 121コンタクトセンターにご連絡ください。

フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

RAIDを再構築する

新しいハードディスクに交換した後は、RAID構成の復旧作業をおこないます。ハードディスクの交換後、Intel® Matrix Storage Managerが自動的にRAID構成の再構築をおこなう場合、画面右下のポップアップウィンドウで通知されます。経過を次の手順で確認することができます。

RAIDボリュームの復元
RAIDボリュームは再構築されています。
データの冗長性は復元されています。

- Intel® Matrix Storage Managerをアンインストールしてしまっていると、自動でのRAIDの再構築ができません。「Intel® Matrix Storage Managerについて」(169ページ)をご覧ください。
- RAID再構築中に電源オフ、または休止状態に入った場合、再構築処理は中断されます。パソコンの再起動後、再構築処理は中断された時点から再度実行されます。
- 手順の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「許可」をクリックしてください。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Intel(R) Matrix Storage Manager」-「Intel Matrix Storage Console」をクリック**

Intel Matrix Storage Consoleの画面が表示されます。

2 **「表示」メニューから「詳細モード」を選択する**

3 **左側の表示エリアで「ボリューム」配下にある該当するボリューム名を選択する**

右側の表示エリアの「ステータス」に「再構築中:××%完了」と表示されます。再構築が完了したら、「ステータス」は「正常」と表示されます。

自動での再構築に失敗した場合は、画面右下に「RAIDボリュームは劣化されましたが、再構築できる可能性があります」と表示されます。この場合は、Intel Matrix Storage Consoleの画面上で再構築をおこないます。

「RAID以外のハードドライブ」配下に表示されているハードドライブを右クリックし、「このハードドライブに再構築」、または「スペアとしてマーク」を選択します。画面の指示にしたがってRAIDの再構築をおこなってください。それでも、再構築できない場合は、次の「再セットアップしてRAIDを再構築する」をご覧ください。

再セットアップしてRAIDを再構築する

1 **再セットアップディスクで再セットアップする**

再セットアップディスクで再セットアップをおこない、RAID構成を再構築します。

詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」をご覧ください。

2 **バックアップデータを復元する**

再セットアップをおこなった場合は、ハードディスクのデータは消去されています。ハードディスク交換依頼前に作成しておいたバックアップデータを復元してください。

- RAIDの再構築中はハードディスクの読み書きをおこなうような動作は避けてください。再構築完了後におこなってください。特にTV録画再生についてはコマ落ちなどの原因になりますので再構築中はおこなわないでください。
- パソコンの動作中は、正しい手順で電源を切ってください。Windowsが起動しなくなることがあります。

RAIDレベルを変更するには

- RAID0、およびRAID1を構成するには最低2台のハードディスクが必要になります。
- ご購入時のハードディスク構成のみ保証しています。ご購入時の状態からハードディスクを交換、増設し、再セットアップでRAIDを再構成した場合、またはIntel® Matrix Storage Managerの機能を使用してRAIDレベルを変更した場合は動作保証の対象とはなりませんのでご了承ください。

再セットアップしてRAIDレベルを変更する

1 **必要なデータのバックアップを取る**

再セットアップでRAIDレベルを変更すると、ハードディスクに保存されているデータは消去されます。「バックアップ－NX」を使用して、必要なデータのバックアップを取ってください。手順について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップを始める前に」-「データのバックアップを取る」をご覧ください。

2 **再セットアップディスクを作成する**

再セットアップディスクを作成していない場合は、ここで作成してください。手順について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

3 **再セットアップディスクで再セットアップする**

再セットアップディスクで再セットアップをおこない、RAIDレベルを変更します。手順について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」をご覧ください。

4 **バックアップデータを復元する**

再セットアップをおこなった場合は、ハードディスクのデータは消去されています。手順1で作成しておいたバックアップデータを復元してください。

一般的には、ハードディスクを交換、増設してRAIDを構成するためには、すでに取り付けられているハードディスクとまったく同じ容量、もしくは大きい容量のものでなければ設定できません。メーカーが異なると、同じ表示容量のハードディスクでもシステムが認識する容量が異なる場合があるのでご注意ください（ご購入時の状態からハードディスクを交換、増設してRAIDを再構成した場合、またはIntel® Matrix Storage Managerの機能を使用し、再セットアップでRAIDレベルを変更した場合は動作保証の対象外です）。

Intel® Matrix Storage Managerについて

Intel® Matrix Storage Managerは、Windows上で次のことをおこないます。

・RAIDの状態表示
・RAIDの状態が劣化した場合の警告表示
・RAIDの再構築

削除してしまうと、これらの機能が利用できなくなります。Intel Matrix Storage Consoleをアンインストールしないでください。

使い方について詳しくは、Intel® Matrix Storage Managerのヘルプをご覧ください。

・「スタート」-「すべてのプログラム」-「Intel(R) Matrix Storage Manager」-「ヘルプ」

誤ってアンインストールしてしまったら

次の手順で再インストールしてください。

このインストール手順は、インストール可能OS用ドライバが「C:¥DRV¥IMSMUTL」にあることを前提としています。

1 **「スタート」-「ファイル名を指定して実行」をクリック**

2 **「名前」に「C:¥DRV¥IMSMUTL¥SETUP.EXE」と入力し、「OK」をクリック**

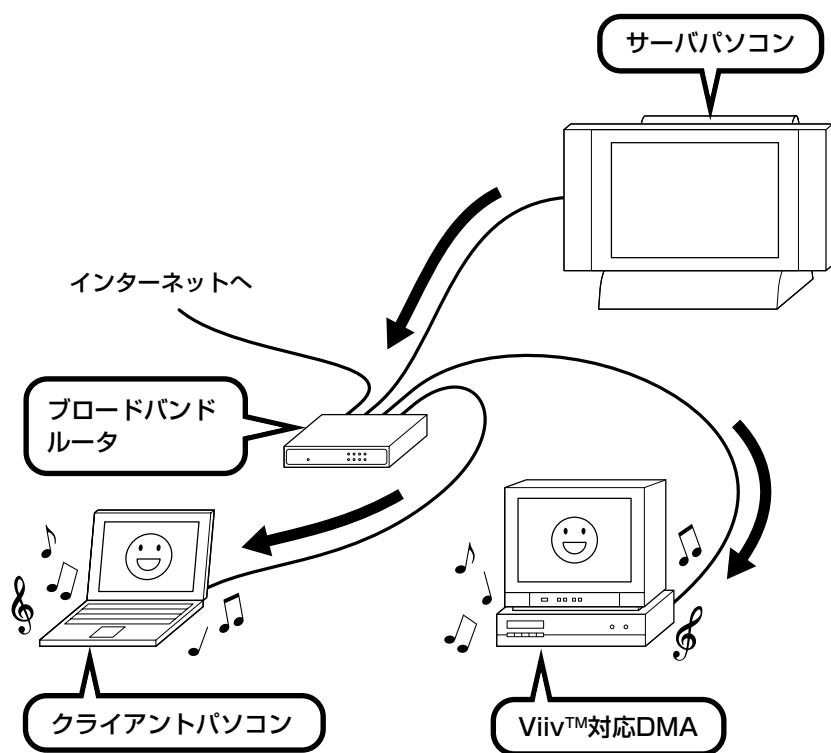
これ以降の操作は画面の指示にしたがってください。

3 **インストールが完了したら、パソコンを再起動する**

Viiv™デジタルメディアサーバを使う

Intel® Viiv™テクノロジーモデルでは、デジタルメディアサーバを設定してコンテンツの配信ができます。

Viiv™デジタルメディアサーバについて

インテル® Viiv™ テクノロジーを使うと、インテル® Viiv™ テクノロジーモデルのパソコンに蓄えられた動画/音楽/静止画を別のパソコンで楽しむことができます。インテル® Viiv™ テクノロジーモデルのパソコンをサーバパソコンとし、クライアントパソコンとネットワークで接続します。

ネットワークの設定について詳しくは、画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

サーバパソコンからクライアントパソコンに配信できるコンテンツは、次のとおりです。

ファイルの種類	配信可能なファイルの形式
動画	MPEG1/MPEG2/MPEG4/DivX3/DivX4/DivX5/WMV/WMV(DRM)/DV-Type1/DV-Type2
静止画	JPEG/GIF/BMP/TIF/PNG
音楽	MP3/WMA/WMA(DRM)/AAC-LC

クライアントパソコンが表中の形式に対応したコーデックを持っていない場合は、動画はMPEG2、音楽はLPCM形式にそれぞれ変換して配信します。静止画の場合は、変換はおこないません。

クライアントパソコンについて

クライアントパソコンには、DLNA（Digital Living Network Alliance）対応ソフトウェアがインストールされている必要があります。
DLNA対応ソフトウェアの情報について詳しくは、Intel®のホームページをご覧ください。

NEC製パソコンでは、2006年4月以降に発売されている製品にインストールされている「MediaGarage」がDLNAに準拠しています。また、それ以前に発売された製品でも2005年9月以降の製品であれば、http://121ware.com/から「MediaGarage」のアップデートモジュールを入手し、適用すればDLNAに対応します。

サーバパソコンを設定する

このパソコン（インテル® Viiv™ テクノロジーモデル）で、サーバの設定（配信先のクライアントパソコンの承認、配信用コンテンツの設定）をおこないます。配信したいコンテンツをパブリックフォルダに置いてから、次の手順で設定をしてください。

1 **「スタート」-「Windows Media Center」をクリック**

Media Center が起動し、メニュー画面が表示されます。

> **ここで「ようこそ」の画面が表示された場合は、Media Center のセットアップをおこなってください。**

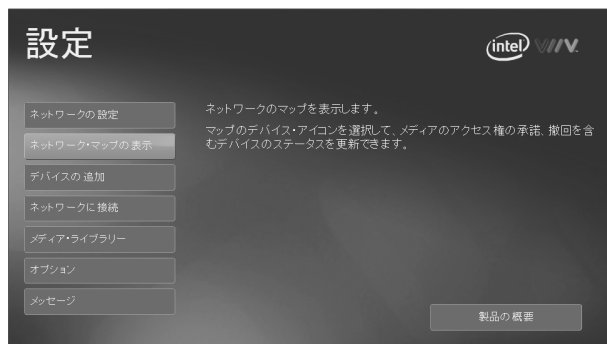
2 **「メディア オンライン」をクリックして、「プログラム ライブラリ」をクリック**

3 **「インテル(R) VIIV(TM) セッティング」をクリック**

「インテル® Viiv™ ソフトウェア使用許諾契約」の画面が表示されます。

> **この画面は、はじめて起動するときのみ表示されます。次回からこの画面は表示されず、手順５の画面が表示されます。**

4 **内容を確認し、「同意する」をクリック**

5 **メニュー画面が表示されたら、[ネットワークマップの表示] をクリック**

6 **「ネットワークマップ」の画面が表示されたらDLNA対応のパソコン（クライアントパソコン）が表示されていることを確認する**

また、このときDLNA対応のパソコンの表示の右上に「？」が表示されていることを確認してください。

7 **DLNA 対応のパソコンの表示をクリックする**

8 **「デバイスの詳細」の画面が表示されたら、[次へ]をクリック**

9 **「デバイスの状態」の画面が表示されたら、「承認」を選択して、[次へ]をクリック**

10 「デバイスの種類を選択」の画面が表示されたら、「コンピューター」を選択して、[次へ]をクリック

11 「デバイスの場所を選択」の画面が表示されたら、DLNA対応のパソコンが設置してある場所を一覧から選択して、「次へ」をクリック

12 「インテル® Viiv™ メディアサーバーへのアクセスを許可する」の画面が表示されたら、「はい」を選択して、「次へ」をクリック

13 「ネットワークマップ」の画面が表示されたら、DLNA対応のパソコンの表示の右上に「？」が表示されていないことを確認する

これでサーバパソコンからクライアントパソコンへのコンテンツ配信許可の設定が終了しました。

クライアントパソコンや再生機器を複数設定する場合は、必要に応じて手順５～１３の操作をおこなってください。

続いて配信用コンテンツの設定をおこないます。

14 「戻る」をクリック

15 メニュー画面が表示されたら、「メディア・ライブラリー」をクリック

16 「準備」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

17 「メディア・ライブラリーに関する注意事項」の画面が表示されたら、内容を確認し、「同意する」をクリックする

18 「設定を選択して実行」の画面が表示されたら、一番上の「パブリック設定…」を選択して、「次へ」をクリック

この設定を使い分けることで、外部に公開するフォルダを変更することができます。パブリックフォルダに加え、マイドキュメントフォルダも公開したい場合は真ん中の標準設定を選択してください。その他、フォルダを自由に決めて公開したい場合は一番下のカスタム設定を選択してください。

「設定の進行中」の画面が表示され、公開設定をしたフォルダ内の配信可能なファイルをスキャンします。

19 「設定が完了しました」の画面が表示されたらサーバパソコンのコンピューター名が表示されていることを確認して、[完了]をクリック

これで配信用コンテンツの設定が終了しました。

Viiv™デジタルメディアサーバを起動する

サーバパソコンの設定が終了したときには、デジタルメディアサーバは起動しています。

1 サーバパソコンのデスクトップ画面右下の通知領域にある を右クリック

2 表示されたメニューで、「メディアサーバーをスタートします」をクリック

デジタルメディアサーバが起動し、クライアントパソコンへコンテンツが配信されます。

クライアントパソコンで視聴する

クライアントパソコンで配信されたコンテンツを視聴する方法は、ご使用のDLNA対応ソフトウェアによって異なります。
詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書等をご覧ください。

Viiv™デジタルメディアサーバを停止する

1 サーバパソコンのデスクトップ画面右下の通知領域にある を右クリック

2 表示されたメニューで、「メディアサーバーを停止します」をクリック

デジタルメディアサーバが停止し、クライアントパソコンへコンテンツ配信が終了します。

Viiv™デジタルメディアサーバ使用上の注意

・Viiv™デジタルメディアサーバのインストール、アンインストール、およびアップデート作業は、管理者ユーザーでログインしておこなってください。標準ユーザー権限ではインストール、アンインストール、およびアップデートできません。

・Viiv™デジタルメディアサーバを起動しているときは、別のメディアサーバを同時に起動しないでください。

・Viiv™セッティング画面で、右クリックで表示されるメニューの上でさらに右クリックすると、左クリックでもメニューが表示されます。
この状態を解除するには【Esc】キーを押してください。

・Viiv™セッティング画面で、全画面表示以外のサイズでマウス操作をおこなうとMedia Center ツールバーでメニューが一部隠れることがあります。

・お使いのファイアウォールソフトによってはViiv™の一部の機能がブロックされる場合があり、その場合はブロックされた機能を手動で解除する必要があります。ブロック解除の方法についてはご使用になられているファイアウォールソフトのマニュアル等をご参照ください。（ウィルスバスター2007をご使用の場合はインターネットに接続しアップデートすることで解決する場合があります）

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

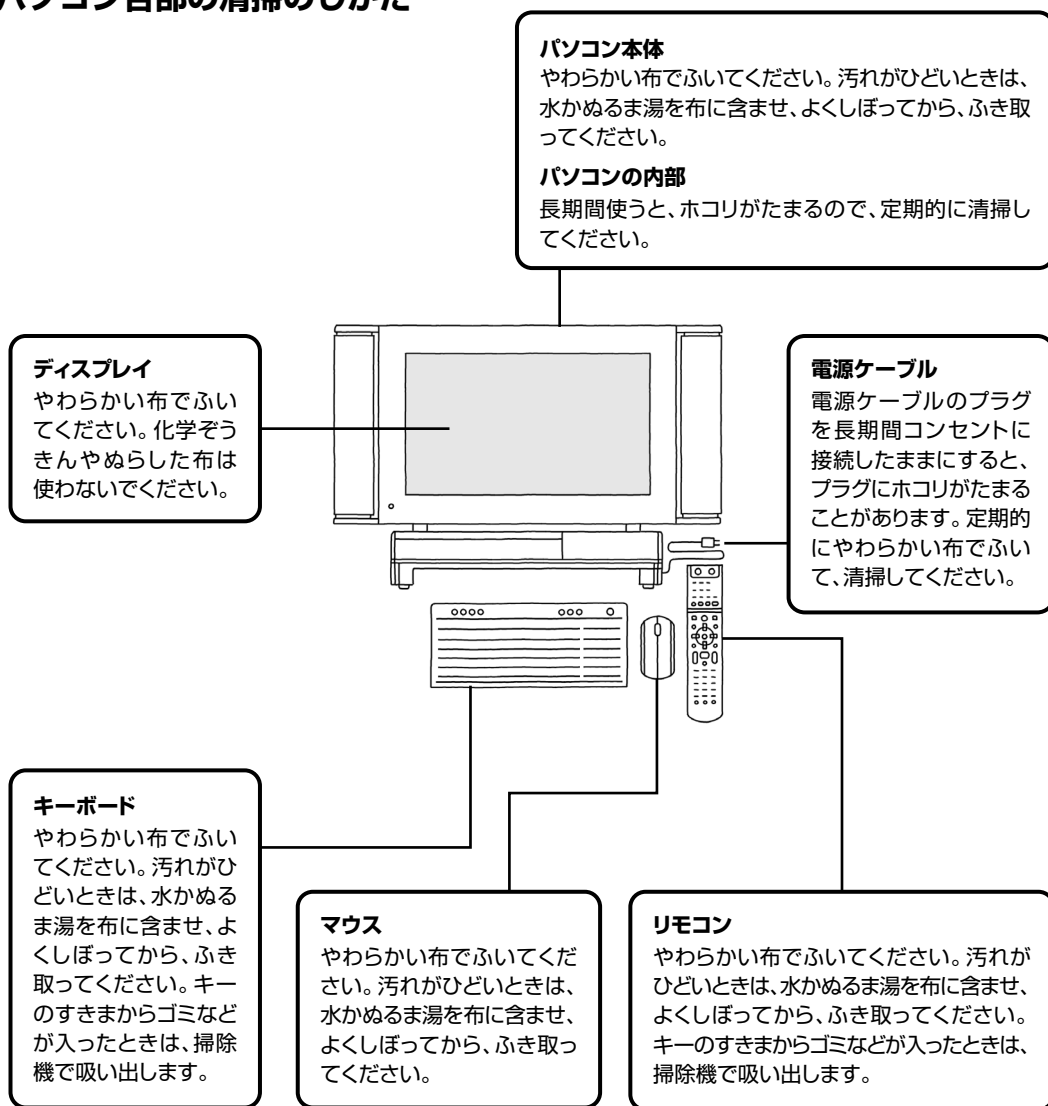
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

- OA用クリーニングキット
- 中性洗剤
- 掃除機など

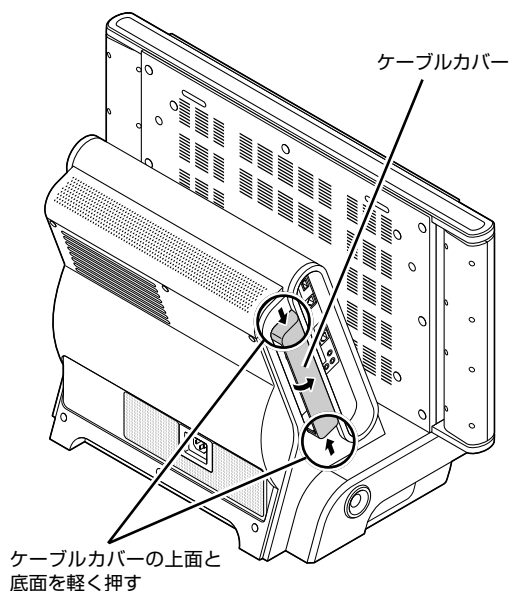
パソコンの電源を切って、電源ケーブルを抜いてから

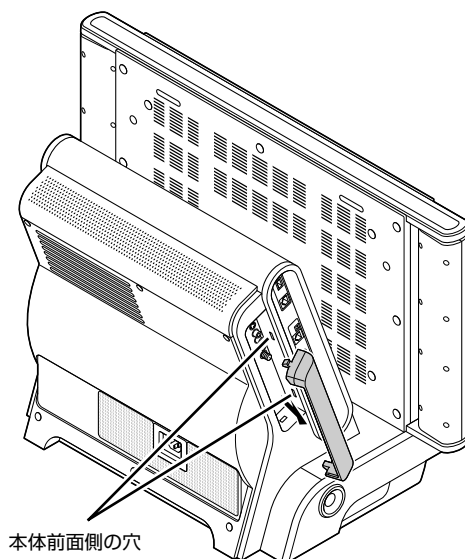
お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（70ページ）の手順で電源を切ってください。電源ケーブルはコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

ケーブルカバーの取り外し方と取り付け方

本体左側面にあるケーブルカバーの取り外し方と取り付け方について説明します。

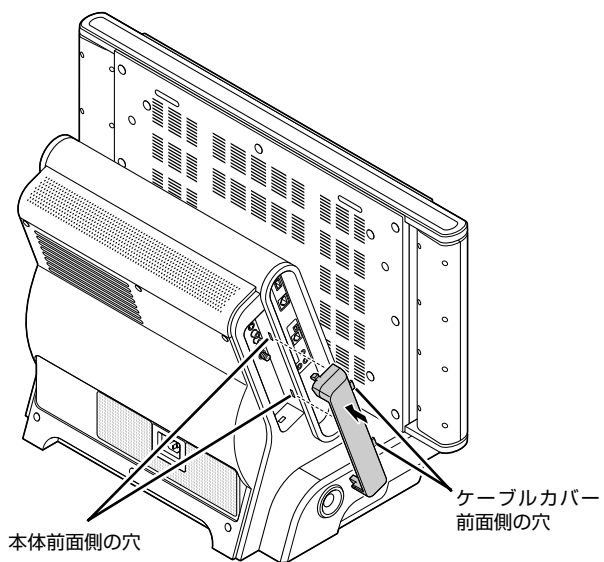
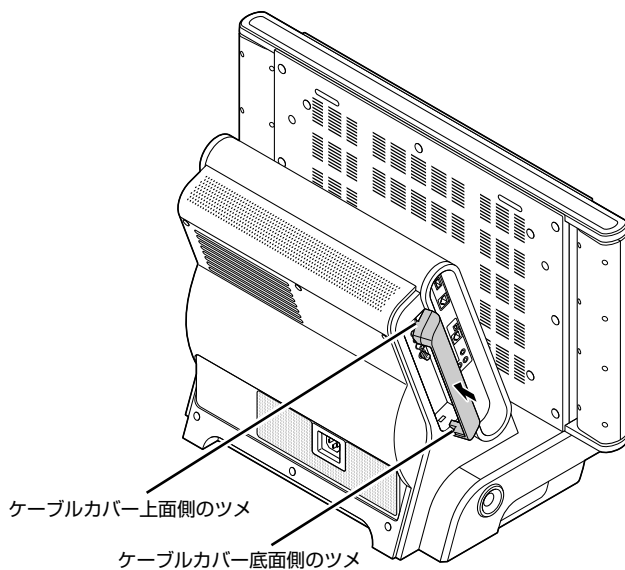
ケーブルカバーの外し方

1　ケーブルカバーの上面と底面を内側に押しながら、本体前面側に開く

ケーブルカバーの上面側と底面側のツメが本体から外れます。

2　ケーブルカバー前面側のツメを本体前面側の穴から外す

ケーブルカバーが外れます。

ケーブルカバーの取り付け方

ケーブルカバーを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

1 ケーブルカバーの前面側のツメを本体前面側の穴にはめる

2 ケーブルカバーを矢印の方向へ押して、上面側と底面側のツメをはめる

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CD ドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

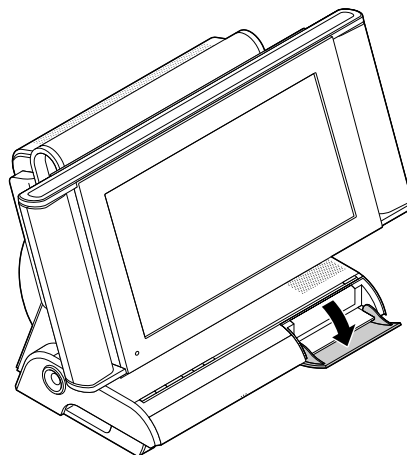
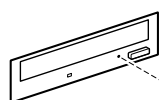
パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

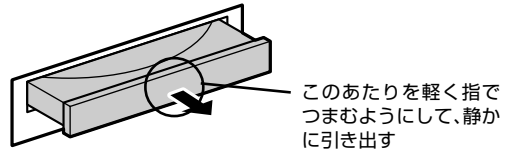
⚠注意

ペーパークリップを使うときは、ペーパークリップのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

1 **太さが 1.3mm 程度、まっすぐな部分の長さが 45mm 程度（指でつまむ部分を除く）の針金を用意する**

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

2 **パソコン前面の DVD/CD ドライブカバーを手前に開ける**

3 **ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、手順１で作った針金を差し込み、強く押し込む**

ディスクトレイが５～ 15mm ほど飛び出します。

4 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

5 ディスクトレイの前面を、もとどおりに収納されるまで押し込む

キーボードとマウスを登録しなおす

キーボード、マウスが動かなくなったときの登録のしかたを説明します。

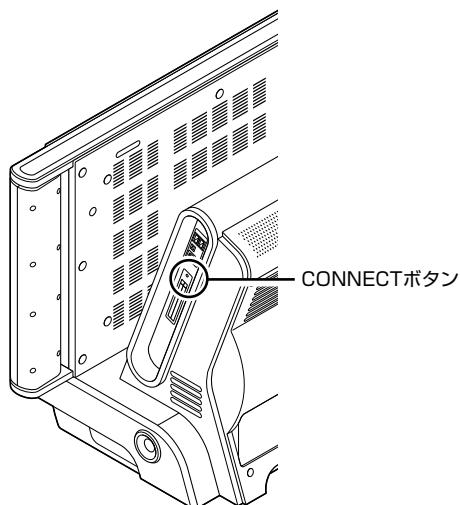
このパソコンのキーボードとマウスは無線でパソコンに信号を送ります。ご購入時には、キーボードとマウスからパソコン本体に信号を送るための登録がされていますが、何らかの原因でキーボードやマウスからの操作ができなくなることがあります。
その場合は、次の手順でキーボードとマウスを登録しなおしてください。
また、パソコンを修理・交換した場合も、登録しなおす必要があります。

キーボードとマウスを連続して登録するときは、一方を登録した後、約30秒間隔をあけて次の登録をおこなってください。

キーボードを登録しなおす

1 **本機の電源が入っていることを確認する**

2 **キーボード裏面にあるON/OFFスイッチを「ON」にする**

3 **シャープペンシルの先などで、パソコン本体の右側面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す**

登録モードになり、ディスプレイ下の3つのランプ（🄰🄰🄰）が点滅します。

4 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから30秒以内に、キーボード裏面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、キーボードが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してキーボードが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

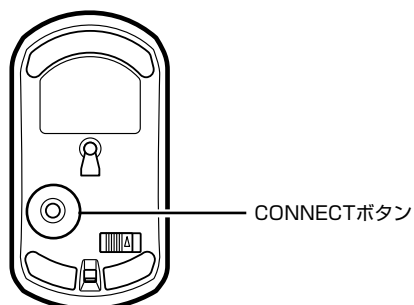
マウスを登録しなおす

1 本機の電源が入っていることを確認する

2 マウス底面にあるON/OFFスイッチを「ON」にする

3 シャープペンシルの先などで、パソコン本体の右側面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

登録モードになり、ディスプレイ下の3つのランプ（1 A 🔒）が点滅します。

4 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから30秒以内に、マウス底面にある「CONNECT」ボタンを約１秒間押す

CONNECTボタンは、２回以上押さないでください。２回以上押すと、マウスが動かなくなることがあります。CONNECT ボタンを２回以上押してマウスが動かなくなったときは、手順１からやりなおしてください。

このパソコンを複数隣接して使用した場合など、ひとつのキーボード、マウスで２台反応したときは、パソコンを置く位置を変更するか、または、以下の操作をおこなってください。

1 どちらか１台のパソコンの電源を切り、電源ケーブルを抜く

2 もう１台で、キーボードとマウスを登録しなおす

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121 コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121ware ガイドブック』をご覧ください。

NEC 121 コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、SDメモリーカード、メモリースティック、バッテリ、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。	ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン

・記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」をご覧ください。

・有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。
　また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。

・本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイアカウント（http://121ware.com/my/）の保有商品情報で削除いただくか、またはEメールアドレス webmaster@121ware.com 宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

- ●はじめて登録するかた
  「新規登録はこちら」をクリックして登録
- ●以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた
  「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録
- ●すでにログインIDをお持ちのかた
  「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号

（本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）

2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日

3. 121ware お客様登録番号

（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先

〒 143-8691　東京都大森郵便局 私書箱５号
NEC121ware 登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PC リサイクルマークが銘板（パソコン本体の左側面または背面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121 コンタクトセンター
回収リサイクルのお問い合わせ　受付時間：9:00 ～ 17:00（年中無休）
フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話、PHSなどフリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担になります）

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリーカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。
このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際に、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。

NECフィールディングホームページURL：http://www.fielding.co.jp/

このパソコンでは、再セットアップディスクを作成して、ハードディスクのデータ消去ができます。詳しくは『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」をご覧ください。

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

VW990/HG、VW790/HG

型名			VW990/HG	VW790/HG
型番			PC-VW990HG	PC-VW790HG
インストールOS・サポートOS			Windows VISTA™ Home Premium 正規版(日本語版)※1※2	
CPU			インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー E6300（1.86GHz）	
	キャッシュメモリ	1次	インストラクション用32KB×2/データ用32KB×2	
		2次	2MB	
バスクロック	システムバス		1066MHz	
	メモリバス		800MHz	
チップセット			インテル® P965 Expressチップセット	
メインメモリ	標準容量／最大容量※4		標準1GB※5(1GB×1:デュアルチャネル対応可能※34)／最大2GB※6[DDR2 SDRAM、PC2-5300対応]	
	スロット数		DIMMスロット×2[空き1]	
表示機能	ディスプレイ[型番]		32型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶) [ディスプレイ本体一体型]	20型ワイド(スーパーシャインビューEX2液晶) [ディスプレイ本体一体型]
	表示寸法(アクティブ表示エリア)		698(W)×392(H)	443(W)×249(H)mm
	画素ピッチ		0.511mm	0.325mm
	LCDドット抜けの割合※10		0.00016%以下	
	表示色(解像度)	本体添付ディスプレイ	最大約1,677万色 (1,360×768ドット、1,024×768ドット※11※12、800×600ドット※11※12)	最大約1,677万色 (1,680×1,050ドット、1,280×1,024ドット※11※12、1,024×768ドット※11※12、800×600ドット※11※12)
	本機のサポートする表示モード※31	デジタルディスプレイ	ー※16	
		アナログディスプレイ	ー※16	
	グラフィックアクセラレータ		NVIDIA社製　GeForce® Go 7600	
	グラフィックスメモリ		511MB※13	
ドライブ	ハードディスクドライブ※18		約800GB(約400GB×2、Serial ATA、 高速7,200回転/分) ＊出荷時RAID0構成となります※20	約320GB(Serial ATA、高速7,200回転/分)
	Windows®システムから認識される容量※19	Cドライブ／空き容量	約46.5GB／約26.4GB	約46.5GB／約26.7GB
		Dドライブ／空き容量	約684GB／約684GB	約237GB／約237GB
	BD/DVD/CDドライブ(詳細は別表をご覧ください)		ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)	
	フロッピーディスクドライブ		ー【別売、専用オプション(型番：PC-AC-DU001C)※21】	
サウンド機能	スピーカ		本体に内蔵(2ウェイサテライトスピーカ内蔵(7.5W+7.5W)、サブウーファ(15W))	
	音源／サラウンド機能		インテル® High Definition Audio 準拠(最大192kHz/24ビット※30 ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能[OS標準])、3Dオーディオ(Direct Sound 3D対応)、マイク機能(ノイズ抑制、音響エコーキャンセル、ビームフォーミング)	
	サウンドチップ		RealTek社製 ALC262搭載	
通信機能	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応	
	FAXモデム※24		データ通信：最大56Kbps※25(V.90対応)／FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応	
TV機能(詳細は別表をご覧ください)			ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ、 地上デジタル、BS・110度CSデジタル放送対応※28	ハードウェアＭＰＥＧ２リアルタイムエンコーダ、 地上デジタル放送対応※28
入力装置	キーボード		ワイヤレスキーボード※37※38※39(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き)	
	マウス		光センサーワイヤレスマウス※37※39※40(スクロール機能付き)	
	リモコン		赤外線リモコン※39	

型名			VW990/HG	VW790/HG
外部インターフェイス	USB※32		コネクタ4ピン×4[USB 2.0]	
	IEEE1394(DV)		4ピン×2	
	FAXモデム		RJ11モジュラコネクタ×1(LINE×1)	
	LAN		RJ45コネクタ×1	
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角型×1※47	角型×1※33
		ライン入力	ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス　64KΩ、入力レベル　1Vrms)	
		ライン出力	ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス　47KΩ、入力レベル　1Vrms　ヘッドフォン出力としても使用可能)	
		マイク入力	ステレオミニジャック×1※3(マイク入力インピーダンス　64KΩ、入力レベル100mVrms(マイクブースト有効時は5mVrms)、バイアス電圧　2.5V)	
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」出力電力　5mW/32Ω)	
	カードスロット	メモリーカード	トリプルメモリースロット×1※7※8※9[SDメモリーカード(SDHCメモリーカード)、メモリースティック(メモリースティック PRO)、xD-ピクチャーカード※14]	
		PCカード	TypeⅡ×2(TypeⅢ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応	
外形寸法	本体(突起部除く)		960(W)×360(D)×604(H)mm(ディスプレイ直立時) 960(W)×360(D)×615(H)mm(ディスプレイ最大傾斜時) 960(W)×360(D)×624(H)mm(ガジェットスペース用スタンド装着時)	702(W)×360(D)×469(H)mm(ディスプレイ直立時) 702(W)×360(D)×485(H)mm(ディスプレイ最大傾斜時) 702(W)×360(D)×527(H)mm(ガジェットスペース用スタンド装着時)
	キーボード		396(W)×172(D)×29(H)mm	
	リモコン		53(W)×225(D)×29(H)mm	
質量	本体		約39kg	約29kg
	キーボード/マウス/リモコン		約770g※15/約80g※15/約130g※15	
電源			AC100V±10%、50/60Hz	
消費電力	標準/最大/スリープ状態時		約221W/約315W/約17W※17	約143W/約236W/約19W※17
エネルギー消費効率(2007年度省エネ基準達成率)※22			i区分 0.0023(AAA)	i区分 0.0021(AAA)
電波障害対策			VCCI ClassB	
温湿度条件			10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)	
主な添付品			マニュアル、B-CASカード、ガジェットスペース用スタンド、電源ケーブル、電話回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ:4本、単四マンガン:2本)	

BD/DVD/CD ドライブ仕様一覧

ドライブ	ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)※23
BD-R書込み ※45	最大2倍速
BD-RE書換え ※46	最大2倍速
BD読出し ※45	最大2倍速
DVD-RAM読出し※26	最大5倍速
DVD-RAM書換え※26※27	最大5倍速※48
DVD+R(1層)書込み	最大8倍速
DVD+R (2層)書込み※29	最大4倍速
DVD+RW書換え	最大8倍速
DVD-R(1層)書込み※35	最大8倍速
DVD-R(2層)書込み※36※41	最大4倍速
DVD-RW書換え※42	最大6倍速
DVD読出し	最大8倍速
CD読出し※43	最大32倍速
CD-R書込み	最大24倍速
CD-RW書換え※44	最大10倍速

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよび利用することはできません。
※　2：ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
※　3：パソコン用マイクとして市販されているコンデンサマイクやヘッドセットを推奨します。
※　4：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
※　5：ビデオRAMは、メインメモリを使用します。
※　6：最大メモリ容量にする場合、本体に実装されているメモリを取り外して、増設メモリ（PC2-5300対応、DDR2-667MHzメモリ）［1GB］を2枚実装する必要があります。増設メモリは、PC-AC-ME019C（512MB）、PC-AC-ME020C（1GB）を推奨します。
※　7：「miniSD™/microSD™カード」をご使用の場合には、「miniSD™/microSD™カード」カードアダプタをご利用ください。microSD→miniSDアダプタ→SDアダプタの2サイズ変換には対応しません。詳しくは「miniSD™/microSD™カード」の取扱説明書をご覧ください。「SDIOカード」には対応してません。「SDHCメモリーカード」はご利用できません。
※　8：著作権保護機能には対応しておりません。「マジックゲート」機能には対応しておりません。SD/SDHCメモリーカードの、著作権保護機能には対応しておりません。「メモリースティックDuo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご覧ください。
※　9：メモリースティック、SDメモリーカード、xD-ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。
※ 10： ISO13406-2の基準にしたがって、副画素（サブピクセル）単位で計算しています。
※ 11：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
※ 12：画面が横方向に拡大されて表示されます。
※ 13：マザーボード上に256MB搭載（DDR3-SDRAM採用）。また、メインメモリからも使用することができ、搭載するメインメモリの容量によって使用可能なグラフィックスメモリの総計は異なります。使用可能なグラフィックスメモリの総計とは、新たにWindows Vistaで分類されたグラフィックスメモリを意味します。グラフィックスメモリには専用ビデオメモリ、システムビデオメモリ及び共有システムメモリすべてを含みます。
※ 14：xD-ピクチャーカードの著作権保護機能には対応しておりません。
※ 15：乾電池の質量は含まれておりません。
※ 16：本機には外付けディスプレイの接続はできません。
※ 17：設定変更により休止状態および電源オフ時、約7Wにすることが可能です。
※ 18：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
※ 19：右記以外の容量は再セットアップ用領域として占有されます。
※ 20：再セットアップによりRAID1への変更が可能。HDDの設定変更によって発生した不具合については保証・サポートの対象外になります。
※ 21：2モード（720KB/1.44MB）に対応しています（ただし、720KBモードのフォーマットは不可です）。
※ 22：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
※ 23：使用するディスクによっては、一部の書込み／読出し速度に対応していない場合があります。
※ 24：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
※ 25：最大56Kbpsはデータ受信時の理論上の最大速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
※ 26：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2（片面4.7GB）に準拠したメディアに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※ 27：DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB）の読み出し／書換えはサポートしておりません。
※ 28：出荷時の解像度以外ではTV機能を利用できません。
※ 29：DVD+R 2層書込みはDVD+R（2層）ディスクのみに対応しています。
※ 30：使用可能な量子化ビットやサンプリングレートは、OSや使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※ 31：グラフィックアクセラレータのサポートする表示モードです。実際に表示できるモードは接続するディスプレイにより異なります。
※ 32：USBポートの電源供給能力は、1ポートあたり動作時は最大500mA、スリープ時は数十mA程度です。これ以上の電流を消費するバスパワードのUSB機器は電源の寿命を低下させるおそれがありますので接続しないでください。
※ 33：地上アナログ放送、地上デジタル放送における音声は出力できません。
※ 34：本体に実装されているメモリと同容量/同仕様のメモリを2スロットに増設した場合、デュアルチャネルとなります。
※ 35：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※ 36：DVD-R 2層書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※ 37：金属製の机の上などで使用した場合に、動作に影響することがあります。木製の机などの上でのご利用をおすすめします。
※ 38：キーボードの使用時間は連続使用で約300時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 39：使用可能な距離は約3mです（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 40：マウスの電池寿命はアルカリ電池を使用し、約2.5ヵ月間使用可能です。マウスを連続して操作した場合は、アルカリ電池で最大約60時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 41：作成したDVD-R（2層）ディスクについては、当社製パソコンに搭載されているDVD-R（2層）対応ドライブでのみ読出しが可能です。
※ 42：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したメディアの書換えに対応しています。
※ 43：SuperAudio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読出し可能です。
※ 44：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
※ 45：BD-R Ver.1.1に準拠したディスクに対応しています。
※ 46：BD-RE Ver.2.1に準拠したディスクの書込みに対応しています。カートリッジタイプのブルーレイディスクには対応しておりません。
※ 47：地上アナログ放送、地上デジタル放送、BS・110度CSデジタル放送における音声は出力できません。
※ 48：DVD-RAM12倍速メディアの書込みはサポートしておりません。

TV機能仕様一覧

型名			VW990/HG	VW790/HG
型番			PC-VW990HG	PC-VW790HG
映像関連機能	TVチューナ		地上デジタル放送※1、BSデジタル放送※2、110度CSデジタル放送※2、地上アナログ放送(音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1～12ch)、UHF(13～62ch)、CATV(C13～C38)※3)	地上デジタル放送※1、地上アナログ放送(音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1～12ch)、UHF(13～62ch)、CATV(C13～C38)※3)
	データ放送受信		地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送、地上アナログデータ放送(ADAMS-EPG)、字幕放送	地上デジタル放送、地上アナログデータ放送(ADAMS-EPG)、字幕放送
	TV録画機能	地上アナログ放送	MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))の録画可能	
		地上デジタル放送	独自形式(デジタルハイビジョンTV放送(約15Mbps)、デジタル標準TV放送(約8Mbps))の録画可能	
			以下のアナログ放送画質への画質変換録画が可能 MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR)	
		BSデジタル放送、110度CSデジタル放送	独自形式(デジタルハイビジョンTV放送(約24Mbps)、デジタル標準TV放送(約12Mbps))の録画可能	ー
			以下のアナログ放送画質への画質変換録画が可能 MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR)	
	同時録画機能		地上アナログ放送とデジタル放送(地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送のいずれか)の組み合わせで2番組までの同時録画可能※4	地上アナログ放送と地上デジタル放送の組み合わせで2番組までの同時録画可能※4
	高画質機能		VISITAL	
映像・サウンド関連インターフェイス	ビデオ入力		コンポーネント(D4映像)入力端子×1(側面×1、画面表示のみ)、Sビデオ入力端子×2(前面×1、側面×1、前面の1系統は画面表示のみ)※5、コンポジットビデオ入力端子×2(前面×1、側面×1、前面の1系統は画面表示のみ)※5	Sビデオ入力端子×1(側面×1)※5、コンポジットビデオ入力端子×1(側面×1)※5
	ビデオオーディオ入力端子(L/R)		3系統(前面×1、側面×2、側面の1系統以外は再生のみ)	1系統(側面×1)
	地上アナログ・デジタル放送アンテナ入力		F型同軸×1	
	BS・110度CSデジタル放送アンテナ入力		F型同軸×1	－
	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力		角型×1※6※7	－
	B-CASカードスロット		専用×1	
最長録画時間	地上アナログ放送	高画質モード	約204時間	約74時間
		標準画質モード	約397時間	約146時間
		長時間モード	約756時間	約278時間
		超長時間モード	約1181時間	約434時間
	地上デジタル放送	デジタルハイビジョンTV放送	約110時間	約39時間
		デジタル標準TV放送	約207時間	約74時間
		アナログ画質(超長時間モード)	約1181時間	約434時間
	BSデジタル放送・110度CSデジタル放送	デジタルハイビジョンTV放送	約64時間	ー
		デジタル標準TV放送	約129時間	ー
		アナログ画質(超長時間モード)	約1181時間	ー

※　1：ケーブルテレビ会社経由で地上デジタル放送を受信する場合、再配信されている地上デジタル放送信号が同一周波数パススルー方式および周波数変換パススルー方式の場合は地上デジタル放送を視聴可能です。その他の方式(トランスモジュレーション方式など)では視聴できません。再配信されている地上デジタル放送の方式に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。

※　2：ケーブルテレビ会社経由でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかどうかは、ケーブルテレビ会社により異なります。ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。

※　３：ケーブルテレビの受信チャンネル表記は、（社）電子情報技術産業協会規格（CPR-4103）の表記に基づきます。実際のケーブルテレビ受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
本製品をケーブルテレビ回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。
また、本製品は、記載されたケーブルテレビ周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限（スクランブル）を施されているため、本製品で直接受信することはできません。
この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。
ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。
詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。なお、CATV（C13-C38）はSmartVisionのみで視聴できます。

※　４：デジタル放送をアナログ放送画質へ変換して録画している時は同時録画できません。

※　５：Ｓビデオ入力端子とコンポジットビデオ入力端子の利用は排他になります。また、表示の優先順位はＳビデオ入力端子 → コンポジットビデオ入力端子の順になります。

※　６：SmartVisionの映像音声（AAC 5.1chもしくはPCM 2ch）を出力します。

※　７：放送内容によりサンプリング周波数32KHz、44.1KHzあるいは48KHzで出力します。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

FAXモデム仕様一覧

項目		規格
適用回線		加入電話回線
ダイヤル方式		パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T　G3ファクシミリ装置
	同期方式	半2重調歩同期方式
	通信規格※1	ITU-T V.17:14,400 / 12,000 / 9,600 / 7,200 bps V.29:9,600 / 7,200 bps V.27ter:4,800 / 2,400 bps V.21 ch2:300 bps
	送信レベル	-10 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm)
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)
データモデム機能	同期方式	全2重調歩同期方式
	通信規格※1	ITU-T V.90:56,000 ～ 28,000 bps※2 V.34:33,600 ～ 2,400 bps V.32bis:14,400 ～ 4,800 bps V.32:9,600 ～ 4,800 bps V.22bis:2,400 / 1,200 bps V.22:1,200 / 600 bps V.21:300 bps
	エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class 4
	データ圧縮	ITU-T V.42 MNP class 5
	送信レベル	-10 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm)
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	Hayes ATコマンド準拠※3

※　1：回線状態によっては通信速度が変わる場合があります。
※　2：送信時は33,600～2,400bpsになります。
※　3：ATコマンドについては、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ATコマンド」をご覧ください。

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

リモコン仕様一覧

外形寸法	53 (W) × 225 (D) × 29 (H) mm
質量	約 130g (電池含まず)
通信方式	赤外線通信方式
赤外線到達距離	3m 以内
電池	単４形乾電池２本

その他のご注意

[著作権に関するご注意]

・ お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
・ お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[TV視聴／録画について]

・ 地上デジタル・BSデジタル・CSデジタル放送対応のチューナを本商品のビデオ入力端子（モニタ入力端子を除く）に接続した場合、「一回だけ録画可能」の番組などのコピー制御された番組を録画、タイムシフト試聴することが可能です。
・ TVをご覧いただくためにはご家庭のアンテナケーブル（別売）と接続する必要があります。
・ TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースタが必要になる場合があります。また、ケーブルテレビをご利用の場合は、ADAMS-EPGのデータ放送が受信可能かどうか、ご利用のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。
・ 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。

[電波に関するご注意]

〈ワイヤレスマウス、ワイヤレスキーボード対応商品〉

・ 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因となる恐れがあります。
・ 埋め込み型心臓ペースメーカを装備されている方は、本商品をペースメーカから30cm以上離して使用してください。

[DVD/CDの読み込み／書き込みについて]

・ ブルーレイディスクでは著作権保護されたコンテンツを録画・再生するために、次世代著作権保護技術AACS（Advanced Access Content System）を採用しています。ブルーレイディスクを継続的にお楽しみいただくためには、本機に含まれているAACS鍵を更新することが必要です。AACS鍵は録画・再生ソフトウェアが表示するメッセージに従い、インターネットに接続することで更新することができます。更新しない場合には、著作権保護されたコンテンツの録画・再生ができなくなる場合があります。なお、著作権保護されていないコンテンツの録画・再生には支障はありません。今後、AACS鍵の提供に関する必要な情報は、ホームページ http://121ware.com/support/ にてお知らせいたします。
・ ブルーレイディスクの再生には、「InterVideo WinDVD BDTM for NEC」を使用してください。
・ 市販のブルーレイディスクコンテンツ（BD-ROM）で、地域（リージョンコード）の設定が［A］のディスクや、本商品にプリインストールされている「SmartVision」および「Ulead® DVD MovieWriter® for NEC Ver.5」で作成したBDAV形式のブルーレイディスクを再生することができます。
・ DVDビデオの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96KHz/24bit）で記録されている20KHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。DVDレコーダや他のパソコンで作成したDVDは、再生できないことがあります。
・ ブルーレイディスクの再生はソフトウエアを用いて再生しているため、ディスクによっては、操作および機能に制限があったり、CPU負荷などのハードウェア資源の関係で、音がとぎれたり、コマ落ちする場合があります。
・ テレビ番組を録画中は、ブルーレイディスクを再生しないでください。再生およびテレビ番組の録画が正しく動作しない場合があります。
・ BD-REディスクに記録できる番組数は最大200番組です。
・ 地上アナログ放送やスカパー!など本機の入力端子を使用して録画したタイトルにコピー禁止信号が含まれている場合は、著作権保護技術（AACS）の規定により、ブルーレイディスクへのムーブができません。
・ このパソコンで書き込まれたディスクは、他のパソコンや機器では動作しない場合があります。
・ コピーコントロールCDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。
・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
・ 12cmDVD/CD、8cm音楽CDのみ使用できます（ブルーレイディスクドライブモデルでは、AVCHD形式のDVDの再生もできます）。その他の8cmDVD/CD、ハート形、カード形などの特殊形状をしたCDはサポート対象外となります。
・ 設定した書込み、書換え速度を実現するためには、書込み、書換え速度に応じたメディアが必要になります。
・ ライティングソフトウェアが表示する書込み予想時間と異なる場合があります。
・ 作成したDVDは家庭用のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブ搭載パソコンで再生できますが、一部のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。また、メディアやプレーヤの状態により再生できないことがあります。
・ ソフトウェアによっては書込み速度設定において最大速度を表示しない場合があります。

[周辺機器接続について]

・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
・ 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。
・ USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。
・ IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。
・ 他社製増設機器、および増設機器に添付のソフトウェアにつきましては、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
・ 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

「サポートナビゲーター」詳細目次

安心安全に使う

●121wareお客様登録

●安全に使うためのポイント

- 121 ポップリンクを活用しよう
- セキュリティ対策の必要性
- ご購入時のセキュリティの状態
- ほかのセキュリティソフトを使う場合
- Internet Explorerのセキュリティ設定
- 個人情報はしっかり管理
- ホームページを見るときの注意
- お子様を有害ホームページから守るために
- フィッシング詐欺対策

●ウイルス感染の防止

- ウイルスって何？
- ウイルス対策ソフトを使い始める
- ウイルス対策ソフトを更新する
- ウイルスを見張る
- ウイルスをチェックする
- ソフトのセキュリティを強化する
- 感染しないためには
- 感染したかな？と思ったら
- 感染してしまったら
- メッセージが表示されたら

●不正アクセスの防止

- 不正アクセスって何？
- ファイアウォールでブロック
- ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能で監視する
- Windows ファイアウォールで監視する
- ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能におけるセキュリティレベル
- ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能でのアクセス許可設定
- ファイアウォールの警告メッセージ
- アクセスブロックを解除する

●Windowsを更新する

- Windowsの自動更新
- Windows Updateを使って手動で更新する
- Officeを更新する
- Microsoft Updateとは

●ワイヤレスLANを安全に使う

- ワイヤレスLAN（無線LAN）とは
- ワイヤレスLANを安全に使うために
- ワイヤレスLANの設定をする

●NECが取り組むエコ

- NECのリフレッシュPC
- パソコン作りでのエコ
- ecotonoha（エコトノハ）で楽しいエコ
- あなたにもできるエコ

使いこなす

●パソコン各部の説明

・パソコンの機能
・パソコンにつなげる

●ソフトの紹介

・ソフト一覧
・ソフトの追加と削除

●Windowsの操作

▼使いやすい設定に変更する
・安定した状態で使うには
・マウスポインタ（矢印）の速度を変える
・ダブルクリックの速度を変える
・ダブルクリックの代わりの操作をする
・マウスを左きき用にする
・Internet Explorer を使いやすくする
・コントロール パネルを表示する
・デバイス マネージャを表示する
・日付と時刻を合わせる
・ウィンドウの開き方を変える
・画面をクラシック表示にする
・パソコン画面のデザインを変える
・起動時やエラー時の音を変える
・ドライブ番号を変える
▼使いこなすためのコツ
・パソコンのいろいろな終了方法
・ソフトをすばやく起動する
・ドラッグ＆ドロップを使いこなす
・ショートカットキーを使いこなす
・住所の入力を楽にする（郵便番号辞書）
・よく使う言葉を登録しておく（単語登録）
・入力方式を選ぶ
・IME 言語バーを表示する
▼ファイルの使い方
・ファイルとフォルダの基礎知識
・「エクスプローラ」でファイルを操作する
・「エクスプローラ」のさまざまな機能
・ファイルを探す
・便利な検索機能を活用する
・ファイルやソフトをスタートメニューに表示する
・ファイルのバックアップと復元
・システムの状態を復元する
▼みんなで 1 台のパソコンを使う
・みんなでパソコンを使う
・パスワードを設定する
・ユーザーを追加する
・「ユーザーの切り替え」を使う
・ファイルを共有して使う

●週刊ぱそらいふ

解決する

●困ったときには

- 大切なのは、おちつくこと
- 急にパソコンが動かなくなったら
- 突然、見知らぬ画面が表示されたら
- ソフトの使い方を知りたい
- ハードウェアについて知りたい
- 知りたい情報を検索するには

● Q&A 一覧

●最新情報はインターネットで

- 修正プログラムを探す
- 最新の Q&A を探す
- ウイルス／セキュリティ情報を確認する
- NEC 以外のホームページで探す

●電話で問い合わせる

- 電話をかける前の準備
- リモートサポートを利用する
- パソコンの使い方を相談する

● NEC のサポート・サービス

●トラブル解決ナビ

索 引

英数字

121ware.com ---------- 65
121 コンタクトセンター ---------- 3
121 ポップリンク ---------- 39
ADSL ---------- 101
B-CAS カード ---------- 10、14
BIGLOBE ---------- 104
【CapsLock】 ---------- 87
CATV ---------- 101
CD-ROM の扱い方 ---------- 81
CD/ ハードディスクアクセスランプ ---------- 78
DVD/CD ドライブ ---------- 78、180
FTTH ---------- 101
ISDN ---------- 101
LAN ---------- 135
LAN ケーブル ---------- 108、112
Media Center ---------- 49
【NumLock】 ---------- 79、87
RAID 機能 ---------- 162
【Shift】 ---------- 87
Windows Media Center ---------- 49

あ行

アナログ回線への接続 ---------- 104
アンテナ線 ---------- 11、152
アンテナ線の接続 ---------- 12
インターネットの接続方法 ---------- 101
ウイルス ---------- 120
ウイルスチェック ---------- 120
お客様登録 ---------- 65
音量の調節 ---------- 80

か行

各部の名称 ---------- 巻末
型番 ---------- 4
キーボード ---------- 15、79、84、87、182
キーボードの収納 ---------- 84
クリック ---------- 32

さ行

再セットアップ ---------- 96
再セットアップディスク ---------- 96
サポートナビゲーター ---------- 91
シャットダウン ---------- 70
周辺機器の移行 ---------- 131
受信レベル ---------- 62
省電力機能 ---------- 74
スリープ状態 ---------- 74
製造番号 ---------- 4
セキュリティ対策 ---------- 119
セットアップ作業 ---------- 27
増設 RAM ボード ---------- 140
ソフトナビゲーター ---------- 88
ソフトの移行 ---------- 132

た行

ダイヤルアップ接続 ------------------- 101、127
データの移行 -- 128
データのバックアップ ---------------------------- 96
デスクトップ画面------------------------------------ 45
テレビの設定 --- 49
電源スイッチ -------------------------- 28、78、79
電源の取り方 ---7
電源ランプ --- 78
電源を入れる --- 28
電源を切る --- 70
電話回線ケーブル------------------------ 101、104

は行

ハイブリッドスリープ ---------------------------- 74
パスワード --- 47
パソコン各部の説明 -------------------------------- 94
パソコンのいろは３ -------------------------------- 87
パソコンの置き場所 ------------------------------------5
パソコンを終了する -------------------------------- 68
バックアップ --- 96
ブロードバンド接続
--------------------------- 101、102、108、126
プロバイダ -- 102
ホームネットワーク ----------------------------- 134
保証書 --4
ボリュームボタン------------------------------------ 79

ま行

マウス--- 18、182
マウスの動かし方------------------------------------ 31
メールソフトの設定 ------------------------------ 115
メモリ -- 140

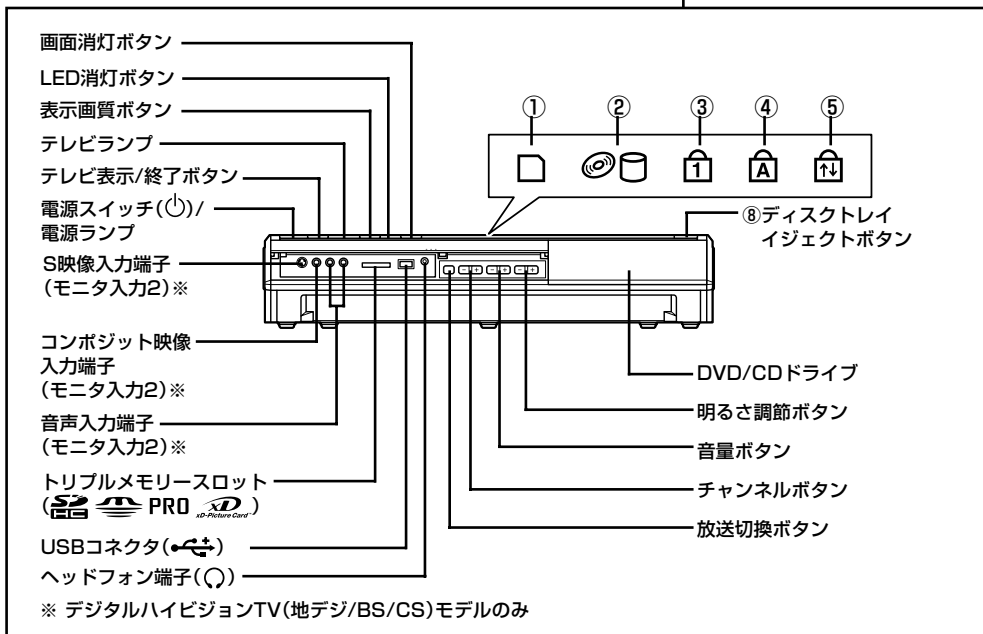
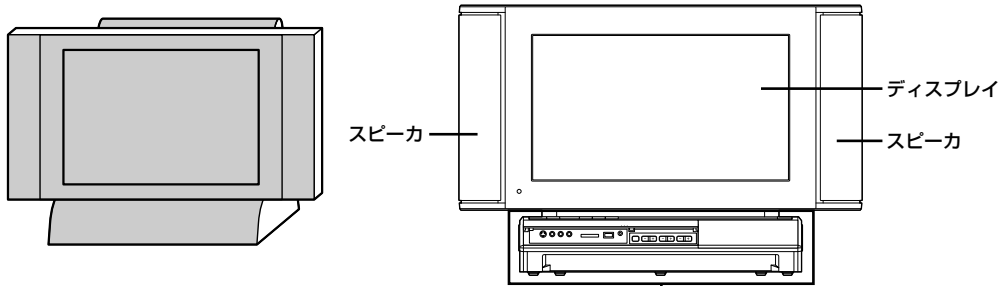
ら行

ライセンス -- 132
ライセンス条項 -------------------------------------- 33
リモコン -- 21
ルータ --- 108

わ行

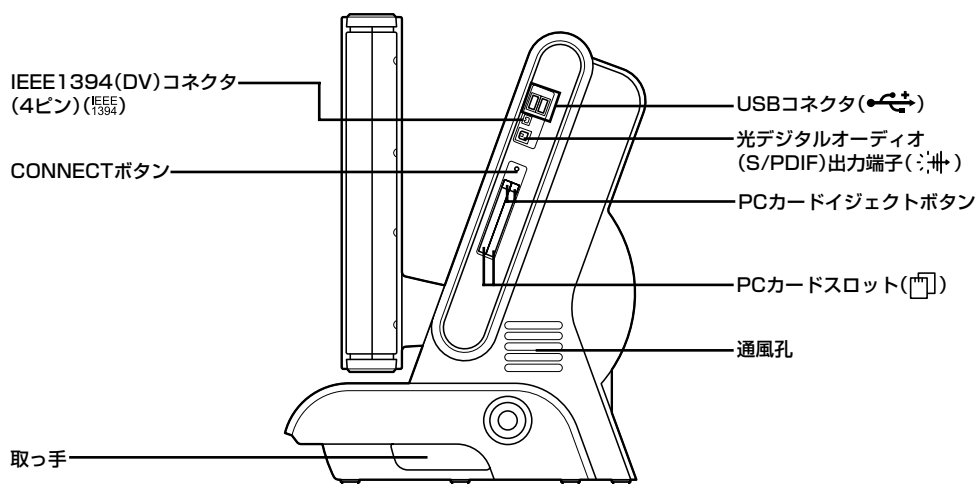
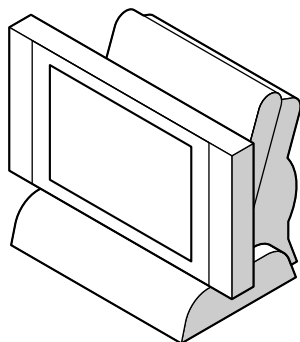
ワンタッチスタートボタン ----------------------- 79

各部の名称(1)

● 本体前面 ●

①トリプルメモリースロットアクセスランプ
②CD/ハードディスクアクセスランプ
③ニューメリックロックキーランプ
④キャップスロックキーランプ
⑤スクロールロックキーランプ

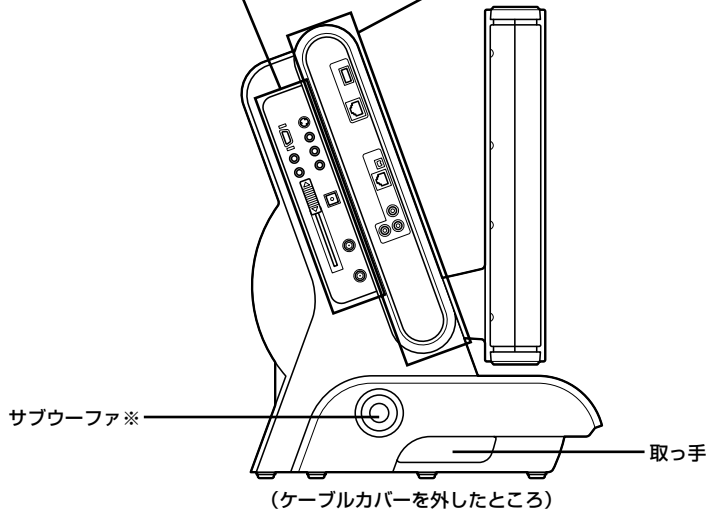
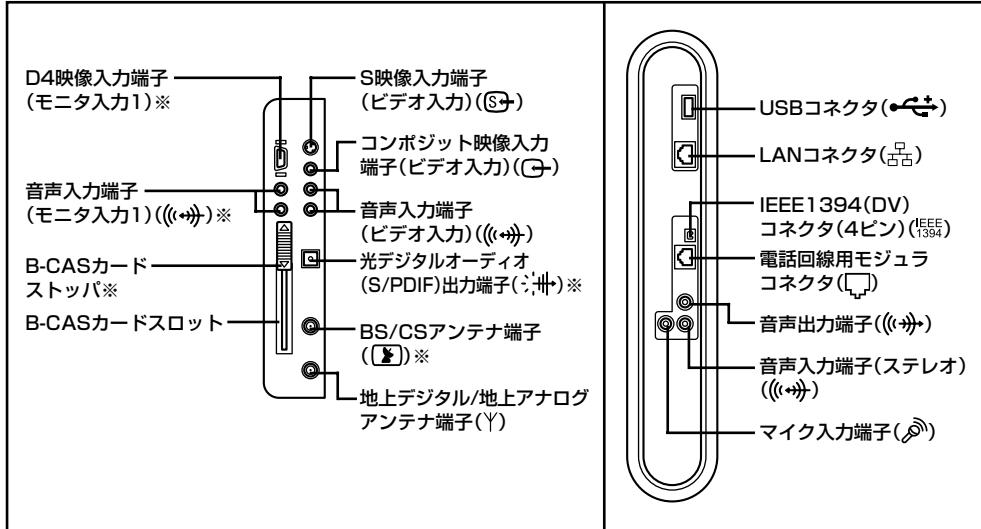
詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称(2)

● 本体右側面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

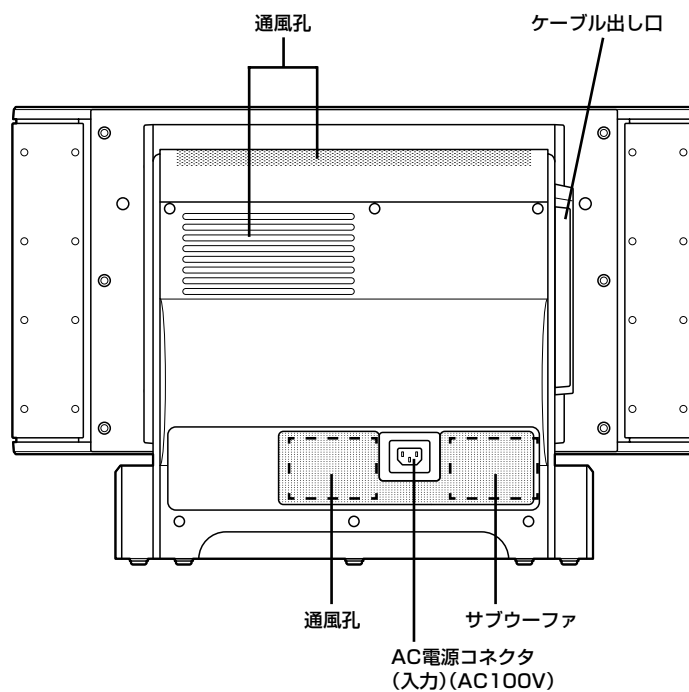
各部の名称(3)

● 本体左側面 ●

(ケーブルカバーを外したところ)

※ デジタルハイビジョンTV(地デジ/BS/CS)モデルのみ

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称(4)

● 本体背面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

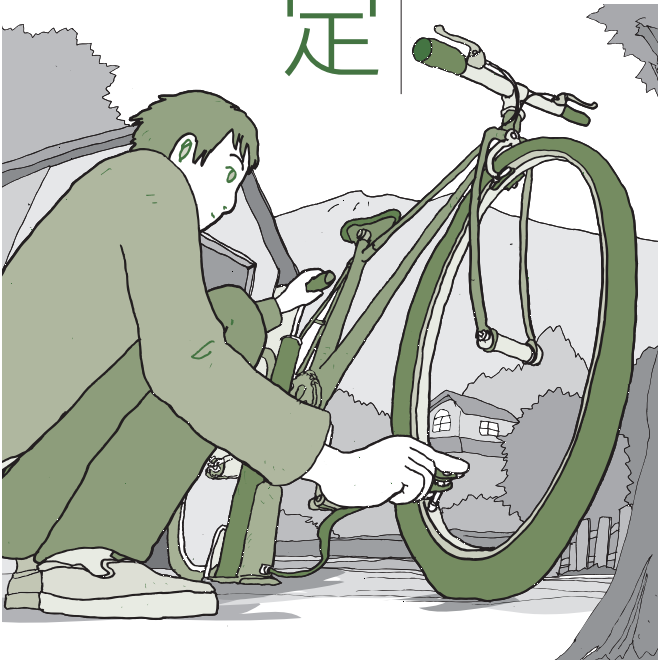
● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。
デスクトップにある サポートナビゲーター(電子マニュアル) をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の３種類の説明を利用してください。

▶ 安心安全に使う	インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
▶ 使いこなす	Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。
▶ 解決する	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

2

準備と設定

初版 2007年1月
NEC
853-810601-607-A2
Printed in Japan

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙(古紙率:表紙70%、本文100%)を使用しています。